

# JICA中部 2025年度 開発教育指導者研修(実践編) 報告書

## 第1回



## 第2回



## 第3回



独立行政法人 国際協力機構 中部センター (JICA中部)

# 目次

## 巻頭グラフ

|      |                          |    |
|------|--------------------------|----|
| I    | 開発教育指導者研修（実践編）の概要        | 1  |
| 1    | • 目的                     |    |
| 1    | • 内容                     |    |
| II   | 開発教育指導者研修（実践編）第1回        | 3  |
| 3    | • 開催概要、第1回のねらい           |    |
| 3    | • プログラムの内容               |    |
| III  | 開発教育指導者研修（実践編）第2回        | 13 |
| 13   | • 開催概要、第2回のねらい           |    |
| 13   | • プログラムの内容               |    |
| IV   | 開発教育指導者研修（実践編）第3回        | 21 |
| 21   | • 開催概要、第3回のねらい           |    |
| 21   | • プログラムの内容               |    |
| V    | 中間会合                     | 32 |
| 32   | • 開催概要、ねらい               |    |
| 32   | • プログラムの内容               |    |
| VI   | 実践報告シート                  | 33 |
| 33   | • 実践報告シート一覧              |    |
| 34   | • 実践報告シート36人分            |    |
| VII  | 開発教育指導者研修（実践編）第4回        | 70 |
| 70   | • 開催概要、第4回のねらい           |    |
| 70   | • プログラムの内容               |    |
| VIII | 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2026 | 74 |
| 74   | • 開催概要、ねらい               |    |
| 74   | • プログラムの内容               |    |
| 77   | • ふりかえりシートの回答            |    |
| IX   | 研修全体のふりかえり・評価            | 79 |
| 79   | • 研修への期待と満足度について         |    |
| 79   | • 研修を受けた自分自身の意識の変化について   |    |
| 80   | • 開発教育・国際理解教育の実践について     |    |
| 83   | • 学習者の変化や周りへの波及効果について    |    |
| 85   | • 全体を通じた評価、より良くするための提案   |    |

# I 開発教育指導者研修(実践編)の概要

## ■ 目的

本研修は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成することに加え、指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習をするための研修として実施する。

また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開するほか、JICAの開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待される。

## ■ 内容

### (1) 研修のねらい

4回の研修と実践報告フォーラムを通して、受講者自らが体験的に開発教育・国際理解教育の学び方を学び、この教育の目的、扱う内容、参加型手法についての理解を深め、実践者としてのスキルアップを図る。

### (2) 研修日程・内容

| 回  | 日時   | タイトルと主なねらい   |
|--|--|--|
| 第1回  | 6月21日(土)<br>13:00~17:00<br>6月22日(日)<br>10:00~15:00 | <b>開発教育・国際理解教育の概論</b><br>—テーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ・スキルを育てる—<br>・開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法について理解を深める。<br>・学習者主体の学びと持続可能な未来のためにできることを共有する。 |
| 第2回  | 7月19日(土)<br>13:00~17:00<br>7月20日(日)<br>10:00~15:00 | <b>開発教育・国際理解教育にできること</b><br>—“参加型”で価値観を育てる・気づきを行動につなげる—<br>・人権と環境と自分たちについて、参加型で学ぶ流れを体験する。<br>・“参加型”の目的を確認し、人の行動変容を支える3要素を理解する。 |
| 第3回  | 8月23日(土)<br>13:00~17:00<br>8月24日(日)<br>10:00~17:00 | <b>開発教育・国際理解教育の作り方・進め方</b><br>—参加型プログラムの作り方と学習者主体の場をデザインする—<br>・参加型プログラムの作り方と参加型手法を習熟する。<br>・模擬ファシリテーションを通して、実践のイメージを持つ。       |
| <b>9月~2月:各自、学校の授業などで実践!</b><br>11月15日(土)、1月17日(土) 13:00~17:00<br>実践のフォローアップ会(自由参加)、<br>フォーラムでのワークショップ提供チームの検討会(有志) |  |  |
| 第4回  | 2月21日(土)<br>10:00~17:30                            | <b>人を啓き、社会を開き、未来を拓く!</b><br>—つながり・つながる 開発教育の可能性—<br>・実践の成果と課題を共有し、開発教育の可能性を確認する。<br>・実践報告フォーラムの準備を行う。                          |
| 実践報告<br>フォーラム  | 2月22日(日)<br>10:00~17:00                            | ・一般の参加者への実践内容報告、体験ワークショップの提供、教師海外研修報告、過年度受講者との交流を通して学びの好循環をつくる。  |

(3) 場 所 JICA 中部 なごや地球ひろば2階セミナールーム

(4) 対 象

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教師、教育委員会の指導主事、地域国際化協会職員、NGO/NPO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者などで、開発教育・国際理解教育を実践する場があり現在実践されている方

(5) 参加条件

- ① 原則、全研修日程に参加可能な方
- ② 所属校や地域において実践を行い、実践報告シート(A4版1枚)を2月中旬までに提出すること、実践報告フォーラムで発表すること、報告書冊子や JICA ウェブサイト等で学校名、氏名とともに公開されることに同意できる方
- ③ 本研修に関わる連絡・情報共有のため、Eメールアドレスでの連絡が可能な方

(6) ファシリテーター

(特活)NIED・国際理解教育センター 代表 伊沢令子

ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、1998年に名古屋で NIED・国際理解教育センターを設立。現在は、自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの依頼により、年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施している。当該研修は 20 年以上ファシリテーターを務めている。

- ◇ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター 代表理事
- ◇ オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習コーディネーター
- ◇ 中京大学「国際理解教育論」、愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

(7) 受講者数

36 名

所属…小学校 20 名、中学校 10 名、高等学校 3 名、特別支援学校 1 名、その他 2 名

地域…愛知県 27 名、岐阜県 3 名、三重県 1 名、静岡県 4 名、滋賀県 1 名

年代…20 歳代 10 名、30 歳代 14 名、40 歳代 9 名、50 歳代 3 名

過年度受講経験者…9 名、教師海外研修同時受講者 9 名

# II 開発教育指導者研修(実践編) 第1回

## 「開発教育・国際理解教育の概論」

—テーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ・スキルを育てる—

### ■ 開催概要

- ◆日時:2025年6月21日(土)13:00~17:00、22日(日)10:00~15:00
- ◆場所: JICA 中部なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆参加者:[1日目]受講者37名、NIEDスタッフ8名、JICAスタッフ4名、オブザーバー5名 合計54名  
[2日目]受講者37名、NIEDスタッフ8名、JICAスタッフ2名 合計47名
- ◆ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊澤令子

### ■ 第1回ねらい

- 研修の目的と全体像を確認し、研修に参加する仲間同士知り合い、学び合う場の基盤を築く。
- アクティブ・ラーニングを通して、本教育の目的・内容・方法について理解を深める。
- 「世界の持続可能性」から、現状と課題、解決に必要なもの、教育の使命を考える。
- \* 「みんなに関わるチカラ(社会性・市民性)」のスキル・ビルディングを学ぶ。

### ■ プログラムの内容

#### ■ セッションI 共通基盤づくり

##### 1. 開会

- ◇開会、開催にあたっての留意事項 ◇主催者あいさつ ◇JICAとNIEDのスタッフ紹介

##### 2. はじめに

- ◇本研修の目的と概要説明 ◇第1回のねらいの確認
- ◇ワークショップの3つのお願い(協力、尊重、守秘)

##### 3. アイスブレイキング

###### ① 参加者アンケート(4つのコーナー)

- ◇ファシリテーター(以下「F」という。)が出したお題に対して自分の考えに一番近いものを選んで移動する(県・市、所属、JICA中部に初めて来たか、など)

###### ② 「言いたいこと・知りたいこと」

- ◇自己紹介をし合うときに、「自分が言いたいこと」「知りたいこと」をグループで1つ決めて、全体共有  
→ 「言いたいこと」を2つ選び、カクテルパーティー方式で多くの人と自己紹介し合う

###### ③ もっと知り合おう! 1分間自己紹介

- ◇グループで、3つのお題で自己紹介し合う i わたしのウリ、ii 今はまっているコト、iii 研修参加動機

★【ファシリテーターコメント】…アイスブレイクは、場の緊張をほぐし参加しやすい雰囲気をつくるためのウ



オーミングアップです。「4つのコーナー」は、参加者が話す必要はなく「移動するだけ」のシンプルな形式でハードルの低い活動。身体を動かすことで自然に場が和らぎ、互いを知るきっかけになります。

最初に、このハードルの低い活動を行い、参加者が主役になる流れをつくりました。その一環として、1人の参加者にバトンを渡し、ファシリテーター役も体験してもらいました。その後の自己紹介では複数のお題から話す内容を自分で選ぶ形をとりました。これは人権尊重の視点から「選べること」を大切にする工夫です。

ファシリテーターからのお願いの1つ目は「協力」です。自分の意見を伝えつつ、他者の意見も丁寧に聞き、意見が分かれたときは代案を出し合って合意を目指すこと。そのプロセス自体が「協力すること」の実践です。

## ■ セッション2 開発教育・国際理解教育は何について学ぶのか

### 4. あなたが変えたいことは何？ 私たちが生きる社会の課題

#### (1) あなたが変えたいことは何？ -自分・日本・世界／何を・どうして・どのように-

- ◇自分・日本・世界それぞれについて、自分が変えたいことは何か考えマトリクス表に書き出す
- ◇日本と世界について書き出したことから2つを選び、「なぜ変えたいのか」「どう変えたいか（望む姿）」を考える→ 選び、考えたことを1つずつグループ内で共有

★【ファシリテーターコメント】…「マトリクス表」は、参加型の手法の1つで、「考えていること」を可視化するための方法です。「あなたが変えたいことは何ですか？」と口頭で問いかけるのではなく、表にしてみるという“考え方の枠組み”を用いることが、参加型の手法の特徴です。最初に行った「4つのコーナー」も、「分類する」という参加型の手法の一例です。このように、参加型の手法には大きく分けて12種類ほど、よく使われるものがあります。「参加型学習」は単に人々が集まって話したり、おしゃべりをしたりするから「参加型」と呼んでいるわけではなく、参加者が1つのことを考えやすくなるようにする“考え方の枠組み”=参加型手法を活用する学びの場のことです。ファシリテーターは、そうした手法を場に提案し、活用しながら学びを深めていく役割をもっています。

#### (2) 私たちが考える「解決が必要な問題」の全体像

- ◇「私たちが生きる社会の課題」を個人で付せん紙に書き出す
  - KJ法・二次元軸表で分類整理する
  - カテゴリ同士のつながりや関係性を探し、線で繋ぐ
- ◇作業を通してわかったことを、グループで3つの文章にまとめる
  - 回し読みで共有し、自分のグループで出ていなくて共感するアイデアに☆印を付ける



#### 【「アクティビティを通してわかったこと」成果例】

- ・ファストファッションが世界の消費社会を象徴
- ・すべての問題は複雑に絡み合っている
- ・実体験、身近なことに課題意識をもちやすい
- ・紛争が物価高と関係していることがわかった
- ・課題解決の上で教育が重要
- ・1人では見つけられない課題がチームなら広がる
- ・身近なところで人権問題は起きている（SNS）
- ・世界と日本で共通しているものも多い
- ・私たちのグループは地域一人権の課題に関心が高い
- ・「このままじゃまずい」「自分は解決のために何かできているのか？」という思いが芽生えた



## 5. 持続可能な社会のための開発目標 SDGs

### (1) SDGs 17のグローバル・ゴール -

#### ①ゴール解説やってみた!

◇気になったカード1枚を選び、カード裏面に書かれたゴールの内容を要約してグループ内で紹介し合う。(3ラウンド)

#### ②17ゴールを分類してみよう!

◇17のカードを分類整理し、グループ分けをしてみる。

◇ファシリテーターが、1つの分類の仕方として「5つのP」を紹介し、資料を確認



★【ファシリテーターコメント】…SDGsは「誰かがやればいい」ものではなく、約82億人すべてが関わる目標です。その第一歩は「知ること」。今回は、1人ひとりがSDGsのゴールを読み、他者に要約して伝えることで、理解を深める体験型の学びを行いました。このように「自分で読んで、人に教える」という経験が、最も学びの定着につながると言われています。いわゆる「ラーニングピラミッド」の考え方で、ただ聞くだけよりも、自分でやってみたり、他者に教えたりする方が深く身につくというものです。体験型の学びは、自分で動くことで「自己発見」が生まれ、それが理解の定着につながります。

また、分類作業も、内容の理解がなければできません。実際のグループワークでは、色やテーマなど様々な視点からの分け方が生まれ、どれも有効なアプローチです。参考までに、国連では「5つのP(人間・豊かさ・地球・平和・パートナーシップ)」の枠組みで整理しています。

### (2) 私たちが生きる社会の姿 -SDGs17の目標から見た日本と世界の現状-

◇SDGsに関する4種類の資料を分担して読み解き、担当した資料の内容と、読んでわかったこと、最も印象に残ったことを紹介し合う

★【ファシリテーターコメント】…今の社会に対する強い危機感を持つことが、私たちにとって重要な感覚です。報道されていない「事実」や偏った情報に惑わされないためには、複数の情報源を確認する「3点確認法」などでファクトを見極める力、つまり情報リテラシーが必要です。社会課題に気づき、それを自分ごととして捉え、どう行動するかを考える力が問われています。

この教育が課題にフォーカスするのは、自己実現や命が脅かされる未来を変えるためです。問題を知るだけで終わらず、自ら問いを立て、対話を通じて解決策を見出し、行動できる人を育てることが目的です。今日はここまで、人権と環境という命にかかわる2大テーマについて学んできました。そしてもう1つ大切なテーマが「平和」です。この教育は、ユネスコの勧告に基づいて始まった平和教育にルーツがあります。つまり、最終的に目指すのは、平和な社会の構築であり、そこに国際理解教育の大きな意義があります。

● グループ替え(背中合わせの人が移動)→「平和と聞いて思い浮かぶこと」をお題に自己紹介

## 6. これは平和か対立か -平和と3つの暴力-

◇19枚のイラストについて、グループで話し合いながら「平和」「対立」「グレー」に分類する→それぞれ「平和」「対立」に分類されたカードの要素や特徴を見つけ書き出す→重複を避けて発表して共有

◇ファシリテーターが、2つの平和の定義(積極的平和と消極的平和)と、3つの暴力について解説し、資料を配付

## 【「平和」「対立」に分類されたカードの要素や特徴 成果例】

## ◇平和カード

・教育を受けられる ・笑顔 ・おだやか ・自然が豊か ・家族 ・医療 ・愛情 ・十分な食事

## ◇対立カード

・環境汚染 ・無視 ・飢餓 ・治安が悪い ・差別 ・厳しい表情 ・争い ・不穏な空気 ・犯罪

★【ファシリテーターコメント】...平和には「消極的平和（戦争がない状態）」と「積極的平和（対立や差別などの根本的な原因がない状態）」の2つがあります。戦争の背景には小さな対立があり、それを未然に防ぐことが積極的平和の考え方です。日本を見ても、差別や自殺、厳しい表情の人が多く社会は、経済的に豊かでも積極的平和とは言えません。

積極的平和を妨げるものとして、「3つの暴力」があります。1つめは目に見える暴力（直接的暴力）、2つめは社会の仕組みによる不平等（構造的暴力）、3つめはそれを支える無意識の価値観（文化的暴力）です。例えば、私たちの「安いことが正義」といった感覚が、誰かの搾取を見過ごしている可能性もあります。

だからこそ、まずは自分の意識や価値観を見直し、「自分だけでなく、他の人の平和も大切にする」という姿勢が必要です。この教育は、そうした価値観を育むものであり、「私だけが良ければいい」から「私も、あなたも、みんなも大切」と思える価値観を育てていく教育です。

## 7. ふりかえりなど

◇「今日の感想」を一言ずつグループで共有。

◇事務連絡

I日目終了 -----

## ■ セッション3 開発教育・国際理解教育は何のために学ぶのか

## I. 開発教育・国際理解教育とスキル・ビルディング

◇ファシリテーターが、開発教育・国際理解教育において「押さえてたい3つの領域とちから」をミニレクチャー

★【ファシリテーターコメント】...第1回研修は、開発教育・国際理解教育の「概論」として、その目的・内容・手法を体験的に理解してもらうものです。細かな技術よりも、「何のために、何を、どう学ぶか」という大きな枠組みに焦点を当てています。

この教育が扱うテーマは、人権、環境、開発、共生、平和といった地球規模の課題です。そうした課題に向き合い、よりよい未来を共につくるために、知識だけでなく、実践的なスキルを身につけることが目的です。特徴的なのは「~について学ぶ」だけでなく「~のために学ぶ」ことを重視する点です。たとえば、「人権を知る」だけでなく、「人権が守られる社会をどうつくるか」を考える正解があるわけではないからこそ、他の人の頭を借りながら、多様な視点で考えていくことが大切です。

また、この教育の中核には「力を育む」という目標があります。力は大きく3つに分けられます。1つめは「自分に関わる力」。これは自己肯定感=セルフエスティームです。できることもできないことも含めて、ありのままの自分を大事に思える気持ちです。これがあって初めて、他者と対等に関わることができます。

2つめは「あなたに関わる力」。たとえばコミュニケーションです。聞く・伝える・考えるという3要素を練習しながら関係性を築いていく。コミュニケーション力は対面で繰り返してこそ身につくものです。



## 【最悪の帰結だともうもの 成果例】

・死者が出る ・人間が住めない地球になる ・災害増加 ・国力低下 ・子どもの学力低下  
 ・平和から遠ざかっていく ・食糧なくなる ・心の病 ・格差拡大 ・戦争 ・楽しくない

★【ファシリテーターコメント】...社会課題は一見自分とは無関係に思えても、実は私たちの暮らしに深く影響しています。社会や政治の問題は個人の生き方に影響し、逆に、個人の力は社会や政治に働きかけることもできる。これを「Personal is Political」と言う言葉で表現しています。たとえば、自己実現を目指しても、戦争や気候変動などがあればその土台は揺らぎます。だからこそ、「自己実現できる社会とは何か」を考えることが大切です。

国際理解教育では、こうした気づきを促すために、参加型を通して「自分に関係ある」と感じられる瞬間を意図的につくり出しています。自分ごととして社会課題を捉えることが、関心や行動につながり、その積み重ねがよりよい社会をつくる力になります。この教育は、そのための知識とスキルを育むことを目指しています。

## ● グループ替え(じゃんけん:勝った人・負けた人前後グループ移動)

→「得意なこと・苦手なこと」をお題に自己紹介。

## 5. 社会課題と望む社会とソーシャルアクション -自己実現を支え合う社会-

◇「こんな人を探してみようビンゴ(ソーシャルアクションビンゴ)」シートの項目について、自分がアクションを起こしたことがあるかどうか、ふりかえる

◇「ソーシャルアクション4つの分類」資料を各自読む→ グループで、ソーシャルアクションカード24枚を4分類に分ける

◇午前中の感想を一言ずつ紹介し合う

★★【ファシリテーターコメント】...教育者がソーシャルアクションを伝える上で、自らも何らかの実践者であることが重要です。完璧である必要はありませんが、自分が大切にしている分野での行動が、子どもたちにリアルな説得力をもって伝わります。

ソーシャルアクションとは、社会の課題に対して自分たちがどんな行動をとれるかを考え、実践することです。たとえば、温暖化・平和・貧困などの具体的なテーマに向き合うとき、「なぜこの問題が起きているのか」「その原因を取り除くにはどうすればいいか」といった視点で考えることが大切です。これを「システム思考」と呼びます。現状を把握し、原因や影響を探り、自分との関わりに気づいたときに初めて「自分ごと」として行動する力が生まれます。

この教育が目指すのは、小さな一歩でも社会課題に向けた行動(ソーシャルアクション)を起こせるようになること。今の社会には人権・環境・平和の課題が山積みで、自己実現のためには持続可能でよりよい社会をつくるしかありません。そのための鍵は、一人ひとりの行動です。

大切なのは、「知る→気づく→行動する」という流れをつくること。そして教えるのではなく、学習者が自ら考え、話し合い、気づき、行動へとつなげていけるような学びの場をつくるのが、私たち教育者の役割です。



・・・休憩・・・

## ● グループ替え(番号を振ってグループ移動)→“あなた任せ”の自己紹介。

## 6. 「共通のよりよい社会」とは

### ① 教育によって共に地球に生きることを学ぶ

◇資料「宇宙の奇跡—地球の過去・現在・未来—」をファシリテーターが音読→「地球カレンダー」を読む

### ② 未来のビジョンを描こう

◇「私たちが望むよりよい社会」の具体的な姿を関連図に書き出し、アイデアを広げる

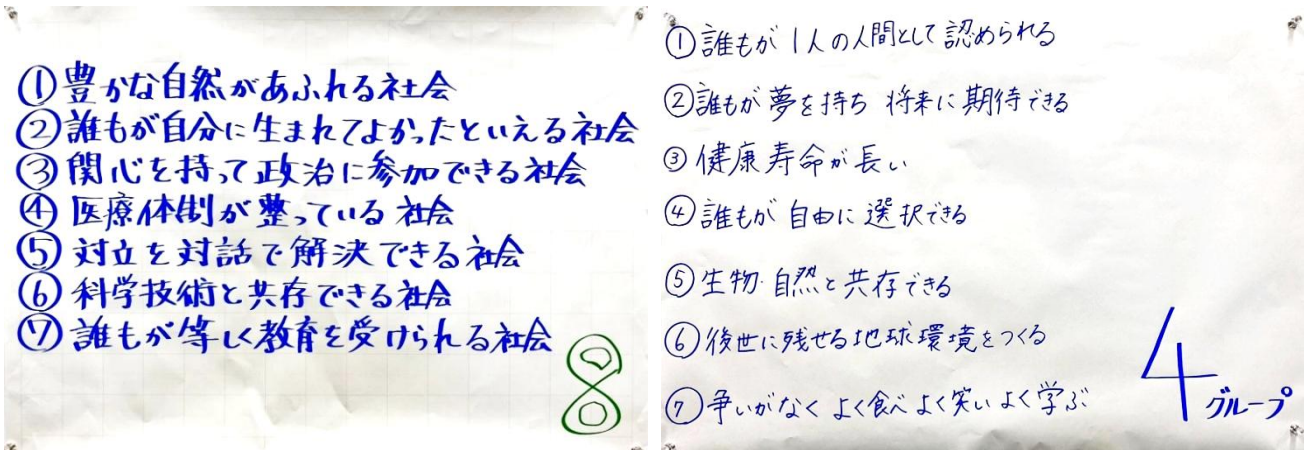
→ ギャラリー方式で他のグループの成果物を確認し、いいね!とおもったアイデアに☆印を付け、2-3つのアイデアをメモしてくる→メモしたアイデアをグループで共有し、関連図に追加する

◇関連図に広げたアイデアを、「未来のビジョン7か条」としてまとめる→全体で読み上げて共有

#### 【関連図「私たちが望むよりよい社会」成果例】



#### 【「未来のビジョン7か条」成果例】



★【ファシリテーターコメント】...私たちは、自由で開かれた場でこそ、最も豊かに学ぶことができます。まずは楽しく話せる雰囲気づくりが、学ぶこと自体を楽しくする土台になります。スキルは知識と違い、実際に動いて身につけるものです。「参加する力」「人と関わる力」「自分を理解する力」などを育てるには、体験の場が欠かせません。自己紹介1つでも、その人らしさが伝わるよう工夫すれば、互いを大切にできる空気が生まれます。安心・安全を感じられる場でこそ、自分のペースで多様な考えを伝え合うことができます。1人ひとりが大切にされていると感じられるような場づくりを意識していきましょう。

・・・休憩・・・

● **グループ替え**（じゃんけん：勝った人・負けた人前後グループ移動）

→「何にでもなれるとしたら何になりたいか」をお題に自己紹介。

■ **セッション4 「みんなに関わるチカラ」のスキル・ビルディング**

7. 開発教育・国際理解教育と「わたし・あなた・みんなに関わるチカラ」

(1) 対立のメリット・デメリット

◇国際理解教育で育みたい3つの力についてミニレクチャー

◇「対立」の定義を確認した後、対立のメリット・デメリットを対比表に書き出す→ポップコーン方式で全体共有

◇資料「対立から学ぼう 10の基本概念」を読み、ファシリテーターから、対立を扱うアクティビティのアイデアについてミニレクチャー

【対比表「対立のメリット／デメリット」成果例】

◇**メリット**

- ・新しいものが生まれやすい
- ・視野が広がる
- ・考えが深まる
- ・乗り越えたら強いつながりになる
- ・自分をふりかえられる
- ・仲を深められるかも
- ・成長できる
- ・考えの偏りがなくなる
- ・コミュカ UP
- ・見えていなかったものに気づける
- ・活発な意見交流ができる
- ・新しい一面が見れる

◇**デメリット**

- ・相手のことがいやになる
- ・周りが巻き込まれる
- ・解決しないとモヤモヤ
- ・時間がかかる
- ・傷つく
- ・争いが起きる
- ・感情的になる
- ・心が乱れる
- ・エネルギーがかかる
- ・第3者が必要になる
- ・口が達者な人が有利
- ・トラウマ
- ・負けると悔しい
- ・“お言葉ですけどねー”

★【ファシリテーターコメント】...対立は放置すれば暴力や戦争につながることもあります。しかし対立自体は悪いことではなく、多様性があるからこそ自然に起こるものです。大切なのは、非暴力的に、互いが納得できる形で、関係性を深めるように解決することです。そのためには、表面的な要望ではなく「本心」を対話で引き出すことが重要です。こうした力は知識ではなく経験を通じて育まれます。教育の場は、対立解決スキルを安全に練習できる貴重な機会でもあります。



(2) 本心と要望 “みんなでバカンス”

◇グループのメンバーと1カ所旅行に行くことにしたらどこに行きたいか、各自で書き出す→ 右隣の人が書き出した場所を否定してみる

◇対立解決に関する資料を確認し、要望と本心について理解する

◇自分が行きたい場所を決めた理由を因果関係図に書き出して本心を探る→ グループで、本心を伝え合い、合意形成を図り、全員で一緒に行く場所を決める→いくつかのグループが話し合いのプロセスと結果を発表

■ セッション5 開発教育・国際理解教育と教育者の使命

8. よりよい未来と開発教育・国際理解教育

◇印象に残ったところ3カ所に下線をひきながら、資料「国際理解教育、開発教育、SDGs」を読む。

9. ふりかえり

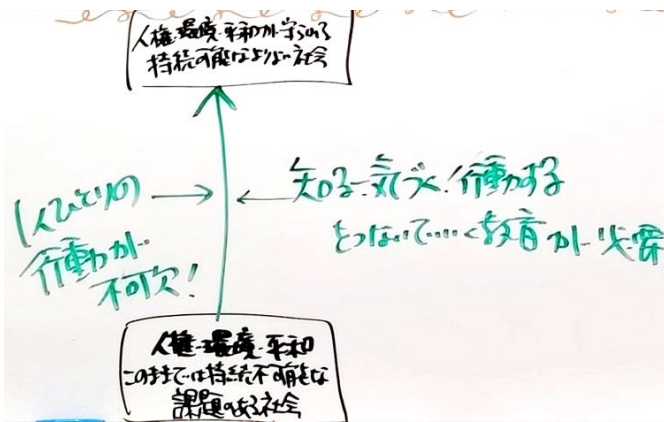
◇第1回研修をふりかえり、気づいたこと、「教育者の使命」として誇れること・これから始めたいことを、グループで紹介し合う。

◇事務連絡、終わりのあいさつ

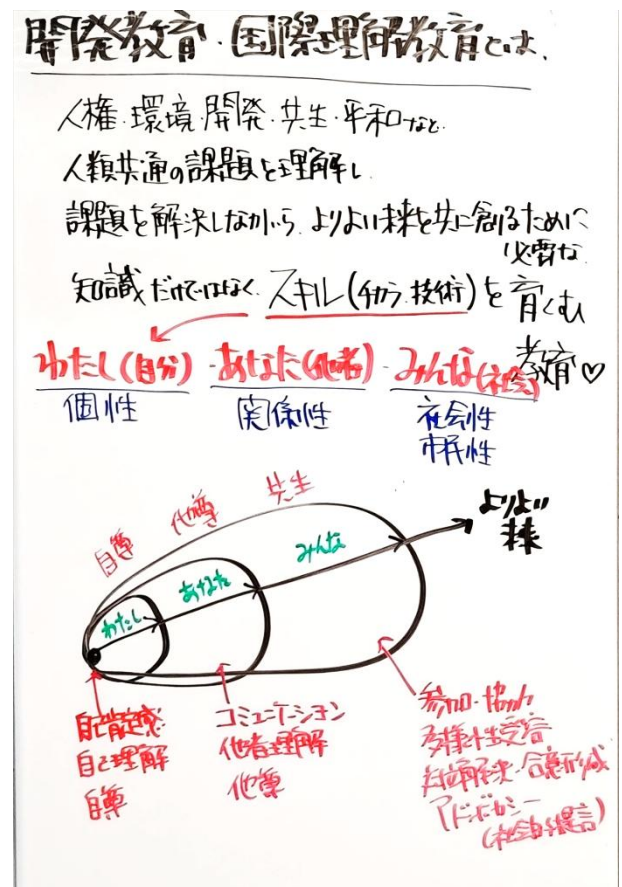
★【ファシリテーターコメント】...教育の使命とは、人間を型にはめて作るのではなく、1人ひとりが望む社会を他者ととともに創り出せるような存在へと育てることにあります。今ある社会に適応するための「忖度できる人」を育てるのではなく、自分たちが望む未来を思い描き、その実現に向けて動ける人々を育てることが、本来の教育の役割です。

そのために、1人ひとりが本来持っている力や可能性を最大限に伸ばしていくことが必要です。開発教育（Development Education）の「Develop」という言葉には、「de（取り除く）+envelope（覆い）」という意味があり、封を解き、本来もっているものを引き出すというニュアンスが込められています。つまり、教育とは新たに何かを与えるというよりも、すでにその人の中にある力を発揮させ、可能性を花開かせていく営みなのです。

終了



板書の内容



# III 開発教育指導者研修(実践編) 第2回

## 「社会課題と社会参画」記録

—テーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ—

### ■ 開催概要

- ◆日時:2025年7月19日(土)13:00~17:00、20日(日)10:00~15:00
- ◆場所: JICA 中部なごや地球ひろば 2階 セミナールームA
- ◆参加者:[1日目]受講者37名、NIEDスタッフ9名、JICAスタッフ3名 合計49名  
[2日目]受講者36名、NIEDスタッフ9名、JICAスタッフ2名 合計47名
- ◆ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊澤令子

### ■ 第2回ねらい

- 開発教育の中心的テーマ「人権」「環境」の視点で社会をふりかえり具体的問題を知る。
- 人権問題、環境問題の影響を予測し、原因を探り、自分たちとの関わりに気づく。
- 課題解決に必要なもの・役立つことを考え、「どうすれば人は行動に向かうのか」を学ぶ。

### ■ プログラムの内容

#### ■ セッションI 共通基盤づくり

##### 1. 開会

- ◇開会、開催にあたっての留意事項

##### 2. はじめに

- ◇本研修の目的と概要説明 ◇第2回のねらいの確認
- ◇ワークショップの3つのお願い(協力、尊重、守秘)

##### 3. アイスブレイキング 4つのわたし1つはウソ!

- ◇わたしを紹介すること4つを考え、1つはウソにする
- グループで紹介し、ウソを当て合う

★【ファシリテーターコメント】…この自己紹介では、自分に関する事柄を4つ挙げ、そのうち3つは事実、1つはウソという構成で紙に書き出しました。グループ内で順番に発表し、他のメンバーが「どれがウソか」を推測する自己紹介です。ゲーム形式にすることによって、単純に自己紹介をするよりも、より他者に興味をもって話を聞くことができ、他者への関心や親しみも自然と高まります。遊びの要素を取り入れながら、相互理解と関係づくりにつながる導入として有効なアクティビティです。

##### 4. 第1回のふりかえり

- ◇印象に残った部分3カ所に下線を引きながら、記録を読む → 下線を引いたところと理由をグループで共有
- ★【ファシリテーターコメント】…一度読んだ内容でも、改めて「どこが印象に残ったか」と考えることで、自



然と自分の中に整理され、記憶として定着していきます。また、それをグループで共有する中で、同じところに印をつけた人がいたり、全く異なる部分を印象的だと感じた人がいたりすることで、自分では気づけなかった視点にも出会えます。同じ箇所注目していても、その理由が人によって違うという気づきもあり、多角的に第1回をふりかえることができます。今回は、大人の参加者の皆さんなので、情報量の多いふりかえりを要約するという形で取り組みましたが、この方法は子どもたちにも応用できます。たとえば、短い文章を読んで印象に残ったところを話し合うことで、読解力や要約力、伝える力・聞く力といったスキルの育成にもつながると思います。いずれにしても、実際にやってみなければ力はつきません。1つひとつ立ち止まり、体験を重ねながら学んでいく、何を学ぶかと同時にどのように学ぶのか、学びのプロセスが大切です。

## ■ セッション2 人間の命と尊厳のために人権と共生を学ぶ

### 5. 世界3大宗教の1つ イスラームについて -となりのムスリム・ムスリマー-

#### ①出逢いのビンゴ

◇BINGO シートの項目に個人で回答することを通して、イスラームと出会う→ グループで回答したことを共有  
 ◇Fが、イスラームが大切にしている五行（信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼）を紹介

★【ファシリテーターコメント】…このセッションでは、「人権と共生」について考えます。人権と環境は、開発教育・国際理解教育の中心であり、命に関わる重要なテーマです。今日は人権、明日は環境を扱います。人権にもさまざまな課題がありますが、今回は「パレスチナ問題」に正面から取り組みます。この問題には、現代の対立や暴力の根本が凝縮されており、学ぶ価値が大きいと考えています。

イスラーム文化についての導入として、まずは「もっと知りたい」「なぜだろう?」という関心から探究が始まることを体験してもらいました。ふとした疑問が探究の種になります。自分の日常とは少し離れたテーマにも興味を持つきっかけとして、ビンゴのようなアクティビティも活用できます。

#### ②入門〇×クイズ

◇Fが、4つの〇×クイズを出題し、挙手で回答

- i 信仰者は仏教よりイスラームが多い→ A. ○
- ii アルコール、アルカリ、アルゴリズムはアラビア語が語源→A. ○
- iii 赤十字マークはイスラーム圏でも使われている→A. × 赤新月
- iv 日本に住むムスリム人口約5万人→ A. × 20万人

#### ③ムスリムの暮らし

◇資料（ムスリムが日常生活で使っている物の写真集）を用いて  
 イスラームの暮らしを知る

◇写真資料20枚×2セットから気になるものを2枚ずつ選び、解説を読む  
 → 解説を要約して、グループで紹介

第1ラウンドの資料…「日常の中の祈り」

第2ラウンドの資料…「衣・ファッション・メイク／信仰の道具／食・生活用品／学び・遊び・本」

◇グループの中で選ばれなかった資料に、各自で目を通す

#### ④となりのムスリム・ムスリマ -こんな時、どうしたらいい?-

◇在日ムスリムが抱える問題5事例から、グループごとに1事例を担当し、問題の解決策を話し合いアイデアを出し合う→ それぞれが考えた解決アイデアを全体で発表して共有

◇Fが事例ごとの実際の取組みを紹介



……休憩……

- **グループ替え**（じゃんけん：勝った人・負けた人前後グループ移動）→「おすすめの一品」をお題に自己紹介。

## 6. パレスチナ問題とは –パレスチナを知ることが世界を知ること・平和を考えること–

### ①クイズ「ユダヤ教とイスラーム」

◇Fが、5つの〇×クイズを出題し、挙手で回答

- i ユダヤ教徒は豚肉を食べない→ A. ○
- ii イスラエルのマクドナルドでは、チーズバーガーが人気である→ A. × 肉と乳製品禁止
- iii ユダヤ教の神とキリスト教の神とイスラームの神は、同じである→ A. ○（三つとも一神教 同一神）
- iv イスラエルにはアラブ人が住んでいる→ A. ○
- v イスラエルの首都はエルサレムである→ A. × 国連決議上はテルアビブ（エルサレムは国際管理都市）

### ②地図から学ぶパレスチナ –世界の中でパレスチナをとらえる–

◇地図で、イスラエルをはじめとした関係周辺国（パレスチナ、ヨルダン、レバノン、シリア、エジプト、イラク）の位置を確認する

◇ワークシートで、第2次世界大戦後のイスラエルとパレスチナの領域変遷図4つと説明文をマッチングさせる

◇各自で、資料（パレスチナ問題とは）を読み解く

### ③パレスチナの物語

◇6人グループに分かれ、3つの場面について行うロールプレイの配役を確認する

◇Fが各場面の簡単な背景を説明した上で、まずは各自でロールプレイシートを読む→ 配役になりきって読み合わせをする

◇グループで、ロールプレイ3場面をしてみた感想を自由に話し合う

◇各自で資料を読み、ロールプレイの場面設定（2022年）以降現在までの状況について確認をする

### ④パレスチナの声・イスラエルの声

◇3,4人のグループに分かれ、資料（11人のパレスチナとイスラエルの人々の声）をグループごとに分担  
→ 担当した人物の声を読み、その人がどのような状況にあるのかを想像する

◇資料でSDGs16「平和と公正をすべての人に」のゴールとターゲットを確認し、担当した人物の声に寄り添いながらパレスチナ問題の解決策についてアイデアを出し合う



## 7. 1日目のふりかえり

◇グループで、今日の学びや自分の変化、感想を共有

1日目終了 -----

■ セッション2 つづき

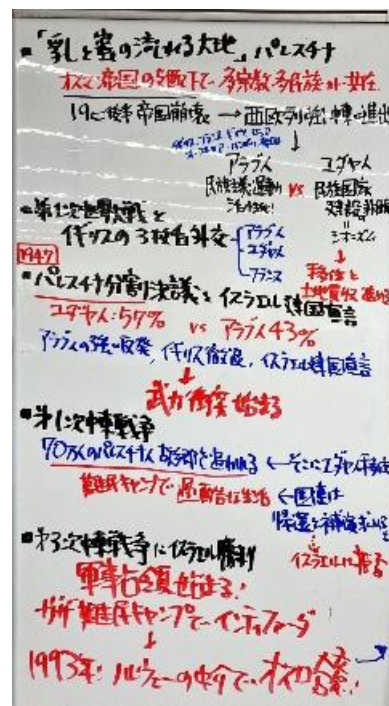
1. パレスチナ問題とは つづき

(1) パレスチナの声・イスラエルの声

- ◇Fが、改めてパレスチナ問題の背景を説明し、1日目の内容をふりかえる
- ◇グループで担当したパレスチナ／イスラエルの人々の声を3つのポイントにまとめ、全体で発表共有
- ◇11人の声を聞いてみた感想を共有

【「11人の声を聞いてみた感想」成果例】

- ・生まれたときから対立の中において、なぜ怯えているのか、なぜ敵対しているのかもわからずにいる。
- ・パレスチナ、イスラエル双方の若い世代が解決にむけ動き始めていることに希望の光を感じた。
- ・当事者として考えることが大切。



● グループ替え（自由にグループ移動）→ “あなた任せ”の自己紹介。

(2) 平和をつくる人々

- ◇4人の平和をつくる人々についての資料を分担して読み解き、紹介し合う
- ◇SDGs ゴール 16 のターゲット達成のために、必要なもの・役立つこと・できることを、できるだけたくさんアイデアを出す → 順番にメッセンジャーになり、他のグループへ移動しアイデアを共有する

【「SDGs ゴール 16 のターゲット達成のために、必要なもの・役立つこと・できること」成果例】

- ・ターゲット① ← すべての国の核放棄、他国へ武器を売らない
- ・ターゲット② ← 買い物は投票という意識をもち、フェアトレード商品を選ぶ
- ・ターゲット③ ← 自国ファーストではなく、世界全体で考える
- ・ターゲット⑦ ← 情報リテラシーや表現力を養える授業、開発教育・国際理解教育を広める

2. 人権とは何か

- ◇「もしも人権が守られないとどうなるか？」派生させて考える → グループで最悪の影響だとおもうものに ☠️ マークを付ける → 各自で、自分にも影響が及んでくるとおもうものにイニシャルを書き入れる
- ◇回し読みで共有し、自分のグループは出なかったけど共感するアイデアに★印、自分にも影響が及んでくるとおもうものにイニシャルを書き入れる
- ◇資料（人権とは／日本国憲法と人権）を確認し、「人権を守る」



「差別を終わらせる／人権尊重社会を創る」とは具体的に自分がどう行動することか、個人で7つ書き出す

- ◇グループの中で、書き出した行動から2つずつを紹介し、ここまでのワークショップの感想を共有

★【ファシリテーターコメント】…人権というのは、国籍や障害の有無に関係なく、「人間として生まれたら誰にでもあるもの」です。奪われてはいけない、保障されるべき権利です。第二次世界大戦後、「人が人を殺したり、民族が排斥されたりするようなことがもう起きないように」として、世界人権宣言が作られました。そこには 30 個の具体的な権利が書かれています。私たちの暮らす日本も、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を柱にした憲法を持っています。憲法は、本来「国民が守るもの」ではなく、「国が守らなきゃいけない約束ごと」です。

【「人権を守る」「差別をしない」とは具体的に自分がどう行動することか 成果例】

- ・先入観で決めつけない ・相手の思いを聞く ・よくない動き、行動には No を示す ・相手を知る
- ・対話をする ・本音で話し合う ・笑顔を忘れない 😊 ・誰にでもあいさつ、お礼を伝える
- ・平等に接する ・学ぶ環境を整える ・否定せず質問する ・心ひろくあったかく関わる
- ・新しい考えや文化を取り入れようとする ・相手の立場で考える ・政治に興味をもつ

【「もしも人権が守られないとどうなるか？」成果例】



……休憩……

● グループ替え（じゃんけん：勝った人・負けた人グループ移動）→「買ってよかった家電」をお題に自己紹介。

■ セッション 3 生き物が生きる土台＝環境とその持続可能性について学ぶ

3. 世界を変えたプラスチックとワタ

(1) プラスチック

① 身近にあふれるプラスチック

- ◇グループで、60秒で身近なプラスチック製品をリストアップ→ 一番多く書き出したグループが発表
- ◇グループで、60秒で身近な物でプラスチックを使用していない物をリストアップ→ 一番多く書き出したグループが発表
- ◇プラスチック製品のリストから、元々はプラスチックではなかったが時代とともにプラスチック製品へと変わった物をチェックする→ すべてのグループが1つずつ発表

② プラスチックゴミがもたらす現状

- ◇グループでクイズに答える
  - i 写真資料を見て、これが何かを考える A. 鹿の胃の中から出てきたプラスチックゴミ

ii 世界のプラスチック生産量は？

A. 2000年=2億3400万トン → 2024年=4億1380万トン → 2040年=7億トン超

iii 日本におけるプラスチックのゆくえは？

A. 埋め立て8%、リサイクル18%、焼却64%、自然界への流出2%、海外輸出10%

◇資料でプラスチックのマテリアルフローを確認

### ③やっかいなマイクロプラスチック

◇マイクロプラスチックはどこから出てくる？グループで考え、ワークシートに書き込む → 重複を避けて、すべてのグループが1つずつ発表

◇Fが、マイクロプラスチックの現状について解説

◇ここまでの感想を一言ずつ紹介しあう

● **グループ替え** (じゃんけん:勝った人2人グループ移動) → 「洋服を選ぶ時の基準」をお題に自己紹介。

## (2) ワタ -Tシャツができるまで-

◇綿織物を作る際に使用する6つの道具の役割は何か想像する  
→ 解説資料で確認

◇産業革命で機械化されたことのメリット/デメリットをワークシートに書き込む → Fが解説を読み上げる

◇Tシャツができるまで、それぞれの過程でいくらかかるか考えて、ワークシートに書き込む → Fがコットン畑の児童労働についての資料を読み上げる

◇衣類のゆくすえは？ → リサイクル14%、リユース20%、処分・焼却66%

◇衣類に関する12この行動について、自分が取り組むことができるか(今すぐできる/近い未来できる/やってみたいと思う)チェックをする



### 【「産業革命で機械化されたことのメリット/デメリット」成果例】

#### メリット

- ・人件費がかからない ・安く多くの人の手にわたる ・資本家が生まれ、経済が発展
- ・早く、大量に作れる ・重労働が減った ・手軽に着ることができる ・品質が一定

#### デメリット

- ・価値が下がる ・仕事なくなった人がいる ・余ったものがゴミになる ・資本家が生まれ、格差
- ・薬品による水や空気の汚染 ・石炭を採る人大変 ・CO2 排出 ・製品が画一的

● **グループ替え** (番号を振ってグループ移動) → 「自分の環境にいい行動/悪い行動」をお題に自己紹介。

## 4. 持続可能な社会を目指して -続かない社会 ← 続かない原因 → 続く社会に!-

◇Fが「持続可能な環境のための4つポイント」解説し、資料で確認

◇4つのポイントそれぞれについて、それを阻むもの(原因や背景)をマトリクス表に箇条書きで書き出す  
→ 回し読みで共有し、いいねと思う意見に★印を付ける

◇各自で、続かない環境を続く環境にするためのわたしの 7 か条（行動）を書き出す→ 書き出したもののうち2つと、2日間の感想を共有

★【ファシリテーターコメント】…現代に生きる私たちは、いまだにどんどん物を作っては捨てて、大量生産・大量消費の暮らしを続けています。でもこのままだと、もう地球も社会も持続可能ではないと、わかっているのに。

地球の資源は有限です。無限にあるわけではない。私たちは自然界の「循環」に学ぶ必要があります。自然界ではゴミと呼ばれるものはありません。全てが次の命につながっていく。これが持続可能な仕組みの第一歩。そして、いろんな生き物がいて、お互いを支え合って成り立つ生態系では「生物多様性」も大切。私たち人間も生態系の一部です。さらに、「有限な資源を大事にする」こと。化石燃料など埋蔵量に限りがあるものの使用を減らし、太陽や風など無限のものを利用した再生可能エネルギーに変えていく必要があります。

最後に、「低炭素」。地球温暖化を食い止めるために、二酸化炭素をなるべく出さない暮らしにしていこう。「循環」「生物多様性」「有限性」「低炭素」この4つが、持続可能な社会をつくる環境の4原則です。

【「4つのポイントを阻むもの（原因や背景）」成果例】

|        |  |
|--------|--|
| ◇循環    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルしにくい素材を使う ・使い捨て ・ファストファッション ・大量生産、大量消費</li> <li>・コロナ禍後の衛生対策 ・安価なものを選択 ・面倒くさいというきもち</li> </ul> |
| ◇生物多様性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムや太陽光発電のための森林破壊 ・外来種（ペットの放流） ・乱獲 ・肉食 ・農薬使用</li> <li>・海洋汚染 ・プランテーション ・コンクリート ・品種改良</li> </ul>      |
| ◇有限性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油製品の大量消費 ・人口増加 ・便利を追求 ・水の使い過ぎ ・既存の利益 ・富の不均衡</li> </ul>  |
| ◇低炭素   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・車社会 ・便利なものを使いたい ・温暖化でエアコンを使わざるを得ない ・効率重視</li> <li>・24時間営業</li> </ul>                               |

| 循環   | 生物多様性                           | 有限性                             | 低炭素   |
|--|---------------------------------|---------------------------------|---|
| 再利用不可<br>商品の使用<br>便利の追求<br>使い捨てる<br>意識<br>捨てる習慣<br>習慣<br>コロナ禍後 | 大量目盛<br>種の絶滅<br>プランテーション<br>外来種 | リサイクルに時間<br>既存の利益<br>工場<br>木材産業 | 交通<br>便利<br>便利な家電製品<br>増える<br>地球温暖化<br>(暑い・寒い・乾燥)<br>技術<br>生活の質向上 |

| 循環  | 生物多様性  | 有限性  | 低炭素  |
|---|--|--|--|
| 大量生産<br>大量消費<br>リサイクルの低さ<br>ゴミの処理<br>リサイクルしても<br>使い捨て効果 | 害獣<br>乱獲<br>環境はいい<br>さばく化<br>森林はいい<br>肉食<br>海汚染<br>農薬<br>空飛ぶ | 水の消費<br>石油の製品<br>先進国<br>森林はいい<br>使った消費<br>商品<br>再生可能エネルギー<br>の普及がX | 排気ガス<br>CO <sub>2</sub><br>エアコン<br>焼却処理<br>自動車<br>便利なもの使いた |

**【続かない環境を続く環境にするためのわたしの7か条(行動) 成果例】**

- ・1つの商品を長く大切に使う ・必要な分だけ買う ・食品ロスを減らす ・水筒を持参
- ・環境に良い製品を購入 ・他国や自国の現状を学ぶ ・公共交通機関や自転車を利用
- ・無農薬野菜やジビエを積極的に食べる ・リサイクル意識を高める ・水を使いすぎない
- ・環境に関わる色々なマークを知る ・節電、節約 ・服はメルカリに出す ・ミニマリストになる
- ・人間の責任であることを自覚 ・流行に惑わされない ・まずは知る!気づいて、行動する!

**5. 社会課題と社会変革と社会参画 -行動変容の3要素-**

◇「国際理解教育・開発教育を参加型『行動変容の3要素』」ミニレクチャー、資料配付

★【ファシリテーターコメント】…人の行動は、ただ「知ってる」だけではなかなか変わりません。大事なのは、「知ること(知識)」「自分にも関係あるって気づくこと(気づき)」「どう動いたらいいかがわかること(スキル)」の3つです。知らないと始まらないから、まずは学ぶ。でも、知っていても「自分には関係ない」って思っていたら動けないし、「どう動けばいいか分からない」ときもやっぱり動けない。だから、この3つをちゃんとそろえて、初めて「行動できる」ようになります。私たちが提供する参加型の学びは、まさにこの3つを提供する場なのです。知って、気づいて、動けるになって、繰り返すことでよりうまくできるようになる。そんな場をこれからも一緒に作っていきましょう。

終了

# IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

## 「気づきを行動につなぐ参加型のデザイン」記録

－ プログラムの作り方 －

### ■ 開催概要

- ◆日時:2025年8月23日(土)13:00~17:00、24日(日)10:00~17:00
- ◆場所: JICA 中部なごや地球ひろば 2階 セミナールームA
- ◆参加者:[1日目]受講者38名、NIEDスタッフ6名、JICAスタッフ3名 合計47名  
[2日目]受講者36名、NIEDスタッフ6名、JICAスタッフ3名 合計45名
- ◆ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊澤令子

### ■ 第3回ねらい

- 「あなたに関わるチカラ」「わたしに関わるチカラ」のスキルビルディングを学ぶ
- 参加・対話／発散・収束で、気づきを行動につなぐ参加型プログラムの作り方と手法を学ぶ。
- プログラム作りと模擬ファシリテーションを通し、教育実践と実践報告フォーラムのイメージを持つ。

### ■ プログラムの内容

#### ■ セッションI 共通基盤づくり

##### 1. 開会

◇開会、開催にあたっての留意事項

##### 2. はじめに

◇本研修の目的と概要説明 ◇第3回のねらいの確認

##### 3. アイスブレイキング カードで自己紹介

◇絵を描くという参加型手法についてのミニレクチャー

◇カードに書かれたお題にそって20秒自己紹介を5ラウンド。

第1~3ラウンド:1人ひとり違うカードで、第4ラウンド:他の人が引いたカードから1つ選んで、

第5ラウンド:新しいカードで全員共通

◇コミュニケーションの3要素についてミニレクチャー

★【ファシリテーターコメント】…ファシリテーターは鍋の出汁や火加減を整える人。主役はあくまで“具材”である参加者たち。そんな風に、場づくりのイメージを絵にすると、言葉では伝えきれないこともスッと伝わっていく。それもまた参加型の力です。

自己紹介するということは、実はとても大切な意味があります。他の人から「それいいね」ってフィードバックをもらうことで、「自分には、そういうところ

あるんだな」って気づくこともできます。人から言われた言葉って、自分の輪郭を教えてくれるんです。



でも、もしその言葉が否定ばかりだったら？自信がなくなるのは当然のこと。だからこそ、「あなたのここ素敵だよ」とか「それ上手だね」という言葉が、自分を育ててくれます。最初は人から教えてもらって、だんだんと自分で自分のよさがわかるようになっていく。それが、自己肯定感とか自尊感情の形成につながります。

このお題カードを使った自己紹介、低学年の子どもたちにもできるアクティビティです。好きなおやつとか、アニメの話からでもOK。自分のことをちょっと考えて、ちょっと話して、ちょっと聴く。そんな小さな積み重ねが、誰にでも育てられる「コミュニケーション力」につながっていきます。

#### 4. 第2回のふりかえり

◇印象に残った部分3カ所に下線を引きながら、記録を読む→下線を引いたところと理由をグループで共有

★【ファシリテーターコメント】…参加体験型の学びには、大きな強みがあります。たとえば「やったな」と思っただけで終わってしまうのではなく、体験したことはそのまま自分の中に残っているので、記録を見返すと「あの時こうだった」と鮮明に思い出せるんです。自分自身が実際に体験したり、「あっ」と感じたりしたことだからこそ、すぐに思い出すことができる。これが参加体験型の良さのひとつです。

さらに、学習の定着度も高いといわれています。「自分は何を学んだのか」を言葉にして誰かに伝えられるようになると、その学びは一層深まっていきます。繰り返し考え、言葉にし、文字にすることで、学びはしっかりと自分のものになっていくのです。

● **グループ替え**（じゃんけん：勝った人・負けた人前後グループ移動）→「自分のこだわり」をお題に自己紹介。

### ■ セッション2 「あなた（他者）に関わるチカラ」とスキルビルディング

#### 5. 開発教育・国際理解教育と「わたし・あなた・みんなに関わるチカラ」

◇資料をもとに、変化のための参加型（参加型の目的）とスキルを育てることの意味を確認

★【ファシリテーターコメント】…自己紹介って、ただ形だけだと「また同じこと聞いているな」と思いがちですよ。でもちょっと工夫して、いろんな切り口から自分のことを話してみたり、相手に否定されずに聴いてもらえたりすると、「あ、自分のことを話すのも悪くないな」と思えるようになります。人って誰でも「分かってほしい」存在なんです。でも、分かってもらえなかったり、否定されたりする経験を重ねると、「どうせ言っても無駄」と心を閉ざしてしまう。だからこそ、安心できる場の中で、肯定的な言葉で、みんなが公平に話せることが大切になります。

今日扱うのは「あなたに関わる力」。つまり他者に関わる力です。その代表はコミュニケーション力。ただし、ここでいうのは相手を傷つける言葉じゃなくて、丁寧で前向きなコミュニケーション。より良い関係をつくるための力です。この教育の目的は「テーマを学ぶ」「テーマのために学ぶ」、そして「行動できる人を育てる」こと。そのためにはスキルが必要で、だからスキルビルディングに取り組みます。私の当たり前は、みんなの当たり前じゃない。その感覚を持てるようになることが、相手を大切にする第一歩なんだと思います。

#### 6. 「あなた（他者）に関わるチカラ（他者理解／他者尊重／アサーティブネス）」を育てる

##### (1) 私たちの多様性

##### ①4つのコーナー

◇Fが出すお題について、自分の意見に一番近いコーナーに移動する

- i 日本の未来は明るい？不安？
- ii 大阪万博に行きました！行く予定ないです！

## ②重層的アイデンティティ

◇心の中で、自分自身の属性をふりかえり、自分自身のもつアイデンティティの多様性を確認

★【ファシリテーターコメント】…私たちって、1つの属性だけで生きてるわけじゃないんですよね。性別や年齢、家族のこと、身体のこと、いろんなカテゴリーを重ねながら生きてる。それぞれに違うバックグラウンドや歴史を持っている人たちと、私たちは一緒に生きています。だからこそ「自分も大事にしながら相手も大事にする」コミュニケーションのあり方を考えることが必要です。コミュニケーションの基本はシンプルに3つ、「考える」「伝える」「聴く」です。これを繰り返し練習していくことが大切です。今日のワークでは、特に「聴き方」に焦点を当てます。考えることは問いがあれば自然と生まれますし、伝える練習も機会を持てばできます。けれども「聴き方」には意識的な練習が必要です。

## (2) いろんな聞き方・いろんな伝え方

### ①熱心ではない聞き方と傾聴

◇NIEDスタッフがモデル的に、いろいろな聞き方のロールプレイ→ 聞き手・話し手の様子について感想を共有  
◇全体で数人が、感想と日常で気をつけようと思うことを発表

### ②鬼目線からの「桃太郎」

◇動画を視聴し、対立解決の方法の1つ「ホーポノポノ」について理解する

### ③アサーティブな伝え方

◇Fがアサーティブなポイントを紹介  
◇資料で、自分のコミュニケーション(伝え方)のパターンをふりかえる  
◇4つの場面設定で、アサーティブな伝え方の練習をする  
→ 数人が全体で発表共有



★【ファシリテーターコメント】…アサーション(自己表現)とは、「私もOK、あなたもOK」という考え方に基づいた伝え方です。その要素は3つあります。

1. 自分の言いたいことを率直に、しっかりと伝えること
2. 非攻撃的に伝えること
3. 相手の権利を侵害せず、相手の立場を尊重すること

つまり、言いたいことを遠慮したり、忖度したりして我慢するのではなく、自分の思いや意見は率直に伝える。その際、攻撃的な言葉を使わず、相手を傷つけないようにする。そして、相手の権利や気持ちを守りながら伝える。これがアサーティブ・コミュニケーションの基本です。この伝え方ができれば、自分の言葉は相手にきちんと届き、相手も嫌な気持ちにならずに受け止めることができます。

……休憩……

● グループ替え(じゃんけんで勝った2人グループ移動)→「私のテンションが上がるとき」をお題に自己紹介。

■ セッション3 「わたし(自分)に関わるチカラ」とスキルビルディング

7. 「わたし(自己)に関わるチカラ(セルフ・エスティーム)」を育てる

(1) わたしを見つめる4つの窓

◇4つのお題に答えることで、自分自身をふりかえる

窓1:「わたしは」で始まる文章を10個

窓2:今、わたしの親しい10人の人

窓3:去年はできなかった、でもこの1年でできるようになったこと(できるだけたくさん)

窓4:自分をほめてあげよう

◇Fが、窓ごとに問いかけをし、書き出した内容をさらにふりかえる

窓1:F「書き出されたものの中で、肯定的なものはどのくらいあった？」

窓2:F「最大のピンチ!のときに助けてあげたいと思う人は? / 助けてくれると思える人は?」

窓3:F「人は死ぬまで人生の主人公で、いくつになっても変わることのできる存在」→ 数人が全体で発表

窓4:F「自分が自分の最大の理解者で応援団」→ 数人が全体で発表

(2) セルフ・エスティームはなぜ大切か

◇資料でセルフ・エスティームの概念を理解

◇もしもセルフ・エスティームが低いままだったら? 派生させて考える

→ 最悪の影響だとおもうものに ☠️ マーク

→ 回し読みで共有し、自分のグループで出ていなくて共感するアイデアに ☆ 印



【「もしもセルフ・エスティームが低いままだったら?」成果例】



★【ファシリテーターコメント】…「私に関わる力」の中心にあるのがセルフ・エスティーム(self-esteem)です。日本語にはなかなか直接対応する言葉がありませんが、あえて訳すと「自信の持てる大切な私」という意味合いになります。

一般的には「自己肯定感」や「自尊感情」と訳されることが多いのですが、セルフ・エスティームはそれらと完全に同じではありませんが、自己肯定感や自尊感情の出発点は共通しています。それは「自己理解」—自分はいったいどういう人なのか? それを自分自身で理解していることから始まります。

自己理解を深めるワークの中で、「4つの窓」を通して自分をふりかえりました。そこで「今の自分もなかなかい

いじゃないか」と思った人もいれば、少し切なく感じた人もいたかもしれません。しかし大切なのは、評価することではなく「今の私はこうなんだ」と受け止めることです。その受け止めからこそ、もし変化したいと願うならば、その一歩を踏み出せます。自分自身を理解しない限り、セルフ・エスティーム（自己肯定感や自尊感情）は育ちません。たとえ凸凹があっても、「私はこの世に唯一無二の存在で、誰も代わりにはなれない」という自己理解が、セルフ・エスティームの土台です。

さらに重要なのは「自分自身の中にある、自分を一番よく知っていて、一番好きでいてくれる自分」を大切にすることです。完璧でなくても、「この私でいい、この私が好き」と思える感覚があることが大事なのです。

また、自尊感情には2種類あります。ひとつは「社会的自尊感情」。これは社会や他者からの評価に左右されるもので、状況次第で大きく揺れ動きます。もうひとつは「基本的自尊感情」。これは他者からの評価ではなく、自分自身のまなざしで自分を認められる感覚です。社会的自尊感情が折れてしまっても、基本的自尊感情があれば柳のようにしなやかに立ち直ることができます。

### (3) セルフ・エスティームを育むもの

#### ①子どもならOK? - 子どもの権利とは

- ◇「こどもならOK? おとなならOK」ワークシートを読み、各自でチェックする
- ◇子どもの権利条約についての資料を確認し、ワークシートの項目が子どもの権利条約のどの条文に関係するか、グループで話し合う

#### ②「困」という漢字から考えるセルフ・エスティームを傷つけるものVS育てるもの

- ◇子どもが本来持っているチカラを発揮させなくしているものは何か?グループで5つ考える
  - ポップコーン方式で全体共有
- ◇セルフ・エスティームを傷つけるもの・阻むもの／育てるもの・励ますものを対比表に書き出す
  - 回し読みで共有

##### 【「子どもが本来持っているチカラを発揮させなくしているもの」成果例】

・自己決定できない・偏差値至上主義・「あなたには無理」・どうせできない…という思い・忙しさ  
 ・親の過度な期待・ネグレクト・他者との比較・軍隊教育・説明しすぎる教師・多数派が正解

##### 【「セルフ・エスティームを傷つけるもの・阻むもの／育てるもの・励ますもの」成果例】

###### 傷つけるもの・阻むもの

・世間体・同調圧力・過保護・過干渉・白か黒か（曖昧が許されないこと）・あきらめ・無視  
 ・おとなが常に一緒・どうしようもない周りの環境・無関心・暴力や暴言・心ない言葉・否定  
 ・忙しさ・周りの期待・結果主義・いじめ・頼ることができない・完璧主義・優劣、比較される

###### 育てるもの・励ますもの

・ありのままを認める・助けてもらえる・ちがってもいいよ・出会い・協働作業・任せてもらえる  
 ・「ありがとう」言われる・信頼できる仲間・何かをやりきる・失敗を乗り越える・ハグ・あいさつ  
 ・「やりたい」を尊重される・厳しいけど愛のある助言・あたたかい雰囲気・話をきいてもらえる  
 ・意見を言える・他者との比較ではなく自分の成長を認められる・自分は自分のままでOK!  
 ・自己決定・社会的／経済的余裕・安全、安心・過程が大切にされる・共感・夢中になる

### ③セルフ・エスティームを育て合うための5か条

◇個人で、セルフ・エスティームを育み合うための具体的な行動を5つ考え、書き出す

#### 【「セルフ・エスティームを育み合うための具体的な行動」成果例】

- ・1日をふりかえって、がんばったこと（うまくいなくてもよい）を伝え合う
- ・「ありがとう」など感謝のきもちを伝え合おう ・小さな成長を見逃さない
- ・ちがいに興味をもつ ・多様な生き方を知る ・1人ひとりの思いに寄り添う
- ・ほめ合う時間をつくる ・ゆるやかなつながりを大切にする ・「すごい」と感心したことを伝える
- ・失敗、間違いをおそれない ・自分の好きを大切に！ ・表現することをこばまない

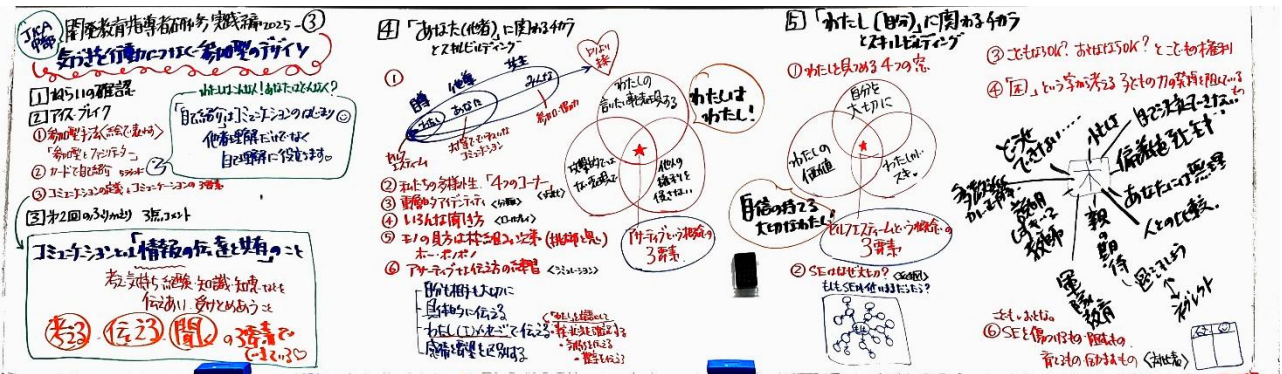
★【ファシリテーターコメント】…セルフ・エスティームって、本当は誰の中にもあるものなんです。でも「どうせできない」って言われたり、同調圧力に合わせざるを得なかったり、虐待やネグレクトみたいな経験をする、とどんどん削がれてしまう。力はあるのに発揮できなくなるんですね。

でも安心してください。セルフ・エスティームは大人になってからでも育てられるんです。どんなに傷ついたりしても、人はまた立ち直れる。そこで最後に「セルフ・エスティームを阻むもの」と「育てるもの」をグループで出し合って、表にまとめました。出てきたのは「できないって言われる」とか「比較される」といった阻む要素と、「信じてもらえる」「小さな成功を認めてもらえる」といった育てる要素。たくさんの気づきが共有されました。

まとめとして大事にしたいのは、アサーティブネスとセルフ・エスティームは両輪だということ。自分を大切にできるから相手も大切にできるし、アサーティブに伝えられるようになると自己肯定感も高まる。形から入ってもいいし、練習から入ってもいい。どちらからでも、自分を大切にできる学びにつながることができます。

## 8.1 日目のふりかえり

◇グループで、「セルフ・エスティームを育み合うための具体的な行動」のうち2つと今日の感想を共有



1日目終了 -----

## ■ セッション4 開発と豊かさ —開発教育が目指すもの—

### 1. オープニング

#### (1) アイスブレイキング

◇これまでの研修であまり一緒になかったことのない人とグループになり、「しあわせ〜とおもうとき」をお題に自己紹介。

#### (2) 「豊かな社会にとって大切なこと」―「開発」の意味―

◇「ああ豊かだなおもうとき」をグループで紹介し合う

◇「豊かな社会にとって大切なこと」シートを各自で確認し、「自分にとって“豊かである”とはどのような状態か」を考え、最も当てはまる9枚を選ぶ→ 優先度を考え、さらに5つを選ぶ

→ グループで選んだものとそのポイントを紹介し合う

◇属性または視点カードを1枚ずつ担当し、その立場で大切なことを5つ選ぶ→ グループで共有し、「世界中の人たちが豊かであるため必要なもの」は何かを話し合う

→ 全体で話し合った内容を発表共有

〈属性または視点〉

①日本の子どもたちにとっては、どのカードが大切だろうか？

②途上国の若者にとってはどのカードが大切？

③社会的マイノリティ(障害者/シングル家庭/性的少数者/外国人など)にとっては？

④自然や資源にとって豊かである、とはどのような状態？

⑤日本が豊かな社会であるために必要なものは？



★【ファシリテーターコメント】…「誰かの人権が守られないままの社会に、本当の意味での人権尊重社会はありえない」。そうした問いから出発し、「豊かさとは何か」「開発とは何か」を考え続けることが、このアクティビティの要点です。

開発教育では、「開発」という言葉を明確に定義しています。自分たちが暮らす国や社会や地域が、それぞれに持っている様々な「力」（例えば、自然、文化、歴史、伝統、教育、経済、産業、技術、資源など）を発揮して、生活や社会を「よりよく」「より豊かに」していくこと、そしてどのような生活や社会が「よりよい生活」であり、「より豊かな社会」であるかを常に考えていくことが「開発」の意味。チカラの発揮＝封を開けて力を解放する Development (De Envelope 封を開ける)＝開発。つまり、それぞれの人や地域が持つ力や知恵を覆いから解き放ち、発揮できるようにすることです。他国だけでなく、自国や地域自身の潜在能力を開き合うことによって、共に豊かさを分かち合う。その考え方のもとに開発教育は生まれ、今も進められています。

これからの時代は、新しい課題が次々と現れるでしょう。子どもたちも厳しい未来を生きることになるかもしれません。しかし、誰もが「幸せになるために生まれてきた」という前提を忘れず、「みんなで豊かで幸せであるために何が必要か」を問い続ける場をつくり続けることが大切だと思います。

そして、「誰かから教えてもらうこと」ではなく、自分自身で考え、他者と対話しながら「こうしたことが大事だ」と見つけていくことが大事です。その学びの過程を支えるのが、まさに開発教育なのです。

## 2. 教師海外研修報告

◇教師海外研修受講者1人に3人ずつのテーブルで、それぞれ報告した。3回入れ替えを行った。



……休憩……

### ■ セッション5 参加者の力の発揮を支える 一流れのあるプログラムの作り方

#### 3. 参加型について学ぶ – プログラム、手法、アクティビティ –

◇参加型学習のプログラムについてのミニレクチャー

◇これまでの研修で体験したアクティビティと参加型手法をふりかえり確認する

#### 4. 5ステップで作る参加型プログラム(個人)

◇プログラムの作り方5ステップに沿って、個人でプログラム作り(ステップ4まで)

1) ステップ0: テーマを決める

2) ステップ1: テーマを理解する

- ・参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、テーマからイメージすること、テーマに含まれること、テーマから広がることを書き出す。

3) ステップ2: 自分の「ねがい」を見極める

- ・参加型手法「対比表」を用いて、参加者に「知ってほしいこと・気づいてほしいこと／考えてほしいこと・どうなってほしいのか(行動)」を書き出す。

4) ステップ3: 「ねらい」を定める

- ・これから作るプログラムの目標、プログラムを通して参加者に提供したいことを明確にし、文章化する。

(例1) ① \_\_\_\_\_ について知り、 \_\_\_\_\_ に気づく。

② \_\_\_\_\_ について考え、大切なことは何か共に確認する。

(例2) ①まちの課題を出し合い、問題の原因を探る。

②望む町の姿を共有し、実現のための手立てを考える。

5) ステップ4: ストーリーラインを作る

- ・ステップ2で作った対比表に書き出されたものに、参加者の意識の流れに沿う(考えやすい)ように、順番に番号を振る。

- ・資料の「4行詩」の例を参考にしながら、番号に従い、プログラムのねらい達成に向けた、起承転結(1文ずつ)のストーリーを作る。

6) ステップ5: 起承転結(4行詩)にアクティビティを当てはめる

- ・ステップ4で考えたストーリーライン1文に1文ずつ、アクティビティを当てはめて、プログラムを考える。



## 【プログラムのねらいと展開】

## 1. シン・1年6組🔥

|   |  |
|---|--|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がクラスの一員であることに気付く</li> <li>・みんなで自分のクラスを良くするために考える</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) みんな違うけど、共通点もあるんだね</li> <li>2) 私たち、このままでいいの？</li> <li>3) 探そう、私たちのよりよい姿</li> <li>4) 私の行動3か条！</li> </ol> |
|---|--|

## 2. わたし・あなた・みんなの人権宣言♡

|   |  |
|---|--|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権について知り、日々の生活に関わっていることに気づく</li> <li>・「人権が守られない世界」を共有し、自分たちの生活でできることを考える</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人権とは...？</li> <li>2) 人権が守られないと...？</li> <li>3) みんなの人権宣言～こんな時どうしよう？～</li> <li>4) みんなの人権宣言</li> </ol> |
|---|--|

## 3. 輝け！足助の未来！

|   |   |
|---|---|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足助の生態系の現状について知る</li> <li>・その原因について考え、自分にできることを見つける</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 写真を比べて、今と昔の現状を知る</li> <li>2) 原因を探り、自分との関係について気付く</li> <li>3) 「もしこのままだったらどうなるか」を話し合おう</li> <li>4) 自分たちができることの手立てを考える</li> </ol> |
|---|---|

## 4. グラデーションのある世界～友だち1000人できるかな！～

|   |   |
|---|---|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人がうのは、外国人、日本人関係なく、誰にでもあることに気付く</li> <li>・ちがいのよさを知ること、お互いのちがいを尊重する</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周りの人とのちがいに気付く</li> <li>2) 外国とのちがいにも気付く</li> <li>3) ちがいの大切さに気付く</li> <li>4) 自分とちがう人とのコミュニケーションの仕方考える</li> </ol> |
|---|---|

## 5. みんなでつくろう、安心できるクラス

|  |  |
|--|--|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分について知り、他者とのちがいに気付く</li> <li>・みんなにとって“安心できるクラス”をつくるために一人一人ができることを考える</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分を知り、共有する</li> <li>2) どんなクラスにしたい？</li> <li>3) 各グループの「○○」という概念について考える</li> <li>4) “○○なクラス”をつくるためにはどうしたらよい？</li> </ol> |
|--|--|

## 6. 未来へ～ぼく・わたしの行動宣言2025～

|  |   |
|--|---|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化について肯定的に出会い、それぞれの国がもつ課題に気づく</li> <li>・SDGsを通して共通の課題に気づき、自分たちにできる課題解決の手立てを考える</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の知らないおもしろい文化・課題があることを知る</li> <li>2) SDGsの達成状況を把握</li> <li>3) 日本のSDGsの達成状況を知る</li> <li>4) 行動宣言を立てる</li> </ol> |
|--|---|

## 7. フェアトレード商品をバズらせよう！

|   |  |
|---|--|
| <p><u>ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアトレードについて知る</li> <li>・自分との関わりについて考える</li> </ul> | <p><u>展開</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) どこから来たの？誰が作ったの？</li> <li>2) フェアトレードについて知り、意味と価値について気付く</li> <li>3) どんなアクションがあるか考える</li> <li>4) バズらせる方法を考え、プレゼンする</li> </ol> |
|---|--|

■ セッション6 実践報告フォーラムに向けた確認・準備

7. 第4回+フォーラムまでのスケジュールとフォーラムの概要の説明

◇事務局から見出しの内容について説明

8. フォーラムで提供する実践体験プログラムの選定と有志チームの結成

◇1人3票ずつ投票し、投票数が多いものからプログラムを3つ選び、有志チームのメンバーを募る

9. ふりかえり

◇気づいたこと・学んだこと、大切だとおもったこと、これから実行しようとおもうことの3点をグループで共有

終了

開発教育指導者研修実践編 1025-③  
 知能行動力向上プログラム  
 -参加型プログラム作り方-

ポイント  
 ① 30分以内の時間で履修可能な教育学習内容のまとまりのこと  
 ② アクティビティもいくつか入れて、ねらいも達成できるもの。  
 ③ 「学習者の意識に合う」  
 = 意味のあるアクティビティとして、学習者が発見できる(学びがある)ストーリー性があるもの。

ステップ0 テーマ決め  
 ステップ1 テーマ理解  
 ステップ2 「ねらい」の具現化  
 ステップ3 ねらい達成  
 ステップ4 ストーリー作り  
 (COM) ステップ5 ストーリーにアクティビティを入れる

ねらい達成  
 ① ねらい達成(1) ねらい達成(2)  
 ② ねらい達成(3) ねらい達成(4)

アクティビティ  
 ① 何を知りたい? 何を知りたい? 何を知りたい?  
 ② 何を体験したい? 何を体験したい? 何を体験したい?

ねらい達成のフロー  
 ↓ 4行詩に合う  
 ① ねらい達成(1) ねらい達成(2)  
 ② ねらい達成(3) ねらい達成(4)

1. ねらい達成!  
 2. 発見あり!  
 3. 発見あり!  
 (10分)

開発教育指導者研修実践編 1025-③  
 知能行動力向上プログラム  
 チームでプログラム作り!

① 個人プログラムの共有 (テーマ、ねらい、4行詩)  
 ② ベースにプログラムを2つほど選ぶ  
 ③ 対象を決める。(時間は2コマ)  
 ④ ねらいと4行詩をマッチングUP  
 ⑤ 4行詩にアクティビティを追加

|    |  |  |
|----|--|--|
| 名前 |  |  |
| 担当 |  |  |
| 役割 |  |  |
| 備考 |  |  |

最終フォーマット  
 女性! 14:40 録!

7分セッション 14分 10分!  
 2分 プログラム概要説明  
 8分 プログラムの部(アクティビティ)を参加型でテストフェーズ!

① プログラム概要説明  
 ② ねらい達成(1) ねらい達成(2)  
 ③ アクティビティ(1) アクティビティ(2)  
 ④ テーマ決め  
 ⑤ 備品巡回(巡回マップ)

♡ 上記の参加型プログラムのポイント♡  
 ・ねらい達成できるか?  
 ・参加者の発見を促しているか?  
 ・参加者同士が関係性を築いているか?  
 ・参加者のニーズに合っているか?  
 ・意味のあるアクティビティか?  
 ・時間配分、手法は適切か?  
 ・学びに気づきやすいように設計されているか?  
 ・参加者の発見を促しているか?  
 ・参加者の発見を促しているか?

# V 中間会合

## ■ 開催概要

- ◆ 日時:第1回 2025年11月15日(土)／第2回 2026年1月17日(土)  
実践体験ワークショップ検討会 13:00~17:00、実践者フォローアップの会 16:00~17:00
- ◆ 場所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数:実践体験ワークショップ検討会  
[第1回]受講者 19名、JICA 1名、NIED 5名 合計 25名  
[第2回]受講者 21名、JICA 1名、NIED 5名 合計 27名  
実践者フォローアップの会  
[第1回]受講者 8名、JICA 1名、NIED 2名 合計 10名  
[第2回]受講者 2名、JICA 1名、NIED 1名 合計 3名
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター伊澤令子

## ■ ねらい

- ① 実践報告フォーラム 2026 における受講者有志による実践体験ワークショップの実施が円滑に進むようプログラム作成支援、当日の準備支援を行う。
- ② 受講者の各現場での実践状況を共有し、助言する。

## ■ プログラムの内容

### <セッション1> 実践体験ワークショップ検討会

1. はじめに 検討会の進め方の説明、アイスブレイキング

#### 2. 各グループでの検討

- ベースとなるワークショッププログラム(中間会合①:実践編第3回で作成したもの、中間会合②:中間会合①で作成したもの)についてグループで話し合い、内容をブラッシュアップ、役割分担、配付教材を決定。

#### 3. 全体発表・より良くするための提案、再検討

- 検討結果をまとめ、全体で発表。提案などを受けて、再検討。



### <セッション2> 実践者フォローアップの会

- 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者に対して、NIED スタッフが個別に相談に応じた。



以上

# VI 実践報告シート

## ■ 実践報告シート一覧

| No. | 名前       | 対象                      | 時間数 | テーマ                          | タイトル   |
|-----|----------|-------------------------|-----|------------------------------|--|
| 01  | 石原 舞     | 小学校5年生(32名)             | 10  | 国際理解・人権・貧困<br>・環境・SDGs       | 同じ地球、違う暮らし ～SDGsから考える持続可能社会～                     |
| 02  | 伊藤 柚季 *  | 小学校6年生(89名)             | 12  | 国際理解、環境                      | みんなで はなそう まちのこと みはまクリーンプロジェクト                    |
| 03  | 上嶋 優里    | 中学校1年生(112名)            | 8   | SDGs、地球規模の問題                 | My Action for SDGs ～Think Globally, Act Locally～ |
| 04  | 大竹 成信    | 小学校6年生(33名)             | 8   | 環境                           | 嘘を見抜け！クイズで迫る地球の未来                                |
| 05  | 尾河 実希子   | 小学校3年生(30名)             | 6   | セルフエスティーム、<br>コミュニケーション、共生   | つながる・ひろがる・クラスの根っこ                                |
| 06  | 落合 亨     | 小学校5年生(36名)             | 13  | 国際理解、SDGs、<br>貧困問題           | スマホはあるのに、今日の夕飯は無い？～見えにくい貧困の正体～                   |
| 07  | 小野田 リコ   | 小学校1年生(5名)              | 11  | 環境、地域活性化                     | 僕等の町が大変だ！任せて、足助の未来！                              |
| 08  | 垣内 望花 *  | 中学校1年(224名)             | 4   | 人権問題・共生                      | あつたかい世界・日本・学校・クラスへ～共に生きる～                        |
| 09  | 神谷 亮助    | 小学校6年生(119名)            | 20  | 国際理解、環境、SDGs                 | 未来へつなげ！わたしたちのパビリオン～亀城万博2026～                     |
| 10  | 木下 美保    | 大学2～4年生(17名)            | 3   | 平和、異文化理解、<br>メディアリテラシー       | パレスチナ問題ってなに？～ゼロから知る はじめの一步～                      |
| 11  | 幸田 恵美    | 中学校1年生(120名)            | 6   | 食文化、食糧問題、<br>飢餓、環境           | 知りたい！話したい！作りたい！～日本と世界の食を考えよう                     |
| 12  | 近藤 千枝    | 小学校1～6年生(167名)          | 6   | 人権、セルフエスティーム<br>、キャリア        | 夢をもち じぶんも相手も大切に なたたかな学校をめざして                     |
| 13  | 澤田 晃一 *  | 特別支援校高等部<br>1、2年生(4名)   | 7   | 国際理解、SDGs                    | ネパールの高校生は何の夢を見るのか                                |
| 14  | 下谷 英克    | 中学校1～3年生<br>(特別支援学級22名) | 6   | 多文化共生、国際理解                   | VAMOS！心をつないで、未来へ行こう！                             |
| 15  | 杉下 絵里華 * | 小学校6年生(62名)             | 18  | 国際理解、SDGs                    | ネパールからのメッセージ！ぼくらの未来会議                            |
| 16  | 高羽 亜紀    | 中学校1年生(80名)             | 9   | 社会の構成員という自覚、<br>人権、共生、公正、多様性 | 自分たちが作る、学校という社会                                  |
| 17  | 中條 真実    | 高校3年生(38名)              | 38  | 難民、国際理解、<br>コミュニケーション        | 未来を描く対話～模擬国連で挑む難民問題～                             |
| 18  | 出村 寛美    | 教職員(25名)                | 1   | コミュニケーション、<br>合意形成、リフレクション   | 教職員参加型で Let's My 探・リフレクション                       |
| 19  | 中元 佑実    | 中学校3年生(106名)            | 7   | SDGs                         | もし自分たちが世界のトップリーダーなら…                             |
| 20  | 名淵 裕     | 小学校4年生(77名)             | 23  | 環境                           | 環境の輪を広げる ～学習発表会～                                 |
| 21  | 西川 真衣    | 小学校6年生(28名)             | 7   | コミュニケーション、<br>セルフエスティーム      | わたしは素敵！あなたも素敵！「ちがいを豊かさ」に、意見の対立、もう怖くない！           |
| 22  | 丹羽 真琴 *  | 小学校6年生(96名)             | 7   | 人権、国際理解                      | 創ろう！みんなの世界・みんなの幸せ♡                               |
| 23  | 野田 琴乃 *  | 中学校1・2年生(179名)          | 4   | 多様性理解、共生、<br>コミュニケーション       | 違いを知り、同じ願いへ                                      |
| 24  | 萩尾 圭     | 小学校2年生(16名)             | 6   | 共生、コミュニケーション                 | 学級をカラフルにしよう！～自分を知って 友だちを知って～                     |
| 25  | 橋本 幹子 *  | 小学1年生～中学生<br>(27名)      | 2   | 異文化理解、自己の確立<br>、コミュニケーション    | ネパールへ冒険！お宝ゲット大作戦！～つながる・考える・伝え合う～                 |
| 26  | 東谷 亜希子   | 高校3年生<br>(国際理解コース35名)   | 5   | 人権、環境                        | サステナブルな社会を作るには？                                  |
| 27  | 深萱 健次    | 小学校5年生(54名)             | 4   | 環境、共生、教育<br>、社会参画            | 身近なことから「よりよい社会」について考えよう                          |
| 28  | 松川 咲紀    | 小学校5年生(22名)             | 6   | 国際理解、自己理解<br>、他者理解           | 「わたし」も「あなた」も大切にできる地球市民                           |
| 29  | 松本 双葉 *  | 小学校5年生(34名)             | 9   | 多文化共生 国際理解                   | 咲かそう！わたし・あなた・みんなの笑顔                              |
| 30  | 真野 直亮 *  | 中学校1年生(14名)             | 21  | 共生、貧困、<br>ソーシャル・アクション        | Personal is Political ～共生社会に向けた私たちの選択～           |
| 31  | 森田 由梨奈   | 小学校2年生(23名)             | 30  | 地域理解                         | トレジャーハンターみあい～美合学区の宝を見つけよう～                       |
| 32  | 八重尾 一貴   | 小学校5年生(117名)            | 19  | 食品ロス、共生、環境                   | 食品ロス問題～解決アクションプロジェクト～                            |
| 33  | 山越 栄太郎   | 小学校6年生(69名)             | 19  | 多様性、多文化共生                    | わたしとあなたと世界のみんな                                   |
| 34  | 山田 拓弥    | 中学校2年生(152名)            | 10  | 国際理解、SDGs、キャリア               | SDGs×キャリア教育～開発教育を通して、優しい未来を～                     |
| 35  | 吉岡 円茄    | 高校3年生(108名)             | 8   | 多文化共生、人権                     | 国語科だからできること 教科×国際理解教育                            |
| 36  | 脇田 佐知子   | 小学校5年生(30名)             | 8   | 人権(セルフエスティーム)                | つくろう！みんなが幸せにくらせる世界                               |

凡例：「\*」…教師海外研修(ネパール)受講者


## 同じ地球、違う暮らし ～SDGs から考える持続可能社会～

01

|      |   |   |                                      |
|------|---|---|--------------------------------------|
| 所属   | 愛知県名古屋立呼続小学校  | 実践者   | 石原 舞                                 |
| 対象   | 小学校5年生（32名）   | 実践日   | 2025年9月～10月                          |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 10時間                                 |
| テーマ  | 国際理解・人権・貧困・環境・SDGs  |   |                                      |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起きている地球規模の課題を身近に感じ、自分事としてとらえることができる</li> <li>・SDGsを通して世界と出会い、国際理解や人権、貧困、環境について考える。</li> </ul>                |   |                                      |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考                                   |
|      | 1   | <b>◆SDGsについて知ろう！</b><br>① 3つは本当1つは嘘 ～夏休みの出来事バージョン～【アイスブレイク】<br>② SDGsについて知ろう<br>③ 日本のSDGsの達成度を予想しよう。【グループワーク】   | プリント①                                |
|      | 2   | <b>◆SDGsを世界全体で取り組む意味を考えよう。</b><br>① アフリカのイメージを話す。<br>② 地図でアフリカを探す。<br>③ アフリカと日本のつながりを考える【グループワーク】<br>④ 遠いアフリカと日本がつながっていることを振り返る。                          | プリント②<br>地図帳<br>☆JICA ワーク①           |
|      | 3   | <b>◆学校に行けない子どもたちについて考えよう。</b><br>① もし学校に行けなかったら…を考える【派生図】<br>② 全体で共有し、共感できる書き込みに○をつける【ギャラリー方式】<br>③ 学校にいけなカードを並べ、貧困はループすることを知る。<br>④ 学校に行けない8つの理由を全体で考える。 | プリント③<br>☆JICA ワーク②                  |
|      | 4   | <b>◆他国のSDGsの現状を知ろう。</b><br>① 名前を伏せた4国のSDGs達成状況を見て、国を推測する。<br>② 全体で理由をつけながら推測を共有する。【グループワーク】<br>③ 現状を知るとともに、他国への関心を向ける。                                    | 2025SDGsランキングを印刷<br>プリント④            |
|      | 5・6・7   | <b>◆様々な国の現状を調べよう。</b><br>① 国が描かれたカード(32枚)を1人1枚引く<br>② 決まった国の本を見て、国について知る。<br>③ SDGsランキングを調べ、調べている国の良いところ、達成されていないところの現状をまとめる。                             | プリント⑤<br>国カード(子供分)<br>図書室の本<br>タブレット |
|      | 8・9・10  | <b>◆調べた国を発表し、行動宣言をしよう。</b><br>① 1人1分30秒で調べたことと自分が考えたことを発表する。<br>② 自分の生活を振り返り行動宣言する。【ギャラリー方式】【行動宣言】  | ポスターかパワーポイント<br>プリント⑥                |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の暮らしは当たり前ではないと気付き、日常への感謝が高まり実生活の行動に影響した。</li> <li>・教材を子どもの身近なものにし、環境問題以外のSDGsの課題についても真剣に考えることができた。</li> </ul> |   |                                      |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困や紛争は日本の子供たちに身近ではないため、題材との合わせ方を工夫しないと考えが深まらない。そのため、時事的な課題や児童の実態を見て実践内容を明確にして臨まなければいけない。</li> </ul>             |   |                                      |
| 備考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪万博が開催されていたことにより、児童のSDGsへの関心がとても高まっていた。</li> <li>・校外学習として、JICA 中部を訪ねた。</li> </ul>                              |   |                                      |

# ④みんなで ⑤はなそう ⑥ちのこと みはまクリーンプロジェクト

02

|      |   |   |  |  |
|------|---|---|--|--|
| 所属   | 愛知県美浜町立河和小学校  | 実践者   | 伊藤 柚季  |  |
| 対象   | 小学校6年生（89名）   | 実践日   | 2025年 9月～12月   |  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 12時間   |  |
| テーマ  | 国際理解、環境   |   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールという国に関心をもち、ネパールと日本に共通する課題を見つける。</li> <li>・プラスチックの行方を知り、人体や環境に及ぼす影響を考える。</li> <li>・美浜町の環境をよりよくするための手立てを考え、計画を立てる。</li> </ul> |   |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考   |  |
|      | 1   | <b>「はじめまして！ネパール！」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールはどんな国なのかを知る。(Google スライド)</li> <li>・民族衣装や楽器などの実物を体験する。</li> </ul>  | <b>【使用した教材】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆずき先生のネパール日記(スライド)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールで収集したグッズ</li> <li>・ネパールで食べた食べ物の写真9枚</li> <li>・美浜町の海岸(6か所)や道端の写真</li> <li>・動画「なるほどプラスチック」(プラスチック循環利用協会「プラスチックのはてな～小中学生のための学習支援サイト～」)</li> <li>・DEAR 開発教育協会『プラスチックごみ 開発教育アクティビティ集』</li> </ul> |  |
|      | 2   | <b>「くらべて！ならべて！ネパール食べ物ランキング」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見てグループごとにランキングを作る。【ダイヤモンドランキング】</li> <li>・1位の食べ物は選んだ理由も考えて、学級全体で発表する。</li> <li>・教師の体験談を交えた各写真の料理の説明を聞く。</li> </ul>      |  |  |
|      | 3・4   | <b>「ネパールのキッチンをのぞいてみよう！」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・調理方法や生ゴミの処理方法を知り、「へえ～！」や「なんで？」と思ったことをまとめる。【対比表】</li> <li>・対比表の中から環境に優しいポイントを見つけて発表する。(ポップコーン方式)</li> </ul>                     |  |  |
|      | 5・6   | <b>「くらべてみよう！ネパールと日本のゴミ事情」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールでのポイ捨ての様子を見て原因を考える。</li> <li>・日本の海や山の様子を見て、美浜町のゴミの現状に気付く。</li> <li>・ネパールと日本のゴミ回収の様子や分別について知る。</li> </ul>                 |  |  |
|      | 7   | <b>「どこへ行くの？プラスチックの一生」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりにあるプラスチック製品を見つける。【ブレインストーミング】</li> <li>・見つけたものから、昔はプラスチックではなかったものに丸をつける。</li> <li>・プラスチックについて詳しく知る。【クイズ】</li> </ul>         |  |  |
|      | 8   | <b>「プラスチックと私たち」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋ごみやマイクロプラスチックについて知る。【クイズ】</li> <li>・プラスチックが増えるとどうなるかについて考える。【派生図】</li> </ul>   |  |  |
|      | 9～12  | <b>「主役はわたしたち！みはまクリーンプロジェクト」</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちにできることや周りを巻き込んでできそうなことを考える。</li> <li>・グループで1つプロジェクトの提案書を作成する。(半模造紙)</li> <li>・作成した提案書を学年で審査し、各クラスの優秀作品を決める。</li> </ul> |  |  |
|      | 成果  | <p>最初はネパールと肯定的に出会い、徐々に現状や課題を話し合う流れにしたところ、児童がネパールに親しみをもち、課題を自分事として考えることができた。また、ネパールと美浜町の共通の課題を見つけさせることで、つながりを感じながら自分たちの住むまちをよりよくするための企画を考えることができた。</p>   |  |  |
| 課題   | <p>実践を行う中で、「ネパールの人と友達になりたい」「ネパールの人と話してみたい」など前向きな声が出た。学年全体で時間を調整し、オンラインでネパールの人と実際に交流する機会を設けることができると学びが深まったと思う。</p>   |   |  |  |
| 備考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の1～4年生にも第1時の授業を行い、他の先生方にも見ていただいた。</li> <li>・町内の教員に向けて学習会を開き、ネパールや教師海外研修について発表した。</li> </ul>                                   |   |  |  |

## My Action for SDGs ～Think Globally, Act Locally～

03

|      |   |   |                                |
|------|---|---|--------------------------------|
| 所属   | 愛知県名古屋市立名南中学校   | 実践者   | 上嶋 優里                          |
| 対象   | 中学校1年生(112名)  | 実践日   | 2025年12月                       |
| 実践教科 | 英語、国際理解教育   | 時間数   | 8時間                            |
| テーマ  | SDGs、地球規模の問題  |   |                                |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の問題について関心を持ち、その原因や影響について考えることができる</li> <li>・グループワークを通して他者と関わり合いながら、地球規模の問題に対して自分ができていることを行動宣言として表明することができる</li> </ul> |   |                                |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考                             |
|      | 0.5   | 事前アンケート(世界の問題やSDGsにどのくらい興味があるか、など)  | ロイロノート                         |
|      | 1   | 地球規模の問題について知り、その影響を考える<br>・「もしも世界がこのままだったら…」【派生図】<br>・他のグループの派生図を見に行く【ギャラリー方式】                              | パワーポイント                        |
|      | 2～4   | 教科書Unit8の本文に関連した内容について考える<br>・「学校に行けない」原因【因果関係図】<br>・プラスチック問題【ポップコーン方式、対比表】<br>・井戸があると解決できる問題【KJ法】          |                                |
|      | 5   | SDGsについて知る①<br>自分の興味のあるゴールについて調べる<br>参考:日本ユニセフ協会HP、るるぶキッズHP   | Youtube「SDGsって何だろう」<br>パワーポイント |
|      | 6   | SDGsについて知る②<br>調べた内容をグループで共有する<br>SDGs目標達成にむけて自分ができていること考える<br>個人でふせんに書く→グループで共有→他のグループを見に行く【ギャラリー方式】       |                                |
|      | 7   | 行動宣言を表明する<br>・付箋の内容をグループで英語にする<br>・紙を回し、他のグループの付箋の内容も英語にする【回し読み】<br>・自分が使いたい英語の表現を3つメモする<br>・行動宣言を英語と日本語で書く |                                |
|      | 0.5   | 事後アンケート   | ロイロノート                         |
|      | 成果  | さまざまな手法を取り入れたり、毎回グループのメンバーを入れ替えたりすることで、生徒がより主体的に話し合いに参加し、考えを深める様子が見られた。授業前よりも、地球規模の問題に対して興味をもつ生徒が増えた。       |                                |
| 課題   | 地球規模の問題に対して興味のない生徒が一定数いるため、世界と自分との関わりを考えさせる機会をもちたい。   |   |                                |
| 備考   | 3学期の道徳の時間をつかって、世界と自分との関わりを考えさせている。  |   |                                |


## 嘘を見抜け！クイズで迫る地球の未来

04

|      |   |   |                          |
|------|---|---|--------------------------|
| 所属   | 愛知県西尾市立一色中部小学校  | 実践者   | 大竹 成信                    |
| 対象   | 小学校6年生(33名)   | 実践日   | 2025年12月～2026年1月         |
| 実践教科 | 理科  | 時間数   | 8時間                      |
| テーマ  | 環境  |   |                          |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題について、意見の可視化や対話、調べ学習を通して多面的に考え、地球や地域の未来を自分事として捉えられるようにする。</li> <li>・クイズやゲーム性を取り入れ、主体的に学び、根拠をもって伝え合う力を育てる。</li> </ul> |   |                          |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考                       |
|      | 1   | 問題意識の共有①<br>「木がなくなると」を中心に、矢印を外側に向けた派生図を実施(9班・1班3～4人)。完成後、図をグループで回し読みし、共感できた意見に☆印を付けた。       | A3用紙/グループ活動/可視化/回し読み/☆印  |
|      | 2   | 問題意識の共有②<br>「より良い愛知県にするために」を中心に、矢印を内側に向けた因果関係図を実施。前時と同様に回し読みを行い、共感できた意見に☆印                  | A3用紙/グループ活動/解決志向/☆印      |
|      | 3   | 視点の拡張<br>「未来の地球のためにできることは何だろうか」をテーマに話し合い、環境問題を自分事として捉える活動を行った。                              | 全体交流/自分事化                |
|      | 4   | 課題の整理<br>二次元軸表(X軸:自然—人、Y軸:地球—地域)を用い、問題だと思うことを付箋に書いて整理。グループで回し読みし、共感した内容に☆印                  | 二次元軸表/付箋/分類/回し読み/☆印      |
|      | 5・6   | 調べ学習<br>これまでにあがった問題の中から関心のある内容を選び、図書室(図書司書の支援)やタブレットを活用して調べ学習を行った。                          | 図書室/司書連携/タブレット/調べ学習/情報整理 |
|      | 7   | 表現活動<br>調べた内容をもとに「3つの真実、1つの嘘」のクイズを作成し、正確に伝える工夫を考えた。   | A3用紙/クイズ作成/話し合い          |
|      | 8   | まとめ・活用<br>クラスでクイズデスゲームを実施。正解・不正解に応じてハートのシールをやり取りし、互いの発表。ふりかえり。<br>「私の行動宣言3か条」を書き、学習のまとめとした。 | ゲーム形式/発表/傾聴              |
|      | 成果  | 意見の可視化や回し読みを通して、多様な考えに触れ、環境問題を自分事として捉える児童が増えた。調べ学習やクイズづくりを通して、得た知識を整理し、相手に伝えようとする姿が見られた。    |                          |
| 課題   | 楽しさが先行し、環境問題の因果関係や根拠の理解が浅くなる場面があった。個々の学びを行動につなげるための振り返りや評価の工夫が必要である。  |   |                          |
| 備考   | A3用紙を用いた個別の思考と協働的な活動を通して、意見を可視化し、多様な考えに触れながら学びを深めた。調べ学習やクイズ、ゲーム性のある活動により、環境問題を自分事として捉え、主体的に考え伝え合う姿が見られた。  |   |                          |

## つながる・ひろがる・クラスの根っこ

05

|      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| 所属   | 愛知県名古屋市稲葉地小学校   | 実践者  | 尾河 実希子   |
| 対象   | 小学校3年生（30名）   | 実践日  | 2025年10月～12月   |
| 実践教科 | 学級活動・道徳   | 時間数  | 6時間  |
| テーマ  | セルフエスティーム、コミュニケーション、共生  |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の共通点と相違点に気付き、多様な考え方を認める。</li> <li>・仲間のよさを見つけ、自分のよさも再発見して自信を育てる。</li> <li>・言葉と聴き方を学び、安心して話せる共生的な学級をつくる。</li> </ul> |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考   |
|      | 1   | <u>&lt;同じところ・違うところを知ろう&gt;</u><br>◆質問に対する答えに合わせ、教室の四隅(4つの選択肢)に移動し、立ち位置で意見を示す。各箇所の数名に理由を聞き、価値観の違いに気付く。<br>◆質問し合いながら、グループ全員の共通点・相違点をできるだけ多く見つけて書き出す。相互理解しながら、違いを楽しむ。【ブレインストーミング】 | 「よりよい未来をとともに学び、ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集コミュニケーション編」NIED<br> |
|      | 2   | <u>&lt;わたしは誰でしょうクイズをしよう&gt;</u><br>◆「わたしは…」で始まる文を10個書き、ペアで伝え合って質問する。ペアの相手について他者紹介する。→全体の場で読み上げ、誰のことか当てるクイズを通して、仲間への関心を高め、意外な一面やよさを見つける。  |  |
|      | 3   | <u>&lt;再発見！自分のキラリ&gt;</u><br>◆名前を書いた紙に仲間から「こんな所すてきだよ」という事を書いてもらい、自分のいい所を再発見する。   |  |
|      | 4   | <u>&lt;心ほかほか あったか言葉コレクション&gt;</u><br>◆「言われて嫌だった言葉」を無記名で出し、自分が何気なく言ってしまった言葉でも、相手を傷つけてしまうことがあると気付く。<br>◆「言われてうれしい言葉」「元気が出る言葉」をグループで書き出し、教室に掲示する。【ブレインストーミング】【ギャラリー方式】            |  |
|      | 5   | <u>&lt;めざせ 聴き方名人！&gt;</u><br>◆教師と児童の演技を通し、聴き方で相手の受け取り方や関係が変わることを体験的に学ぶ。無関心・威圧的・熱心な聞き方を比べ、「伝える」だけでなく「聴く」ことの大切さに気付く。【シミュレーション】   |  |
|      | 6   | <u>&lt;安心できるクラスにするために&gt;</u><br>◆子どもたち自身で「安心して話せるための約束をクラスの行動指針としてまとめる。【行動宣言】   |  |
| 成果   | アクティビティを通して、普段関りの少ない友達とも話す機会が増え、学級内でいろいろな他者とのつながりをもつことができた。友達の意外な一面やよさに気付き、仲間への関心が高まった。言葉を可視化することで、何気ない一言が相手を傷つけたり、支えたりすることに気付くことができた。                      |  |  |
| 課題   | 活動中は意識できても、日常場面(休み時間やトラブル時)で言葉・聴き方が元に戻りやすく、継続的な振り返りが必要である。また、全体交流の場では発言が得意な子に偏りやすいため、少人数で全員が話す時間や共有の仕方を工夫したい。   |  |  |
| 備考   | 成果物は教室に掲示し、思考の振り返りや多様な意見に触れられるようにした。常時活動として、自分を認める活動や交流を図るアクティビティを継続し、普段あまり関わりのない友達とも関係をつくる機会を増やした。   |  |  |

# スマホはあるのに、今日の夕飯は無い？～見えにくい貧困の正体～

06

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 所属   | 静岡県静岡市立駒形小学校  | 実践者   | 落合 亨                                      |
| 対象   | 小学校5年生（36名）   | 実践日   | 2025年5月～12月                               |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 13時間                                      |
| テーマ  | 国際理解、SDGs、貧困問題  |   |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的な課題である貧困問題について、その背景を考えながら、より良い社会の実現のためには一人一人の理解や行動が必要であることに気づく。</li> <li>・貧困問題をより身近なテーマとして捉えることで、自分にできることを積み重ねていこうとする姿勢を育む。</li> </ul> |   |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考  |
|      | 1・2   | <b>SDGsの目標について、一つ一つ詳しく調べよう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずはどんな目標が掲げられているのかを知る。</li> <li>・自分の一番興味関心のあるテーマを選択する。</li> <li>・YouTubeでSDGsのテーマに沿ったダンスを鑑賞し、全員で踊ることで、リズムに合わせてテーマを覚える。</li> </ul> | YouTube 動画<br>「SDGsのうた」<br>NHK for school |
|      | 3～6   | <b>SDGsについて、理解を深めよう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つのテーマは具体的にどんな内容なのか調べる。</li> <li>・調べた内容をスライドにまとめる。</li> </ul>  | 目標カード<br><br>SDGs すぐろく                    |
|      | 7・8   | <b>調べた内容を友達と伝え合おう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに調べた内容を発表し、聞き合うことで、自分の選択しなかったテーマについても理解を深める。</li> </ul>   | 写真資料<br>「ハゲタカと少女」                         |
|      | 9・10  | <b>「貧困問題」についてみんなで話し合おう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困の定義やイメージを全員で共有する。</li> <li>・世界的に貧困と言われている国の生活実態を動画で知る。</li> </ul>   |   |
|      | 11・12   | <b>日本に「貧困」は存在するのか考えよう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国である日本には貧困は存在しないのか？実態はどのようなのか？具体的な資料から話し合う。</li> </ul>   |   |
|      | 13  | <b>自分にできる未来へのアクションを考えよう！</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今」「身近に」「自分なら」できることを話し合う。</li> <li>・今後の活動を検討する。</li> </ul>   |   |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間として SDGs に関する問題解決型授業を展開し、世界的な課題に向き合うことができたり、旧友と積極的に関わり合ったりすることができた</li> <li>・世界の現状を目の当たりにし、できることから始めようとする気持ちを持つことができた</li> </ul> |   |   |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsのテーマの中から、児童からの興味関心が最も高かった「貧困問題」について詳しく掘り下げて展開したが、時間的な制約から他のテーマについて理解を深めることが難しく、内容に偏りが生じてしまった</li> </ul>                               |   |   |
| 備考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月1週目の授業参観で、保護者向けに一年間の取り組みを発表することを予定している。</li> </ul>  |   |   |


## 僕等の町が大変だ！任せて、足助の未来！

07

|      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 所属   | 愛知県豊田市立足助小学校   | 実践者  | 小野田 りこ   |
| 対象   | 小学校1年生（5名）   | 実践日  | 2025年10月～2026年3月   |
| 実践教科 | 生活科  | 時間数  | 11時間   |
| テーマ  | 環境、地域活性化   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・足助の【今】と【昔】を比べ、足助の町が抱える問題に気づく</li> <li>・足助が100年後も人が集まる町となるように自分ができることについて考える。</li> </ul>                                    |  |  |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考   |
|      | 起①   | 足助の町の魅力について出し合う<br>→思いつくままに出し合う。教師は、子どもが体験してきた事柄と結びつけながら食べ物や観光など大きく分野に分けて整理していく。<br>例;もみじ、猪コロッケ、足助牛乳、鮎の掴み取り<br>足助の今の状態を絵で表し、視覚的にイメージを共有できるようにする。互いにその絵を見て、感想を伝え合う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>★ブレンストーミング</li> <li>○町探検</li> <li>○鮎の放流体験</li> <li>○香嵐溪散策</li> <li>○ゴンゾレ</li> </ul> |
|      | 起②   | 足助の町の【今】と【昔】を比べて、問題を理解する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>★イメージ図</li> <li>★アンケート</li> </ul>   |
|      | 承③   | →教師は写真や具体的な数値で1年生が理解しやすいような提示の仕方を工夫する。<br>例;もみじの減少、観光客の減少、獣の数の増加<br>このまま何もせずに生活していくと、足助はどうなっていくのか考える。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>★フォトランゲージ</li> <li>○香積寺での校外学習</li> </ul>  |
|      | 承④   | 例;足助に人が来なくなって寂しい町になってしまうかも。<br>もみじが無くなって、観光名所じゃ無くなってしまうかも。<br>どうしてそうなってしまったのか原因を考える<br>→教師からこのままで足助の町は100年人が集まる町となるのかについて  | <ul style="list-style-type: none"> <li>★イメージ図(悪い状態)</li> <li>★タイムライン</li> </ul>  |
|      | 転⑤⑥  | 問いかける。<br>例;観光客が少ないのは足助の良さを知らないからでは？<br>遠くの町の人が足助を知れば観光客は増えるのでは？<br>今自分にできることを考える(個人で)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>★KJ法</li> <li>○有松市との交流会</li> </ul>  |
|      | 結⑦   | 例;足助の素敵なところをPRしたら良いんじゃない？<br>今自分たちにできることを考える(学級で)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>★行動計画</li> <li>○もみじ募金</li> </ul>  |
|      | 結⑧   | 例;園の子に知らせたらどうかな。お家の人は知ってるかな。<br>足助小学校で行っている活動を誰かに伝えられないかな。<br>伝える活動(園の子どもたち、保護者、ナミビアの小学生)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○川の綺麗さを調べる活動</li> </ul>   |
|      | ⑨⑩   | →園小交流会、授業参観、ナミビア小学校とのオンライン交流<br>振り返り   | <ul style="list-style-type: none"> <li>★マゴリス・ウィール</li> <li>★アンケート</li> </ul>   |
|      | 終末   | →学んだことや気がついたことを自分の言葉でまとめる  |  |
| 成果   | 今まで「足助は有名な町で、ずっとこのままの状態なはず」と思っているように見受けられた1年生の子どもたちだったが、今回の活動を通して「自分たちが少しでも動いて努力していかないと足助は良くなっていかない」「今の足助の姿があるのもこれまで誰かが頑張ってくれたから」と気づくことができた。また、具体的に伝える活動を行うことができた。 |  |  |
| 課題   | 子どもたちにとって当たり前である足助の特徴や課題を考えることは難しかったようだ。「足助に住まない人から見た足助」と比べる活動が必要だったと感じる。  |  |  |
| 備考   |  |  |  |

## あつたかい世界・日本・学校・クラスへ～共に生きる～

08

|      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| 所属   | 小牧市立味噌中学校   | 実践者  | 垣内 望花  |
| 対象   | 中学校1年(32人※7クラス)   | 実践日  | 2025年11月～12月   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間・学級活動・道徳   | 時間数  | 4時間程度(他クラスも実施)   |
| テーマ  | 人権問題・共生   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他文化(ネパール・日本)の異なる点、同じ点を比較することで世界の視点を広げる。</li> <li>・ 人権週間中に人権問題について触れることで、人権を身近に感じられるきっかけにする。</li> <li>・ 世界の人権問題を知り、子どもの権利条約から、日本の子どもの人権についても考える。</li> </ul> |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考   |
|      | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 豊かな社会にとって大切なこと〈自分にとっての豊かさとは〉</li> <li>① 「豊かな社会にとって大切なこと」シートから自分にとっての豊かさを考える。9枚選ぶ</li> <li>② グループで共有を行い、自分の選んだ項目を9枚から5枚に絞る。</li> </ul>   | 開発教育協会(DEAR)<br>・豊かさの開発<br>・豊かさランキングの視点5種  |
|      | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 豊かな社会にとって大切なこと〈違う立場で考えよう〉</li> <li>① ネパールクイズから世界を感じる。</li> <li>② 「日本の子供達、途上国の若者、社会的マイノリティ、自然や資源にとって、日本が豊かな社会であるために」5つの視点で前回の「豊かな社会にとって大切なこと」シートを記入する。5つ選ぶ。</li> <li>③ 同じ視点、異なる視点で選択したカードを見ながら共有をし、新しい気付きに触れる。共有の中で感じた違いや共感に気付く。</li> <li>④ 「もしも無関心だったら・・・」【派生図】【ギャラリー方式】</li> </ul>   |  |
|      | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人権って何・・・？〈多文化共生から考えよう〉</li> <li>① ネパールクイズ 日本との違いは？<br/>・ 他文化を知る。良い違い、よくない違いについて考える。動画を見せ、背景を知る。→交通量、児童労働など</li> <li>② CWINのインタビュー動画から児童労働について考える。</li> <li>③ 人権の資料を読む。<br/>・ 世界の人権問題、子どもの権利条約、身近な人権侵害(偏見・差別)</li> <li>④ 「もし、人権が守られなかったら・・・」【派生図】【ギャラリー方式】<br/>・ 状況だけではなく、その時の気持ちや感情も想像する。</li> <li>⑤ このクラスって人権守られている？:守られていると思う状況を考える。</li> </ul> | ロイロノート<br>・ 共有ノート<br>〈NIED資料〉<br><br>・ 差別の背景<br>・ 人権とは<br>・ 日本における人権重点課題             |
|      | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人権を身近に</li> <li>① 道徳:「ちがいでいいことについて考えよう」から、公平・平等について考える</li> <li>② 「みんなが人権を守っていくために・・・」【派生図】【ギャラリー方式】<br/>・ 改めてこのクラスって人権守られている？どんな違いが大切？「違い」を守っていくためには？違いを尊重していくためには？学級目標や今までの学級課題と照らし合わせる。</li> </ul>   | ・ 道徳の教科書   |
| 成果   | 人権週間で取り扱い、道徳の授業を含めて教科横断的に人権について授業を行ったことで、生徒たちの興味や考える視点が変わっていくのを感じた。また、実際にわたしがネパールで見えた様子を動画で見せたことで世界と日本という視点で人権を考えるきっかけになった。国際的な背景や行動背景を知ることで多面的に考える生徒もいて、新たな気付きの一つになったと思う。                          |  |  |
| 課題   | 異文化や世界の人権問題から人権の学習に繋がったことで、世界の人権問題と身近な人権問題を切り離して考えてしまった。生徒たちの人権の知識が少ないことや、世界へ向けた視点が少ないことを教師側が理解をし、より身近に感じられるように例を提示することや、共通点から考えるなどの手立てを考えるべきだった。   |  |  |
| 備考   | CWINの動画が、児童労働によるものだったため、事前の準備では考えていなかったが、子どもの権利条約を生徒に配布することにした。   |  |  |

## 未来へつなげ！わたしたちのパピリオン～亀城万博2026～

09

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 所属   | 愛知県刈谷市立亀城小学校  | 実践者   | 神谷 亮助   |
| 対象   | 小学校6年生（119名）  | 実践日   | 2025年7月～2026年1月   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 20時間  |
| テーマ  | 国際理解、環境、SDGs  |   |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・万博の理念や意義を知り、自らの課題を見出して調査・協働・表現する。</li> <li>・国際理解やSDGs、自分たちの成長の軌跡などをテーマとしたパピリオン制作に取り組むことで、これからの社会に関わろうとする意欲と態度を育てる。</li> </ul> |   |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考  |
|      | 1   | <p><b>緊急招集！亀城小学校が万博に招待された！？</b></p> <p>○万博に向けて知っておきたいこと、解決しておきたいことをまとめよう！<br/>知っておきたいこと、解決しておきたいことを問いカードに書く。<br/>問いカードを分類してまとめる。【KJ法】【価値付け】</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワポ</li> <li>・コラボノート</li> <li>・問いカード</li> </ul>                     |
|      | 2   | <p>○つまり万博って○○だ！<br/>前時の問い→理解へ。<br/>亀城万博でできそうなことを考える。【ブレインストーミング】</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・赤青シール</li> </ul>                                      |
|      | 3<br>～<br>13  | <p><b>亀城万博に来る世界の人のことをしらなくちゃ！</b></p> <p>○アジアの料理を食べてみよう！「ガパオライス」<br/>○世界の挨拶体験ショー！<br/>居住地交流で世界の挨拶クイズ大会をしてたくさんの挨拶を学ぶ。<br/>○ネパールに歌「すてきな友よ」を届けたい！ネパールのことを知ろう！</p> <p>○つながりに気づき・つながりを築く我ら地球市民！世界を日本を振り返る<br/>自分と世界、世界と日本のつながりを考える。<br/>世界と日本の課題とSDGsを考えて、課題がそのままだったらどうするか考える。【派生図】</p> <p>○世界の課題は自分の課題！？わたしたちにできることを考えよう。<br/>私たちの課題→死、日本終わる。【回し読み】<br/>原因はなに！？生活の反SDGsを考える。【ブレインストーミング】<br/>よりよい世界・未来にするための私たちの5か条を考える。【行動宣言】</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンプラー体験</li> <li>・パワポ</li> <li>・ワールドスタディ講座</li> <li>・模造紙</li> </ul> |
|      | 14<br>～<br>18   | <p><b>自分たちだけのオリジナルパピリオンを作ろう</b></p> <p>○学校、地域、世界に対して「僕らにできることは何だろうプロジェクト」を立ち上げよう！</p> <p>すご6、SDGs清掃、SDGs思いやり、世界、日本、学校修繕の6つのグループに分かれて自分たちのできることを実践する。</p>  |   |
|      | 19<br>20  | <p><b>亀城万博2026開催！</b></p> <p>○亀城万博を開催して学校、地域、世界の方々に発表しよう！<br/>亀城万博を経て、これからの自分ができることを考える。【行動宣言】<br/>○各学年にも万博を通して学んだことを発表しよう！</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルボックス</li> <li>・模造紙</li> </ul>                                  |
|      | 成果  | 世界の課題やSDGsについて学ぶ中で、児童は「自分たちにできること」を考え、清掃活動や思いやりの実践など、子どもなりに主体的な行動を積み重ねてきた。万博での発表を通して、それらの実践に自信をもち、自分たちの取り組みを様々な方法で伝えようとする姿が見られた。  |   |
| 課題   | これまで行ってきた様々な実践や手立てが、それぞれどのようにつながっているのかを実感することができていなかった。今後は、振り返りを工夫して学習や実践のつながりを明確にしなが、学習構成を工夫していきたい。  |   |   |
| 備考   | 刈谷市国際化・多文化共生推進計画推進事業 ワールドスタディ講座を行った。<br>JICA 中部なごや地球ひろば グローバルボックス(ガーナ、フィリピン、ブラジル)を使用した。   |   |   |

## パレスチナ問題ってなに？～ゼロから知る はじめの一步～

10

|      |  |   |   |
|------|--|---|---|
| 所属   | 青年海外協力隊 静岡県 OB 会   | 実践者   | 木下 美保   |
| 対象   | 日本大学 国際関係学部<br>鈴木ゼミ 2～4年生 17人  | 実践日   | 2025年11月11、18日  |
| 実践教科 | パレスチナ問題ってなに？<br>～ゼロから知る はじめの一步～  | 時間数   | 3時間   |
| テーマ  | 平和、異文化理解、メディアリテラシー   |   |   |
| ねらい  | ・パレスチナ問題 気になっているがよくわからない、という人への「知る」きっかけ作り<br>・無関心からの脱却 ・情報の見かた   |   |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考  |
|      | 1  | <b>アイスブレイキング</b> 「自分を紹介する3つのホント1つのウソ」⇒対面でウソはつきにくい<br><b>「パレスチナ問題」と聞いて</b> P 問題に対するイメージの言語化【プレーンストーミング】<br><b>地図で確認パレスチナの場所</b> 地政学的な角度から問題を知る<br><b>アンコンシャスバイアス</b> 無意識の思い込みの言語化<br>⇒ワークシートにそれぞれのイメージを記入⇒1人ずつ発表し黒板で共有<br>⇒イメージの根拠は？⇒ワークシートに記入後グループで話し合い<br><b>ヨルダンからの報告</b><br>私たちのイメージが正しいのか？日本で知るニュースとは違う、現地の様子を聞く<br>資料:「パレスチナの歴史」配布 次回までに目を通してもらう | 第2回 SNS 発信の伏線<br>「Mentimeter」を使い共有する予定だったが、校内にWi-Fiが無かったため付箋に変更<br> |
| 2    | <b>パレスチナの歴史・パレスチナ(ガザ)で起きていること</b><br>⇒先週配布した資料の解説<br><b>パレスチナの声・イスラエルの声</b><br>⇒それぞれの立場の声を聞き、聞いた感想を模造紙に記入⇒回覧し共有 【対比】<br><b>そのニュースは正しいの？</b><br>⇒クイズ形式でニュースに○×をつける<br>・メディアからの情報は市場原理主義 ・情報の「武器化」について<br>・情報は見る角度が変われば、見えるものが違う ・メディアは事実の断片だけを伝える<br>・あなたがシェアしようとしている情報に根拠はありますか？ ・ファクトチェックの重要性<br><b>2つの平和と3つの暴力</b> ⇒無関心は暴力の1つ<br><b>争いのない世界にするために必要なもの・こと</b><br>⇒付箋に書き出す⇒模造紙に1人ずつ順に貼る 【KJ法】<br>「個人でできる・地域でできる・国としてできる」の意見を出し合い模造紙に記入⇒発表<br><b>人生の物差し</b> ～戦時下の人々を想像して～<br>アクションするために使える時間を可視化⇒自分の人生を想像しワークシートに記入<br>人生は有限という事に気づき、今後のやりたいことに優先順位をつける 【タイムライン】<br><b>私の行動宣言</b> (⇒時間が足りず出来なかった)<br><b>ワークショップの感想</b> | 年表を見る<br><br>クイズ形式で実際のフェイクニュースを知る<br><br>別紙にまとめ有り   |   |
| 成果   | 「自分で今後も調べます」と 学生たちがパレスチナについて知るきっかけになった 現地のから日本では聞けない話が聞け 違う角度から考えることが出来た   |   |   |
| 課題   | ゼミの時間【90分 コマ】×2 計180分 では時間が短く、じっくり考える時間が十分とれない   |   |   |
| 備考   | 身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ パレスチナのちいさなひとのみ<br>外部講師:山口浪漫 (パレスチナ隣国 ヨルダンから ZOOM で中継)   |   |   |

# 知りたい！話したい！作りたい！～日本と世界の食を考えよう

11

|      |   |  |   |
|------|---|--|---|
| 所属   | 三重県鈴鹿市立白鳥中学校  | 実践者  | 幸田 恵美   |
| 対象   | 中学校1年生（120名）  | 実践日  | 2025年9月～11月   |
| 実践教科 | 技術・家庭科 家庭分野   | 時間数  | 6時間×4クラス  |
| テーマ  | 食文化, 食糧問題, 飢餓, 環境   |  |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧問題の根本的な原因や、日本と世界の食にかかわる問題の現状を理解する。</li> <li>・自分ごとに結びつけ、実生活から課題を見出し、解決する方法を考え実践する。もしくは、実践しようとする態度を身につける。</li> </ul>  |  |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考  |
|      | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本質的な問いについて考える。(題材を貫く問い)</li> <li>・『誰が、なぜ、どのように食料を得られないのか?』について考えを書く。</li> <li>○日本と世界の食の現状について知ろう。</li> <li>・「食料が足りないのはなぜか?」「食料が足りないことで影響を受けているのは誰か」「日本と世界の食文化の今と未来」「食品ロスの現状」の4つのテーマについて、調べ学習をし、共有する。【ジグソー活動】</li> <li>・調べたことや共有したことの中から関心のあるものを1つ選び、「課題だと感じること」「なぜそう思うか」「どうになりたいか(望む姿)」をまとめる。【マトリクス表】</li> </ul> | <p>[オリジナル google サイト]</p> <p>[1枚ポートフォリオ]</p>  |
|      | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本や世界で起きていることを自分ごとにしよう。</li> <li>・”もしも、日本や世界の食がこのままだったら?”の問いについて、班で考えを出していく。他の班の考えを共有する。【派生図】【回し読み】</li> <li>○班で解決したい課題を1つ設定する。</li> <li>・その課題を解決する方法を考える。【班の行動宣言】</li> <li>・そのことを調理実習でどう実現するか、調理手順や準備物など、実習計画を立てる。【思考ツール(順序図)】</li> </ul>   |   |
|      | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習計画を立てる。</li> <li>・材料、準備物、時間配分、役割分担を決める。</li> </ul>   |   |
|      | 4・5   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理実習をする。</li> <li>・めあてを”自分たちの課題は何であったか”、”実習を通して何を解決しようとしたのか”に据え、計画に沿って調理する。</li> </ul>   | <p>プレゼンしよう! ○大きな声で、<br/>○伝えたいことをはっきりと</p> <p>「私たちのグループの課題は“ ”です。」<br/>「そのことを解決するために、調理実習では□□□□を作りました。」<br/>「調理の計画や過程で工夫したことや、課題の解決のために実践したことは、○○○○や、△△△△です。」<br/>「実習で得た成果は、~~~~です。」<br/>「実習で得た課題は、▲▲▲▲です。」<br/>「これで発表を終わります。」</p> |
|      | 6   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ふり返りをする。</li> <li>・自分たちの取組をまとめ、内容、成果と課題、感想をプレゼンをする。</li> <li>・題材を貫く問い『誰が、なぜ、どのように食料を得られないのか?』について考えを書き、自己の変容(関心や視野の広がり等)に気づく。さらなる関心をもち、これから自分が取り組みたいことをまとめる。【個人の行動宣言】</li> </ul>   |   |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・派生図や調べ学習の成果から課題を見出した後に実習を行ったことで、「自分には関係のないことと思わなくなった。」という感想が得られた。また、単元を貫く問い、1枚ポートフォリオ、派生図を活用したことで、生徒自身の変容や活動ごとの思考を可視化することができた。</li> </ul>                         |  |   |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとの実践テーマに偏りが出たため、調べ学習や派生図の活動において、生徒たちが広く興味関心をもつような手立てが必要である。さらに、単元を貫く問いやめあてを常に意識させ、目の前の課題解決や成果にばかり目がいかずに、学習のねらいを意識し、題材を通してふり返りができるような工夫や声掛けを工夫したい。</li> </ul> |  |   |
| 備考   |   |  |   |

## 夢をもち じぶんも相手も大切にする あたたかな学校をめざして

12

|      |  |  |   |  |                                |
|------|--|--|---|--|--------------------------------|
| 所属   | 岐阜県岐阜市立梅林小学校   | 実践者  | 近藤 千枝   |  |                                |
| 対象   | 小学校1～6年生(167名)   | 実践日  | 2025年11月～2026年1月  |  |                                |
| 実践教科 | 自立活動・学活  | 時間数  | 全児童6時間(15分×18回)<br>特別支援学級8時間  |  |                                |
| テーマ  | 人権 セルフエスティーム キャリア  |  |   |  |                                |
| ねらい  | ・周りの人との違いを間違えたと捉えず、自分や相手のよさを尊重し合う仲間づくり。<br>・自分の夢をもち、仲間に語るができる児童の育成。  |  |   |  |                                |
| 実践内容 | 回  | プログラム  |   | 備考   |                                |
|      | 1  | 特別支援学級在籍児童対象<br>「なかよし学級」を伝えよう<br>(全8時間)<br>○ <u>してほしいなぼくたちのこと</u><br>・全校の仲間に知らせたい事柄を考えたり、選んだりする。 | 全校児童対象<br>「知らない世界へふみだそう」(休み時間15分×9回)<br>○ <u>デフリンピック現地リポート</u><br>・自分とは違う生き方をしている人を知り、関心をもつ。<br>○ <u>サインエールで応援しよう(2)</u><br>・サインエールで気持ちを伝え合う。 | 全校児童対象<br>「自分の夢を見つけよう」<br>(休み時間15分×6回)<br>○ <u>夢☆企画放送「先生の子どもの頃」</u><br>・先生が子どもの頃に描いていた夢を知り、ウォークラリーへの意欲をもつ。<br>○ <u>先生の子どもの頃の夢を調査せよ！校内ウォークラリー(2)</u><br>・校内をまわり、先生クイズに取り組む。 | ・ロイロノート<br>(デフリンピック紹介・先生たちの夢等) |
|      | 1  | ○ <u>どんな方法で知らせようかな</u><br>・知らせる方法を話し合う。  | ○ <u>サインエールで応援しよう(2)</u><br>・サインエールで気持ちを伝え合う。   | ○ <u>先生の子どもの頃の夢を調査せよ！校内ウォークラリー(2)</u><br>・校内をまわり、先生クイズに取り組む。   | ・先生クイズ                         |
|      | 1  | ○ <u>やくわりを決めよう</u><br>・一人ひとりがやりたい役割を考え、分担する。   | ○ <u>手話で伝えよう(2)</u><br>・手話であいさつをしたり、歌ったりすることを通して、手話に親しむ。  | ○ <u>夢☆企画放送「だいじなことは」</u><br>・夢は変わってもよいこと、今の自分が夢や目標をもつことだと知る。   | ・職業クイズ                         |
|      | 2  | ○ <u>じゅんぴをしよう</u><br>・ビンゴカード招待状、司会原稿などの準備をする。  | ○ <u>ポッチャを体験しよう(3)</u><br>・異学年のグループでポッチャに取り組む。  | ○ <u>自分の夢を見つけよう！職業クイズラリー(2)</u><br>・様々な職業クイズに取り組み、職業に関心をもつ。  | ・将来の夢アンケート                     |
|      | 1  | ○ <u>練習をしよう</u><br>・相手に伝わる声の大きさや態度で話す練習をする。  | ○ <u>思ったこと、感じたことを伝え合おう</u><br>・感想を交流し、これからの生き方を話し合う。  | ○ <u>教えて あなたの夢！(2)</u><br>・自分が描く夢やなりたい人物について異学年で交流する。<br>【派生図】   | ・なかよしビンゴカード                    |
|      | 1  | ○ <u>なかよしビンゴ大会をしよう</u><br>・2学年ごとにビンゴを行う。   |   |  |                                |
|      | 1  | ○ <u>次はなにをしようかな</u><br>・ビンゴ大会での様子を振り返り、よかったことや課題点を話し合う。  |   |  |                                |
| 成果   | ○プロジェクト後のアンケートでは、自分の夢やなりたい人物を進んで書く児童が増えた。<br>○手話に関心をもち、自分で学ぶ児童が増えた。<br>○なかよし学級児童の名前を呼んで、あいさつをしたり休み時間に一緒に遊んだりする姿が増えた。 |  |   |  |                                |
| 課題   | ▲休み時間の活動への参加率をどう上げるか。【夢企画への参加児童】118/167(人)<br>▲手話などの体験や15分という休み時間での実施であったため、児童の「もっとやりたい」気持ちに十分に答えられなかった。             |  |   |  |                                |
| 備考   | 夢☆企画放送は、お昼の放送で3～5分程度ロイロノートを活用して実施。<br>なかよしビンゴ大会は、昼休みに低中高学年別実施。(15分×3回)   |  |   |  |                                |

## ネパールの高校生は何の夢を見るのか

13

|      |   |  |                                       |
|------|---|--|---------------------------------------|
| 所属   | 愛知県立ひいらぎ特別支援学校  | 実践者  | 澤田 晃一                                 |
| 対象   | 高等部1、2年生(4名)  | 実践日  | 2025年7月～2026年1月                       |
| 実践教科 | 歴史総合  | 時間数  | 7時間                                   |
| テーマ  | 国際理解、SDGs   |  |                                       |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールと肯定的に出会うことで、海外の出来事に関心をもつ。</li> <li>・ネパールの事例を通して現代の課題について知り、既習内容との関連に気付く。</li> <li>・日本と世界の課題との関連について考え、その解決方法や、自分にできることを発表する。</li> </ul>       |  |                                       |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考                                    |
|      | 1   | <b>◆ネパールと肯定的に出会うために</b><br>「ネパールってどんな国?」【プレゼンテーション、ブレインストーミング】<br>・テーマごとにネパールについて調べ、お互いに教えあう。<br>・ネパールの人に聞きたいことをリストアップしてアンケートを作成する。          | ・ワークシートはExcelで作成し、Teams内で共同編集しながら進める。 |
|      | 2   | 「ネパールの人に日本を紹介しよう」【イメージ図】<br>・ネパールの人に日本を紹介するための絵を描く。  |                                       |
|      | 3   | <b>◆日本とのつながりや同一性に気付くために</b><br>「ネパールってどんな国?シーズン2」【クイズ、分配円】<br>・生徒が調べた内容を基に、写真や動画、クイズでネパールについて知る。<br>・アンケート結果の分析を行う。                          | ・現地でとったアンケート                          |
|      | 4   | 「ネパールってどんな国?シーズン2」【フォトランゲージ、対比表】<br>・現地で収集した資料(※)から、共有したいものを選んで発表しあう。<br>・日本とネパールの共通点と相違点をまとめる。  | ・(※)現地で撮影した写真や動画、統計データ                |
|      | 5   | <b>◆共通の課題について共に考え、共に越える姿勢を育てるために</b><br>「ネパールの課題は何だろう?」【ブレインストーミング、KJ法】<br>・ネパールの課題は何か考え、日本との共通点を見つける。<br>・ネパールの課題がそれぞれSDGsのどの項目に当てはまるか分類する。 | ・現地で撮影した写真や動画、統計データ                   |
|      | 6   | 「課題のその先に」【派生図、シミュレーション】<br>・課題を放置するとどんな世界になるか予想し、自分との関連に気付く。<br>・「児童労働」を含んだカードで貧困の悪循環をつくる。   | ・現地で撮影したインタビュー動画<br>・フェアトレード商品        |
| 7    | 「課題の解決と自分にできること」【アイデアの共有、行動計画、ギャラリー方式】<br>・既習内容や調べた内容を根拠として、解決方法を提案する。<br>・課題解決の為に自分のできることを考え、発表する。   |  |                                       |
| 成果   | ネパールの子供たちと絵を交換したり、質問に回答してもらったりすることで、双方向的な関わりが生まれ、海外を身近に感じる事ができた。肯定的に出会う経験を通して、ネパールの課題に対してより深く考える姿が見られた。既習内容と関連付けながら考察したり、課題に対する解決方法を主体的に考えたりすることができた。現代の諸課題を身近に捉え、自分にできる行動を考え、表現する姿が見られた。 |  |                                       |
| 課題   | 教科の中での授業実践であったため時数に限りがあり、テーマに十分迫り切れなかった部分もあった。生徒の実態に応じて、総合的な探求の時間や生活単元学習で計画をすると幅広く内容を取り扱えると感じた。   |  |                                       |
| 備考   | 対象生徒は肢体不自由であり、タブレット端末とMicrosoft Teamsを使用して、資料共有やワークシートの記入、参加型プログラムの進行を行った。  |  |                                       |

## VAMOS！ 心をつないで、未来へ行こう！

|      |  |   |                  |
|------|--|---|------------------|
| 所属   | 名古屋市立志段味中学校  | 実践者   | 下谷 英克            |
| 対象   | 中学校 1～3 年生 (特別支援学級 22 名)   | 実践日   | 2025 年 11 月～12 月 |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間  | 時間数   | 6 時間             |
| テーマ  | 多文化共生、国際理解   |   |                  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の経験を通じ、困難を乗り越える力と「違いは個性」であることへの気づきを促す</li> <li>・自分の特性を認識し、仲間と協働して身近な課題を解決しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・自他の力を活かす喜びを知り、将来の「生きがい」を見つけるための視点を獲得する。</li> </ul> |   |                  |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考               |
|      | 1～2  | <p>● <u>感じる夢と挫折 そして世界へ</u></p> <p>講師の海外協力隊(柔道)の経験談から挫折と再起を聞き、困難に立ち向かう姿勢を共有した。講師の実体験に基づく葛藤を共有することで、困難に立ち向かう勇気と異文化への好奇心を育んだ。</p>  | 講師講話<br>写真       |
|      | 3～4  | <p>● <u>違いは個性 世界のリアルと私のリアル</u></p> <p>現地の多様な生活習慣を学び「違い」を肯定的に捉える。自分の得意・苦手を可視化した「個性カード」を作成し、自分と他者の特性を「かけがえのない資源」として再定義した。</p>     | エピソード資料<br>付箋    |
|      | 5  | <p>● <u>壁をやぶれ 得意で挑む課題解決ミッション</u></p> <p>10 項目のミッションから自チームの課題を選択し、大用紙と付箋を用いて解決計画を立案した。自ら課題を選択し解決策を可視化するプロセスを通じ、強い当事者意識を醸成した。</p> | 課題シート<br>大用紙     |
|      | 6  | <p>● <u>VAMOS！課題解決発表会</u></p> <p>解決案を発表し、自他の個性を活かす喜びを実感させた。協働による成功体験を「生きがい」の概念へと統合し、自分らしく社会に貢献していたための将来の指針を確認した。</p>            | 発表資料             |
| 成果   | 「付箋と大用紙」による視覚的ワークにより、言語表現に困難を抱える生徒も主体的に議論へ参加できた。自己の特性を肯定的に再定義したことで自己肯定感が高まり、他者の違いを協力の資源として尊重する変容が見られた。10 項目のミッション選択制も、高い当事者意識と納得感のある合意形成に寄与した。   |   |                  |
| 課題   | 授業での成功体験を、日常の清掃や学習における自発的な行動として定着させる必要がある。今後は、生徒が自分の力を他者のために使う場面を日常的に設定し、他者に貢献する喜びを「生きがい」へと深化させていきたい。  |   |                  |
| 備考   | 個々の特性が、仲間の支えになる喜びを実感し、活動が将来の「生きがい」を展望する契機となった。   |   |                  |

## ネパールからのメッセージ！ぼくらの未来会議

15





|      |   |   |  |
|------|---|---|--|
| 所属   | 岐阜県関市立桜ヶ丘小学校  | 実践者   | 杉下 絵里華   |
| 対象   | 小学校6年生（62名）   | 実践日   | 2025年9月～2026年3月  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 18時間   |
| テーマ  | 国際理解、SDGs   |   |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールで起こっている諸問題を世界各国や身近な問題とつなげ、自分ごととしてとらえる。</li> <li>・みんなが豊かに生きるために、自分にできることを考える。</li> </ul>   |   |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考   |
|      | 1   | 「ナマステ！ネパール」★ネパールと肯定的に出会う<br>・ネパールと言えば？ ・クイズ ・文化体験(衣・食・住、宗教、音楽、言語等)  | 【フوترランゲージ】<br>【ネパールグッズ】   |
|      | 2   | 「ネパールと日本のつながりを考えよう」<br>・ここはどこだ？(ネパールor日本)<br>・ネパールと日本の共通点・相違点・それぞれの良さを考える<br>→みんなが違っている良さを考えよう  | 【フوترランゲージ】<br>・ネパールで見つけた日本<br>・日本で見つけたネパール<br>【対比表】<br>【派生図】<br>【ギャラリー方式】 |
|      | 3   | 「教えて！ラクスマンさん」通訳ラクスマンさんとオンライン交流会<br>・日本の文化紹介 ・ラクスマンさんによるネパール講座 ・質問タイム等   |  |
|      | 4   | 「ネパールの課題について考えよう」<br>・6枚の写真から、ネパールの課題について考える<br>① グループに1枚ずつ写真を配布 ② 考えたことを他グループに伝える<br>③ 新しいグループのメンバーにも意見をもらう ④ 元のグループで集約                            | 6枚の写真<br>(校庭のゴミ・物乞いの子・家事をする女性・舗装されていない道路・信号のない歩道・耐震工事されていない住宅)<br>【ジグソー法】  |
|      | 5～  | 「このままでいいの？ネパールの課題」<br>・1時間につき1枚の写真について深める<br>① 今日の1枚を提示し、課題について共有 ② もしも放置したらどんなことが？<br>③ 派生図にSDGsシールを貼り、関連を考える ④ 課題に向き合う人々を知る<br>～10 ⑤ 自分にできることを考える | 【派生図】<br>インタビュー動画<br>(ネパールで活躍する人)<br>SDGsシール                               |
|      | 11～   | 「考えたい！解決したい！世界の問題について考えよう」※1人1案作り<br>① 選ぶ ② 課題についてまとめる ③ 自分たちに置き換えると…<br>～13 ④ 解決に向けて取り組む人々 ⑤ 自分にできること「自分宣言」  | 自分で考える   |
|      | 14  | 「桜小サミット～ぼくらの未来会議～」  |  |
|      | 15・16   | 「今、地球で起こっていること・未来のためにできること」※サミット振り返り&まとめ  | 学年単位<br>※項目ごとのグループ活動   |
|      | 17  | 来年度国際理解の学習を引き継ぐ5年生へ、1年間の成果発表  | 発信する   |
| 18   | 地元の高校生との意見交流 ※小学生だからできること・高校生だからできること   | あこがれをもつ   |  |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースでネパールが取り上げられた時は友達のように心配したり、近所のネパール料理屋さんを調べたりと、ネパールに関心をもつことができた。</li> <li>・ネパールの授業で学んだことを生かして、世界で起こっている問題について考え、自分ごととして向き合うことができた。</li> </ul>                |   |  |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震について取り組むネパールの学生たちとオンラインを通じて意見交換をしたかったが、言語の壁が高く、実施できなかった。→通訳を介す、翻訳機能を活用するなど対策を考えたい。</li> <li>・来年度以降実践する際は、市内で国際貢献している人や技能実習生とも交流し、より身近に感じられる工夫をしたい。</li> </ul> |   |  |
| 備考   | 15～18については2月下旬より実施予定  |   |  |

## 自分たちが作る、学校という社会

|      |  |  |   |
|------|--|--|---|
| 所属   | 愛知県立津島高等学校附属中学校  | 実践者  | 高羽 亜紀   |
| 対象   | 中学校1年生(80名)  | 実践日  | 2025年4月~12月   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間  | 時間数  | 9時間   |
| テーマ  | 社会の構成員という自覚、人権、共生、公正、多様性   |  |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が「社会の一員としての自分」を自覚すること</li> <li>・多様な価値観・公平性・責任について主体的に考える力を育てること</li> </ul> |  |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考  |
|      | 1  | 「どのような人でありたいか」を考える<br>IBの「10の学習者像」を通じて、価値や態度の多様性を考える。異文化理解の元となる、他者理解、自己理解を促すのがねらい。         | JICAでの研修で学んだワークショップでの様々な手法を実践した。                        |
|      | 2  | 知識や事実を概念的に捉える<br>教科で学ぶ知識を概念的に捉えることで、抽象的に考える。思考を深め、広げるのがねらい。                                | 初期は、ICTを用いた意見集約や意見の共有を行ったが、模造紙を囲んで書きながら話し合う方法にシフトしていった。 |
|      | 3  | 学びで得た知識を自分の社会につなげて考える<br>IBの「グローバルな文脈」を通じて、学習と実生活をつなげて考える。視野を広げ、学びをどう生かせるのかを考えられるようにするねらい。 |   |
|      | 4  | 対話と振り返りを通じ、協働して学ぶ<br>学ぶために必要なスキルについて、対話を通じ、異なる意見に接することで多様な価値観に気付くのがねらい。                    |   |
|      | 5  | 「他人との比較」ではなく、「自分の成長」のために学ぶ<br>成果ではなく、存在そのものに価値があることを強調。学びは自分の成長のためであるという価値観を共有するのがねらい。     | 安心して話し合う雰囲気があるかどうかで、使う方法を選んでいる。                         |
|      | 6  | 「誠実であること」「自分のために学ぶ」を考える<br>学問的誠実性を考えるにあたり、公正であること、責任をもつこと、信頼関係を築くというグローバル・シチズンシップを学ぶのがねらい。 |   |
|      | 7  | どのような学校(社会)を作りたいのかを考える<br>社会のルールはなぜ存在するのか、その意図から、目指す社会(まずは自分たちの学校)の在り方を考えるのがねらい。           |   |
|      | 8  | 今、受けている教育を生徒側(受け手)の視点でフィードバック<br>教員の意図をどのように受け止めているかを生徒同士対話して発表する。学びの主体は生徒にあることに気付くのがねらい。  |   |
|      | 9  | スクールポリシーが自分の行動にどうつながるかを考える<br>理念は行動に反映されてこそ意味があることに気付くのがねらい。                               |   |
| 成果   | 実践を通して、学校という社会の構成員としての自覚が育ってきたと感じる。自分の考えを表現し合うことの価値、抽象度を高くして思考を深め、具体とつなげていくことで視野が広がることにもつながっている。                     |  |   |
| 課題   | 言語化、思考のレベルには個人差があり、グループによっても対話の深まりに差がある。効果的にファシリテートする方法を身に付けたいと思う。   |  |   |
| 備考   | 本校は国際バカロレア(IB)の候補校のため、IBの教育の枠組みを生徒に理解してもらうために授業を行った。IBの教育理念自体が、国際理解教育になっている。   |  |   |

## 未来を描く対話～模擬国連で挑む難民問題～

17

|      |   |   |  |
|------|---|---|--|
| 所属   | 愛知県立明和高等学校  | 実践者   | 中條 真実  |
| 対象   | 高校3年生(38名)  | 実践日   | 2025年9月～12月  |
| 実践教科 | MCIII(SSH探究科目)  | 時間数   | 12時間   |
| テーマ  | 難民、国際理解、コミュニケーション   |   |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬国連を通じて難民問題への理解を深め、より良い未来を構想する力を育てる。</li> <li>・対話と交渉を通じて妥協点を探りながら、合意形成のプロセスを体験する。</li> <li>・国際問題を自分事として捉え、多様な意見を尊重し合う姿勢をはぐくむ。</li> </ul>                                 |   |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考   |
|      | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬国連の概要説明、ねらいの共有</li> <li>・「いろいろな聴き方」【アイスブレイク】傾聴の大切さに気付く</li> <li>・担当国(地域)決定…カナダ,エジプト,ドイツ,日本,パレスチナ,南スーダン,シリア,ウガンダの8グループ(4～5名)に分かれる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連 UNHCR 協会</li> </ul>                              |
|      | 2&3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題「難民受け入れと国際的な責任分担」の背景理解【ポップコーン方式】</li> <li>・国別調査【ブレインストーミング】</li> <li>グループで協力して難民問題への解決策(政策)を考える。</li> <li>Notebook LM 等の生成AIを活用しながら、資料(備考欄参照)の概要をつかみ、担当国の難民問題の現状や課題について理解を深める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・UNHCR Global Trends 2024 (難民に関する世界統計)</li> </ul>   |
|      | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他国との情報共有【ジグソー】</li> <li>担当国の政策を伝える。他国の意見を傾聴し、現状や課題を把握する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・UN Digital Library System (国連デジタル資料館)</li> </ul>  |
|      | 5&6   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式討議の準備政策立案</li> <li>情報共有をふまえて政策を再検討する。英語スピーチの準備をする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Global Classrooms</li> </ul>   |
|      | 7   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式討議①…担当国の政策を発表する。(英語)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>『模擬国連のマニュアル』</li> </ul>   |
|      | 8&9   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなでバカンス」【アイスブレイク】交渉と合意形成のプロセスを学ぶ。</li> <li>・決議案作成①</li> <li>担当国ごとに原案を作成。【ブレインストーミング】</li> </ul>   |   |
|      | 10&11   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・決議案作成②</li> <li>各国から1名を派遣して議会(A～E)を作り、決議案を英語で作成する。交渉を経て互いの妥協点を探り、合意形成をめざす。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成 AI (Notebook LM, Chat GPT 等)</li> <li>授業者の指導のもと、資料の分析、ブレインストーミング、英文のチェック等に使用した。</li> </ul>  |
|      | 12  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公式討議② 各議会の決議案を発表(英語)→投票を行う。</li> <li>・「模擬国連」振り返りアンケートの実施</li> </ul>   |  |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当国について深く分析することで、国際問題を「自分事」として捉える多角的な視点が養われた。</li> <li>・対話や交渉を通じて、異なる意見を尊重しながら妥協点を探る難しさと意義を学んだ。</li> <li>・グループで協力しながら、教科横断的な知識, AI スキル, 英語力を駆使して具体的な解決策を提示できた。</li> </ul> |   |  |
| 課題   | 前向きに活動に取り組み、上記の成果を実感する生徒が多く見られた一方で、受験期における負担感の軽減に向けて運用面の工夫が求められる。生徒がより教育的意義を実感できるよう、探究活動をさらに発展させていきたい。  |   |  |
| 備考   |   |   |  |


## 教職員参加型で Let's My 探・リフレクション

18

|      |   |   |  |
|------|---|---|--|
| 所属   | 愛知県小牧市立桃陵中学校  | 実践者   | 出村 寛美  |
| 対象   | 教職員（25名）  | 実践日   | 2026年 2月3日   |
| 実践教科 | 現職教育（総合的な学習の時間ふりかえり）  | 時間数   | 60分  |
| テーマ  | コミュニケーション、合意形成、リフレクション  |   |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・My 探究初年度をふりかえり、目標達成度やシステム全体の課題を可視化する。</li> <li>・それぞれのモチベーションや視点、アプローチの仕方を互いに理解し、補完する関係を築く。</li> <li>・次年度に向け、新たなアイデアを集める。</li> </ul> |   |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考   |
|      | 1～20  | こまき夢☆チャレンジ科 My 探究（教職員 25名 生徒 403名）  |  |
|      | 本時  | <p>0_アイスブレイク(教室の四隅)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・My 探究が発表された時の気持ち</li> <li>・今年の My 探究の負担感</li> <li>・来年度の My 探究への今のモチベーション</li> </ul> <p>1_Check In</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本年度「いい!」と感じた生徒の姿や探究内容を班で共有する</li> <li>(2) 自分が探究をするなら扱いたいテーマや題材は班で発表する<br/>自分の関心興味あるk+を思いつく限り書き、その後一つに絞る</li> <li>(3) 本時の WS のねらいの共有する</li> </ol> <p>2_本年度の My 探究ふりかえり(プレスト・KJ 法・ギャラリーウォーク)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 付箋紙に初年度My探究で感じたことを思いつく限り記入する</li> <li>(2) グループピングをする 付箋紙を移動させる</li> <li>(3) ラベルつけをする</li> <li>(4) 他の班のまとめを見てまわり、共有する</li> </ol> <p>3_来年度の My 探究アイデア(プレスト・グループ発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 付箋紙に来年度の探究アイデアを思いつく限り記入する</li> <li>(2) グループピングする 付箋紙を移動させる</li> <li>(3) ラベルつけをする</li> <li>(4) グループで全体に提案したいアイデアを検討する</li> <li>(5) グループごとにアイデアを発表する</li> </ol> <p>4_Check Out</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) WSでの気づきや感想、来年度への思いをまとめる</li> <li>(2) グループで共有する</li> <li>(3) 全体共有</li> </ol> <p>5_アンケート</p> <p>WSの感想や意見を集める</p> | <p>自分の感じ方の確認<br/>意見考えの共通性差異の共有<br/>心理的安全性確保</p> <p>A4 用紙 サインペン<br/>めざす生徒像、つきたい力に<br/>ついて考える</p> <p>付箋紙 サインペン<br/>半模造紙<br/>カラーペン<br/>質より量・自由奔放・批判厳禁・<br/>結合改善確認</p> <p>付箋紙 サインペン<br/>半模造紙<br/>カラーペン<br/>次年度のアイデアを集める M<br/>y探究への主体的な関わりを促<br/>す</p> <p>A4 用紙 サインペン</p> <p>アンケートフォーム</p> |
|      | 2月<br>2～3月<br>4月初   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度My探究のビジョンづくりWS(全教職員対象 任意参加)</li> <li>・My探究理念作成、ルーブリック作成、次年度デザイン(部会)</li> <li>・My探究現職教育 探究でビジョン共有WS(全教職員対象)</li> </ul>  |  |
|      | 成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から始まった【My 探究】に対する教員それぞれの感じ方を共有することができた。</li> <li>・探究の捉え方や伴走の在り方など、対話を通して理解を深めることができた。</li> <li>・参加型の手法を用いたことで、「より自分ごととして考えることができた、考えやすかった、自分がもっていなかった新しい考えに触れることができた」などの声が聞かれた。</li> <li>・次年度の実施に向けてのモチベーションに変化があったかの問いに9割以上が5段階中4以上を回答。</li> </ul>  |  |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の『探究』についての知識理解、モチベーション、主体性の伸長、指導者から伴走者へのマインドセット</li> <li>・時間的労力的余白の創出</li> </ul>   |   |  |
| 備考   |   |   |  |

## もし自分たちが世界のトップリーダーなら…

19

|      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 所属   | 名古屋市立若葉中学校   | 実践者  | 中元 佑実  |
| 対象   | 中学校3年生 (35名×2学級, 36名×1学級)  | 実践日  | 2025年12月～2026年1月   |
| 実践教科 | 英語科  | 時間数  | 7時間  |
| テーマ  | SDGs   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの17の目標について学び、世界中でどのような課題があるのかを知る。</li> <li>・自分たちの日常生活を振り返り、SDGsの達成を阻む原因について考える。</li> <li>・自分たちにできる課題解決策を考え、実際に行動にうつす。</li> </ul> |  |  |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考   |
|      | 1  | <b>Learning SDGs in English</b><br>・SDGsの目標の英語版を確認する<br>・SDGsカルタをする  | SDGsカード  |
|      | 2  | <b>If the World Were a Village of 100 people</b><br>・2025年版の「もし世界が100人の村だったら…」を推測し、答えを確認する<br>・2030年の「もし世界が100人の村だったら…」について考え、話し合う                     | もし100 ディスカバーラボ(愛・地球博開催20周年記念展示)  |
|      | 3  | <b>Reflect on your daily life</b><br>・日常生活を振り返り、自分がやっちゃっている反SDGs行動を考える<br>・「もし反SDGs行動が続いたら…」の派生図を書く<br>・反SDGs行動の因果関係図を書き、行動の原因について考察する                 | 付箋<br>模造紙  |
|      | 4, 5   | <b>If we were the top leaders of the world…</b><br>・これまでの授業をふまえ、SDGs達成のために必要な取り組みを考える<br>・「もし自分たちが世界のトップリーダーなら、どんな取り組みを行うか」をテーマにグループでプレゼン発表を行うための準備をする | タブレット<br>パワーポイント<br>ロイロノート   |
|      | 6  | <b>Presentation</b><br>・各グループが「If we were the top leaders of the world…」のプレゼン発表を行う<br>・「実現可能」「効果大」「おもしろい」の3つの観点で各グループの発表を評価し、投票する                      | タブレット<br>パワーポイント   |
|      | 7  | <b>Announcement of voting results and Review</b><br>・前時の投票結果発表をする<br>・SDGsを達成するために、自分が取り組みたいことを宣言する  | 【行動宣言&実践報告】<br> |
|      | +α   | ※宣言したことを実践後、その様子を写真で撮り、ロイロノートで提出する   |  |
| 成果   | 中学校3年間、英語に限らず様々な授業を通して学習したSDGsの内容について改めて学習し、自分たちにできることを考えることができた。また、行動宣言で終わらずに、実際に宣言したことを実践し、その実践報告を行うこともできたことが今回の大きな成果である。  |  |  |
| 課題   | グループでプレゼン発表をする前に、国内外の企業や政府等のSDGsの取り組みを調べたり、調べたことを発表したりする時間を設けることで、プレゼンの中身をよりよいものにすることができたと思う。総合的な学習の時間と英語科の教科横断型の実践にするとより内容が充実するかもしれない。                                      |  |  |
| 備考   | <b>【参考文献】</b><br>『IF THE WORLD WERE 100 PEOPLE』 Jackie McCann (2023) Red Shed  |  |  |

## 環境の輪を広げる ～学習発表会～

20

|      |  |   |                 |  |
|------|--|---|-----------------|--|
| 所属   | 愛知県一宮市立大和西小学校  | 実践者   | 名瀬 裕            |  |
| 対象   | 小学校4年生（77名）  | 実践日   | 2025年9月～2026年1月 |  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間 国語   | 時間数   | 23時間（総合13＋国語10） |  |
| テーマ  | 環境   |   |                 |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起きている環境問題を4つ知る。</li> <li>・4つの環境問題の中で調べたいテーマを1つ選び、そのテーマについての自分の考えをもつ。</li> <li>・学習発表会を通して、環境問題を地域に発信し、家族で環境について考える。</li> </ul> |   |                 |  |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考              |  |
|      | 1  | ◎1～3:総合的な学習の時間(3時間)<br>水の問題について知ろう!【劇】<br>・水道水 安全ではない水ってどんなもの? 節水する理由と方法  |                 |  |
|      | 2  | エネルギー問題について知ろう!<br>・地球温暖化 資源の枯渇 節電する理由と方法   |                 |  |
|      | 3  | 資源問題について知ろう!<br>・プラごみ 森林破壊 生態系 リサイクルする理由と方法   |                 |  |
|      | 4  | ◎4～13 国語(もしものときにそなえよう)書く<br>・もしも、エコ活動をしなかったら、どうなるか考えよう。【派生図】<br>授業の最後に、環境の中で調べたいテーマを1つ選ぶ。<br>担任がテーマ別でグループを8つ組む。   |                 |  |
|      | 5～7  | テーマを決めて調べ、分かったことをノートに書き出す。<br>・さまざまな本や資料、インターネットを活用して調べる。   |                 |  |
|      | 8～9  | 相手に分かりやすく伝えるために、教科書の文例を真似て書く。<br>・文章構成は双括型、中は具体例や理由を書く。   |                 |  |
|      | 10～13  | 学習発表会のグループで、1つの文を作る。<br>・「中」は3本立て(4人グループであれば4本立て)にする。   |                 |  |
|      | 14   | ◎14～23 総合(10時間)<br>学習発表会のグループを決め、どうしたら環境問題が伝わるか考え、見通しをもつ。<br>・国語の時間で原稿にした内容を劇、クイズ、スライド、ポスターのどの方法を組み合わせると良いか、考える。  |                 |  |
|      | 15～19  | グループでスライド(google や canva を利用)、劇、クイズなどの準備をして、発表練習する。   |                 |  |
|      | 20～21  | 中学年児童鑑賞会を行い、3年生、4年生それぞれ発表を見合う。  |                 |  |
|      | 22～23  | 前回の発表を踏まえ、最終確認を行い、学習発表会で保護者に伝える。  |                 |  |
|      | 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時～3時に行った総合は、まだエコの知識が乏しい児童に「劇、ポスター制作、クイズ交流」という、参加型手法を用いることで、学んだことを伝えようとする雰囲気が高まったことが良かった。</li> <li>また、第14時から発表準備にとりかかる際、参加型手法を使って発表しようとしている児童が多かった。</li> </ul> |                 |  |
|      | 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業として最初と最後に同じ主張を2回書く形「双括型」でまとめたが、発表練習になると、あまり双括型が生きてこなかった。最後に強い主張をすることの自然さを感じさせなければならない。また、劇を取り入れて発表した班が軒並み発表時間が足りなく、劇や内容を削っていたことが今後の課題となった。</li> </ul>      |                 |  |
| 備考   | 3年生から持ち上がりの学年だったため、好奇心をひきだす工夫がしやすかった。  |   |                 |  |

# わたしは素敵！あなたも素敵！「ちがい」を豊かさに。意見の対立、もう怖くない！

21

|      |  |   |                                |
|------|--|---|--------------------------------|
| 所属   | 愛知県東浦町立生路小学校   | 実践者   | 西川 真衣                          |
| 対象   | 小学校6年生（28名）  | 実践日   | 2025年4月～2026年2月                |
| 実践教科 | 道徳、学活  | 時間数   | 7時間                            |
| テーマ  | コミュニケーション、セルフエスティーム（自尊感情）  |   |                                |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人との違いや意見の対立を肯定的に捉え、対立激化の回避方法や考え方を身に付ける。</li> <li>・自分の強みと弱みを知り、互いの良さを見つける活動を通し、自尊・他尊の感情を育む。</li> </ul> |   |                                |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考                             |
|      | 1  | <b>【ちがい】 どう解く？</b><br>①あなたはどっち？○か×か<br>・自分と友達の価値観の違いや多様性を理解する。<br>・相互理解するためにはコミュニケーションが必要であることに気付く。 | NIED参加型アクティビティ集（コミュ編）<br>p. 51 |
|      | 2  | ②〇〇といえば？<br>・違う考えをもっているからこそ、協力すればアイデアが広がることを知る。   | p. 41                          |
|      | 3  | ③同じところと違うところ【回し読み】<br>・班の仲間の同質性・多様性を楽しく理解する。  | p. 81                          |
| 4    | ④世界中のみんなが同じだったら【派生図】<br>・同じ意見しかない世界は、発展がなくて寂しく、つまらないと気づく。  | p. 81   |                                |
| 5    | <b>【対立】 について考えよう</b><br>①対立ってどんなイメージ？【ブレンストーミング】<br>・対立＝喧嘩ではなく「2人以上の者が異なる立場に立つこと、意見の不一致」<br>・家族や友達、学校で起きている身近な対立と、今までに自身が経験した解決失敗パターンを振り返る。    | p88   |                                |
| 6    | ②それってにこにこ？にこもや？<br>・対立の解決は4パターンあることを確認し、意見が異なる二人が互いに望んでいるものを手に入れられる『にこにこ(win-win)解決』にするために話し合う。  | p88   |                                |
| 7    | ③みんなでバカンス<br>・2人以上の意見の対立とその解決練習「6-2みんなで旅行に行くなら」<br>・「要望」と「本心」の違いを知り、対立の緩和や合意形成のスキルトレーニングを行う。   | p88   |                                |
| 5    | <b>【自分の素敵】 に目を向けよう！</b><br>①いつも前向き！肯定的！<br>・人の性格は、同じ内容でも良くも悪くも言い換えられると気付く。   | p60   |                                |
| 6    | ②短所を長所に<br>・自分のネガティブな部分をポジティブな視点で言い換える。  | p62   |                                |
| 7    | ③6-2長所クイズ！<br>・隣の子の長所を見つけ、クラスみんなに向けてクイズを作る。  |   |                                |
| 7    | ④ふなたびカードでいいとこミッション！<br>・友達のいいところをこっそり探し、カードに書いて本人に伝える。<br>・自分だけでは見つけられなかった自身のよさを知り、自尊感情を育む。  |   |                                |
| 成果   | 実践を通して、互いの違いを肯定的に捉えたり、意見が対立したりしたときに深く話し合い、合意形成しようとする姿も見られるようになった。自分の長所と短所を知り、受け入れることができた。  |   |                                |
| 課題   | セルフエスティームは少しずつ高まっているが、一度きりではなく、継続的に実践していく必要があると感じた。  |   |                                |
| 備考   |  |   |                                |

## 創ろう！みんなの世界・みんなの幸せ♡

22

|      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| 所属   | 愛知県春日井市立高座小学校   | 実践者  | 丹羽 真琴                                      |
| 対象   | 小学校6年生(96名)   | 実践日  | 2025年12月～2026年1月                           |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数  | 7時間  |
| テーマ  | 人権・国際理解   |  |  |
| ねらい  | <p>・ネパールの文化や良さに出会い、世界と自分は近くにあることに気付く。</p> <p>・いろいろなみんなが幸せに過ごすために、自分ができることを考え、行動する力を育む。</p>                                    |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考   |
|      | 1   | <u>ネパールに肯定的に出会う!</u> (Google Meet での全校集会)<br>・ネパールクイズ  |  |
|      | 2   | <u>ネパールステキ! ~わたしが大好きなネパール~</u><br>・アイスブレイク『国名あいうえお』<br>・ネパールを知ろう! ネパールカルタ【フォトランゲージ】<br>・ネパールのいいな! ステキ! 紹介  | ・『国名あいうえお』<br>プリント<br>・ネパールカルタ             |
|      | 3・4   | <u>日本とネパール</u><br>・日本とネパールの同じ・違いを見つけよう! 【ネパールBOX】<br>・日本とネパールの共通点と相違点をかこう【対比表】【ギャラリー読み】<br>・日本とネパール、その他の国々全部同じだったら…? 違っている良さは?<br><u>大好きなネパールにも課題が...</u><br>・写真から課題を考える(インフラ、ゴミ、ジェンダー、教育格差、児童労働)<br>「あっていい違い」「よくない違い」ってなんだろう? 『O・△・×どの立場?』<br>・課題の裏にある原因ってなんだろう? 【ロールプレイ】 | ・ネパールBOX<br>・模造紙、ペン<br><br>・ロールプレイのワークシート  |
|      | 5   | <u>幸せに生きるために生まれてきた私たち</u><br>・アイスブレイク『私にとっての幸せって...?』<br>・いろいろな人の立場になって、「人の幸せに関わる大切なこと、必要なもの」について考えよう【幸せカード】<br>・どの国のどんな人であっても「幸せに生きる」ために共通に必要なものは何? 【ブレインストーミング】  | ・幸せカード<br>・A3用紙、ペン                         |
|      | 6・7   | <u>私にできることってなんだろう?</u><br>・私たちにできることってなんだろう? 【KJ法】<br>(みんなのできること・個人のできること・すぐできること・時間が必要な軸)<br>・みんなの幸せを守るために活動している人の存在について知る【動画】<br>・日本の子供たちへのメッセージ動画を見る【動画】<br>・動画を見たうえで他にできることを付箋に書き、共有する【ギャラリー読み】<br>・みんなの幸せのために、自分にできることってなんだろう? 【行動宣言】<br>・思いをこめた学年のタルチョをつくる           | ・模造紙、付箋、ペン<br><br>・動画<br><br>・折り紙、ひも、木製ピンチ |
|      | 成果  | <p>いろいろな参加型の活動を取り入れたことで、子どもたちは楽しみながら進んで学習に取り組み、国際理解への関心を高めることができた。特に、ネパールでの経験に基づいた「生の声」や、現地の服や道具といった「本物」に触れたことは、子どもたちが遠い国を身近に感じる大きなきっかけとなった。</p>   |  |
| 課題   | <p>学年全体での授業だったため、細部の確認や説明が不十分な点もあり、内容を難しく感じる場面があった。また、世界をより身近に捉えた上で、各自が興味もった事柄を深掘りできる「探究の時間」を設けることで、より学びを深められるのではないかと感じた。</p> |  |  |
| 備考   | <p>・毎時間3クラス合同で授業を行った。</p> <p>・授業を公開し、他学年の先生方に見に来ていただいた。</p>   |  |  |

## 違いを知り、同じ願いへ

23

|      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| 所属   | 愛知県津島市立藤浪中学校  | 実践者  | 野田 琴乃  |
| 対象   | 中学校1・2年生(179名)  | 実践日  | 2025年12月   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数  | 4時間×3クラス   |
| テーマ  | 多様性理解・共生・コミュニケーション  |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とネパールの違いを考え、誰もが大切にされる存在であることと、そのための方法を学ぶ。</li> <li>・日本で働く外国人の思いや現状を知り、共に生きていくために自分達にできることを考える。</li> </ul> |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考   |
|      | 1年<br>1回  | <b>「いろんな違い」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンキングボウルとリンの音色を聞き、違いを感じる。</li> <li>・ネパールと日本の違いを、あってもいい違いと、あると危険な違いに分け、グループで理由を話し合う。【対比表】</li> <li>・トピを被ったネパール人が電車で受けた心無い言葉のニュースを読み、感じたことを共有する。</li> <li>・世界人権宣言を読み、あってもいい違いは認め合い、あると危険な違いはなくしていくべきものだと考える。</li> </ul>            | <b>【使用教材】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールで撮影した写真・映像</li> <li>・現地で購入した教材</li> <li>・ニュース記事</li> <li>・世界人権宣言資料</li> <li>・アクションプラン</li> <li>・PPTスライド</li> <li>・ワークシート</li> <li>・違いカード</li> <li>・事例カード</li> <li>・模造紙</li> <li>・付箋</li> </ul> ※授業内容に応じて<br>適宜活用 |
|      | 2回  | <b>「私もあなたも大切にするには」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長や経験とともに、思考や意見が増えることに気付く。【ブレスト】</li> <li>・3つのコミュニケーション(アグレッシブ・ノンアサーティブ・アサーティブ)を続けると、どのような結果に繋がるか考える。【派生図】</li> <li>・課題に対するアサーティブな答え方について、私メッセージを参考に各自で考え、ペアで実践する。【シミュレーション】</li> <li>・今日から自分ができる行動を考える。【行動宣言】</li> </ul> |  |
|      | 2年<br>1回  | <b>「彼らの未来、どんな未来？」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールと日本は繋がっていることを感じる。【クイズ】</li> <li>・日本で働きたいネパールの人の映像を見て、彼らの思いや未来を想像する。【フォトランゲージ】</li> <li>・私たちが世界で働く立場になった場合を想定し、楽しみなことと不安なことを整理する。【対比表】</li> <li>・日本は自国の力でだけで成り立っていないことを感じる。【クイズ】</li> </ul>                             | <b>【参考資料】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日新聞(2025.10.2)</li> <li>・アムネスティ日本</li> <li>・『参加型アクティビティ集』NIED・国際理解教育センター</li> <li>・『SDGs 実践資料集』開発教育研究会</li> </ul>   |
|      | 2回  | <b>「みんなで創ろう！みんなの居場所」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在留外国人の事例を読み、よりよい未来を共に創っていくためにできることを考える。【ブレインストーミング】</li> <li>・在留外国人が感じる3つの壁(言葉・心・制度)を学び、考えたアイデアがどの壁に関わるのか整理する。【ベン図】</li> <li>・日本語学校の先生のメッセージ動画とアクションプランを読む。</li> <li>・2時間の授業の振り返り、自分ができる行動を考える。【行動宣言】</li> </ul>        |  |
| 成果   | 子どもたちは、自分たちの当たり前が世界共通ではないことに気付き、他国の文化や背景に目を向ける姿が見られた。特に、映像や参加型の活動を通して、在留外国人やネパールの人々の思いを自分事として捉えようとする様子があった。相手の立場を想像しながら関わろうとする意識の芽生えが見られた。          |  |  |
| 課題   | 授業時数が限られている中で、伝えたい内容を十分に厳選しきれず、広く浅い学びになってしまう場面もあった。今後は、目の前の子どもたちにとって最も大切にしたいねらいを明確にし、子どもたちの素朴な疑問や発言を丁寧に拾いながら、対話を通して考えを深めていける授業展開を目指したい。             |  |  |
| 備考   | 実践した授業は、学年職員にも見ていただき、学んだ内容が日常生活でも繰り返す意識できるように声掛けを依頼した。また、授業内容を保健便りに掲載し、生徒へのフィードバックと保護者への紹介を行った。   |  |  |




## 学級をカラフルにしよう！～自分を知って 友だちを知って～

24

|      |  |  |   |
|------|--|--|---|
| 所属   | 愛知県名古屋市立老松小学校  | 実践者  | 萩尾 圭                                    |
| 対象   | 小学校2年生（16名）  | 実践日  | 2026年1月                                 |
| 実践教科 | 学級活動   | 時間数  | 6時間                                     |
| テーマ  | 共生・コミュニケーション   |  |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の良さに気付くことができる。</li> <li>・互いの違いを知り、認め合うことができる。</li> <li>・協力する大切さを知り、学級をより良くしようとする態度をもつことができる。</li> </ul> |  |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考                                      |
|      | 1  | <b>自己紹介をしよう！</b><br>○好きなこと、今はまっていること、将来の夢など、自己紹介カードを書く。<br>○書いたものを読み合い、付箋に感想を貼る。【ギャラリー方式】              |   |
|      | 2  | <b>互いの良いところを知ろう</b><br>○はじめに自分の良いところを5つ書き出す。次に、グループでその子の良いところを書いて付箋で貼る。【ブレインストーミング】                    |   |
|      | 3  | <b>すごろく自己紹介</b><br>○互いの話を聞くことを意識しながら、楽しく活動する。途中でグループを変えて、多くの友達と関わることができるようにする。                         | ★『参加型アクティビティ集コミュニケーション編』NIED・国際理解協カセンター |
|      | 4  | <b>同じところと違うところ</b><br>○グループ全員の共通点をできるだけたくさん見つけたり、相違点を見つけたりして、互いを認め合う。【ブレインストーミング】                      | ★『参加型アクティビティ集コミュニケーション編』NIED・国際理解協カセンター |
|      | 5  | <b>一人一人の良さを生かして、学級をカラフルにしよう！</b><br>○自分の良さを生かして、学級をよりよくできることを考え、行動計画を立てる。【行動宣言】                        |   |
|      | 6  | <b>一人一人の良さを生かして、学級をカラフルにしよう！2</b><br>○それぞれの行動目標を振り返り、達成状況を自分や友達と確かめる。できたことやこれから頑張りたいことを、記入する。【ギャラリー方式】 |   |
| 成果   | ○ほとんどの児童が、「楽しかった！」「もっとやりたい！」と、主体的に取り組んだり、次時への意欲を高めたりすることができた。今回のプログラムを通して、児童が自分や友達を大切にしようとする態度や、学級をより良くしていこうとする態度を育てることができた。                         |  |   |
| 課題   | ●プログラムを行った時期が遅く、児童の立てた行動目標の達成状況を確認するまでの期間を十分にとることができなかった。今後継続して、年度末まで活動を行っていきたい。   |  |   |
| 備考   | 日本語が苦手な児童が1名いたが、他の児童が優しく声をかける姿が見られた。それでも活動が進まない場面では、教師が説明しながら英語で聞き取り、活動を支援した。  |  |   |

## ネパールへ冒険！お宝ゲット大作戦！～つながる・考える・伝え合う～

25

|      |  |  |   |
|------|--|--|---|
| 所属   | 愛知県社会体験型研修員（刈谷市立亀城小学校）   | 実践者  | 橋本 幹子   |
| 対象   | 一般公募：小学1年生～中学生参加<br>（29名応募 27名参加）  | 実践日  | 2025年 11月   |
| 実践教科 | 刈谷市国際交流協会事業 小中学生のための国際理解講座<br>「世界をのぞこう」～ネパール編～   | 時間数  | 2時間   |
| テーマ  | 異文化理解、自己の確立、コミュニケーション  |  |   |
| ねらい  | 1. 世界の多様性に触れ、新しい文化を知ることへの関心を高める。<br>2. ことばや文化の違いを乗り越え、伝えあう経験を通してコミュニケーション力を高める。<br>3. ネパールの暮らしや文化にふれ、自分とは異なる背景をもつ人への理解を広げる。  |  |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考  |
|      |  | <p>■なかよしミッションに挑戦だ！【アイスブレイク】</p> <p>① 自己紹介ミッション<br/>☆異文化の言葉で伝える楽しさを味わい、自分から関わろうとする。<br/>・初対面の人とあいさつをし、ネパール語で自己紹介。<br/>・ネパール語シールを交換し、言葉のやりとりを楽しむ。</p> <p>② 4つのコーナー<br/>☆ネパールに肯定的に出会い、「もっと知りたい」気持ちをもつ。<br/>・写真や体験談を通して、他国や異文化に親しむ。</p> <p>■もっと！！なかよくなろう♪ミッション&amp;クイズでお宝シールゲットだけ！<br/>【ブレインストーミング・フォトランゲージ・ジクソー法・対比表・ポップコーン方式】<br/>☆写真や体験談から問いをもち、考えることを楽しむ。<br/>☆仲間と協力し、多様な見方に気づく。<br/>・チームでミッションやクイズに挑戦し、ネパールコレクションシールを集める。</p> <p>■ネパールティーでブレイクタイム♪<br/>☆息つきながら、感想を交流し、次の活動への意欲を高める。<br/>・ネパールティーを飲みながら自由に話す。</p> <p>■ネパールへ出国！お宝情報ゲットだけ！<br/>【フィールドワーク・ジクソー法】<br/>☆興味関心をもとに情報を選び、主体的に学ぶ。<br/>・4つのブースから2つ担当をもち、気になるテーマを調べる。<br/>・学年に応じた「記者ミッション」に挑戦。</p> <p>■見てみて！みんなに伝えたい自分の記事！【ピアレスポンス・ギャラリー法】<br/>☆発見を伝える喜びを味わい、視点の相違に気づく。<br/>☆他国にも課題があることを知り、未来を考え始める。<br/>・グループ内で発表し、リアクションシールで反応。<br/>・ギャラリー法で他チームの記事を見てリアクションシール交流。</p> <p>■友達のお宝を確認しに行こう！【フィールドワーク】<br/>☆友達学びから、自分の学びを広げる。<br/>・まだ見ていないブースを訪れ、新たな発見をする。</p> <p>■自分だけのタルチョづくり【ランキング・自己表現・ふりかえり】<br/>☆学びを整理し、自分の言葉で未来につなげる。<br/>・初めて知ったことや心に残ったランキングなど、自分の想いや未来への想いをタルチョに書き、オリジナル作品を完成させ、共有する。</p> | <p>ネパールあいさつシール<br/>※一人一語担当<br/>《オリジナルパスポート》<br/></p> <p>ミッションシート<br/>写真10枚セット<br/>ネパールコレクションシール<br/>《ネパール都廳》<br/></p> <p>文化・町・食・人情などの文章<br/>ネパール情報や写真・シール<br/>民族衣装、チュンギ<br/>新聞・新聞和訳シール<br/>ネパール夢カード<br/>スパイス(嗅覚)<br/>民族音楽演奏(聴覚)<br/>ネパールBOX<br/>タルチョカード<br/>木彫りスタンプ<br/>リアクションシール<br/>麻ひも など<br/>くるみボタンお土産セット<br/></p> |
| 成果   | ネパール語での自己紹介やミッション活動を通して、異文化を「特別なもの」ではなく身近な存在として受け止める姿が見られた。時間が来て活動が続けたが子どもたちの姿からは、関心の高まりと主体性がうかがえた。また、年齢の異なる仲間と関わりながら、自分の考えを伝え、相手の話を聞く経験を重ねることで、自己を表現しようとする意識やコミュニケーション能力の向上が見られた。 |  |   |
| 課題   | 参加者の発達段階の違いや、活動内容が豊富であったため、集めた情報を十分に整理・深掘りできない場面があった。特に記者ミッションやお宝記事づくりでは、考えを深めるための時間確保や視点の絞り方に工夫の余地がある。自分なりの課題を見つけて探究へとつなげる視点の提示や、まとめにかけられる時間配分、学年差に応じた支援の工夫が今後の課題である。             |  |   |
| 備考   | 一回限りの講座のため、楽しさの中に学びが自然に組み込まれるように、体験・対話・表現を組み合わせた構成を意識した。学校現場に戻った際には、学年や発達段階に応じた形で再考し、探究的な学びとして実践したい。   |  |   |

## サステナブルな社会を作るには？

|      |   |  |                     |
|------|---|--|---------------------|
| 所属   | 愛知県名古屋市立北高等学校   | 実践者  | 東谷 亜希子              |
| 対象   | 高校3年生（国際理解コース 35名）  | 実践日  | 2025年 9月～10月        |
| 実践教科 | ESD（総合的な探究の時間）  | 時間数  | 5時間                 |
| テーマ  | 人権、環境   |  |                     |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能性について考えを深める</li> <li>・具体的な行動をするきっかけを作る</li> </ul> |  |                     |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考                  |
|      | 1   | 「Global Issue とは？」<br>半模造紙に、Global Issue を書きだす【ブレインストーミング】【派生図】  | 半模造紙、ペン             |
|      | 2   | 「豊かな社会にとって大切なこと」<br>1人1枚プリントを配布<br>自分にとって「豊かである」とはどのような状態かを考えさせる。<br>9つのグループに分かれ、異なる人の立場にたって、その人たちにとって「豊かである」とはどのような状態かを考える  | プリント                |
|      | 3   | 「どんな社会を作りたい？」<br>①『100年先にはなくなっていたらいいもの』『100年先も残っていてほしいもの』を2色の付箋に分けて書き出す<br>②似た項目を集めて半模造紙に貼りだし、タイトルをつけ、整理する。<br>【KJ法】   | 付箋、半模造紙<br>ペン       |
|      | 4   | 「サステナブルな〇〇をデザインしよう」<br>6つのグループに分かれて、それぞれのテーマでデザインし、絵で表す<br>(1)学校 (2)食堂、レストラン (3)テーマパーク (4)コンビニ (5)オフィス (6)ショッピングセンター<br>いろいろなものが循環しているか、生物多様性への配慮があるか、CO2を減らす努力がなされているか、などを考えながらデザインする<br>それぞれのアイデアをプレゼンする →投票 | 模造紙、ペン<br><br>シール   |
|      | 5   | 「自分たちにできること」<br>現在、自分たちにできることを考え、それぞれが用紙に記入する<br>【行動宣言】  | A4用紙、ペン<br>SDGs シール |
| 成果   | 生徒がなんとなく「環境によい」「地球にとってよい」と思っていることを、具体的に絵で表すことによって、イメージができた。サステナブルな工夫がもっとできるということに気づかせることができた。 |  |                     |
| 課題   | 行動宣言が、浅くなってしまった生徒もあり、もっと深く考えさせることができるとよかった。「行動」となると、どうしても小さなステップになってしまった。                     |  |                     |
| 備考   | 「豊かさ」と開発」開発教育協会 DEAR<br>「Social Action Handbook」開発教育協会 DEAR                                   |  |                     |

## 身近なことから「よりよい社会」について考えよう

27

|      |  |   |   |
|------|--|---|---|
| 所属   | 岐阜県多治見市立笠原小学校  | 実践者   | 深萱 健次   |
| 対象   | 小学校5年生(54名)  | 実践日   | 2025年6月~2026年1月                                 |
| 実践教科 | (社会科・総合的な学習の時間・学活)   | 時間数   | 4時間   |
| テーマ  | 環境・共生・教育・社会参画  |   |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の国土や食料生産について学び、持続可能な生活(環境、食料生産)について考える。</li> <li>・新しい学校づくりに向け、どう関わっていくか考え、主体的に参画する意識を育む。</li> <li>・身近なことから、生活、学校、日本、世界について、自分事として考える。</li> </ul>     |   |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考  |
|      | 1・2  | <b>「日本の地形や気候と私たちの生活について考えよう」</b><br>①アイスブレイク「どこが好きかな」(高い土地・低い土地/田舎・都会)<br>②住んでみたいところを選び、テキストに書く→共有ノートに貼る<br>③「高い土地、低い土地、寒い地域、暖かい地域」の良さを考える。<br>テキスト3つ書く→共有ノートに貼る(話しながら)→似たものを近くに貼る<br>→タイトルをつける→他Gを見て共感したら☆をつける→自分Gを見る<br>④「高い土地、低い土地、寒い地域、暖かい地域」の課題を考える。<br>※③と同じ方法で行う。<br>⑤「こんな日本に住みたい」を相談して3つ書く。                                       | ロイロノート「共有ノート」でテキスト(付箋)を添付。<br><br>東京書籍「あたらしい社会」 |
|      | 3  | <b>「日本、世界の食料について考えよう」</b><br>①アイスブレイク「好きな食べ物」※米・パン・めん・いも/肉・魚・野菜・果物<br>②「主食でなくなったら困るもの順」A4用紙に順に書き、1番について話す。<br>③「もしコメがなくなったら」についてグループで考えを書く。(派生)→他Gを見て共感したら☆をつける→自分Gを見る<br>④「フードロスと飢餓の現状」について知る。※プリント配布・説明<br>⑤「飢餓の国の人が健康な生活ができるようになるには」について考える。<br>付箋紙3つ書く→模造紙に貼る(話しながら)→似たものを近くに貼る→他Gを見て共感したら☆をつける→自分Gを見る<br>⑥「僕たち私たちにできること」について考え、交流する。 | 農林水産省「食品ロスとは」<br><br>ユニセフ「持続可能な世界への一歩」SDGs CLUB |
|      | 4  | <b>「5年・6年生として、笠原小中学校をどんな学校にしていきたいか考えよう」</b><br>①アイスブレイク「6年生になることは楽しみか？」<br>②「新しい学校(義務教育学校)の仕組み」を知る。説明を聞き、違いを考える。<br>③5年生として「最後の卒業式」をどういうものにしたいか考える。<br>グループで模造紙に付箋紙を貼り、整理する。→他のGを見て、発表する<br>④6年生として「どんな学校にしたいか」を考える。<br>グループで模造紙に考えを書き、整理する。→他のGを見て発表する   | 笠原小学校、笠原中学校学校経営方針                               |
| 成果   | 社会科の学習や学校生活等、身近なことから、日本や世界について考えることができた。参加型の学習形態で取り組んだことで、仲間と関わりながら主体的に学びに向かう姿が増えた。自校の現状(義務教育学校開校、人権教育課題推進校、英語教育推進)を生かした実践は、学校経営にも反映することができた。  |   |   |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初予定の外国人の人権課題について、取材や教材化の難しさから実施できず、直接外国の方からの生の声を生かすできなかった。さらに自分事として考えられる実践が必要であった。</li> <li>・周知が不十分だったため、教職員へ十分還元できなかった。さらに人権教育推進を進めていきたい。</li> </ul> |   |   |
| 備考   | 令和7~9年度 文科省・岐阜県教育委員会指定「人権教育総合推進地域事業」の実践につなげていく。  |   |   |

## 「わたし」も「あなた」も大切にできる地球市民

|      |   |  |   |
|------|---|--|---|
| 所属   | 愛知県名古屋市長西郷小学校   | 実践者  | 松川 咲紀                                     |
| 対象   | 小学校5年生（22名）   | 実践日  | 2025年10月                                  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数  | 6時間                                       |
| テーマ  | 国際理解、自己理解、他者理解  |  |   |
| ねらい  | ・自己理解と他者理解を深めることができる  |  |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム  | 備考  |
|      | 1   | ○「わたし」を知る<br>・「もしも、世界が22人の村だったら」で、地球の多様性を学び、地球市民としての自覚をもつ<br>・自分の性格、得意なこと、苦手なこと、好きなことなど、自分に関することを派生図で広げる                                       | 【もしも世界が100人の村だったら】(開発教育協会(DEAR))<br>【派生図】 |
|      | 2   | ○「あなた」から見た「わたし」に気付く<br>・「3つのホント、1つのウソ」で、他者から見た自分には知らない一面があることに気付く<br>・班の友達に自分の派生図を渡し、友達から見た自分を派生図に書き加えてもらう                                     | 【3つのホント、1つのウソ】<br>【派生図】                   |
|      | 3   | ○「わたし」を伝える難しさを経験する<br>・脱出ゲームで自分の思いを他者へ伝えることの難しさを経験し、自己だけでなく他者も大切にしないといけないことに気付く  | 【合意形成ゲーム】                                 |
|      | 4・5   | ○「わたし」も「あなた」も思いを伝えるためには<br>・ゲームを振り返って、よかった点・もやもやした点を書き出す<br>・他者を大切にするための「思いやりルール」を考える<br>・「思いやりルール」を大切に、2回目の脱出ゲームを行う<br>・ゲームを振り返り、他者理解の大切さに気付く | 【対比表】<br>【話し合いのルール作り】                     |
|      | 6   | ○もう一度「わたし」を知る<br>・これまでの活動を振り返り、「わたしは〇〇な地球市民！」ポスターを作成する<br>・作成したポスターを発表する   |   |
| 成果   | 第1時では「得意なこと」「性格」について、外見や持っている物などの外面的なことや、ネガティブなことを書く児童が多かった。しかし、第6時ではより深く内面的なことについて書く児童が多く見られた。「わたし」と「あなた」を大切にする体験をし、自己理解と他者理解を深めることができた。 |  |   |
| 課題   | 2回目の脱出ゲームにおいて、他者の思いを大切にできなかった児童がいた。児童は「どんな聞き方をすればよいか分からない」と教えてくれた。他者を大切にする聞き方・大切にしない聞き方をシュミレーションし、他者の思いを大切にする行動の具体化をしたい。                  |  |   |
| 備考   |   |  |   |



## 咲かそう！わたし・あなた・みんなの笑顔

29

|      |  |  |   |
|------|--|--|---|
| 所属   | 静岡県菊川市立六郷小学校   | 実践者  | 松本 双葉   |
| 対象   | 小学校5年生（34名）  | 実践日  | 2025年 9月～11月  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間・学級活動   | 時間数  | 9時間   |
| テーマ  | 多文化共生 国際理解   |  |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と外国では、衣・食・住などの文化に違いがあることに気付く。</li> <li>・異文化の環境で生活する外国籍児童の困り感を理解し、適切に配慮して接する姿勢を育てる。</li> <li>・一人ひとり考え方が違うことに気づき、相手を理解し受け入れようとする気持ちを育てる。</li> </ul>                      |  |   |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考  |
|      | 1  | <b>◆日本とは異なる国には、どんな文化があるのかな。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールの民族衣装や、楽器を実際に着たり触ったりする。</li> <li>・日本と外国との違いを肌で感じる。 【4つのコーナー】</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールボックス</li> <li>・はい/いいえカード</li> </ul>  |
|      | 2  | <b>◆ネパールの食べ物と日本の食べ物にはどんな違いがあるのかな。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・外国のクイズ・ネパールの食べ物の写真を食べてみたい順に並べる。 【フォトランゲージ・ダイヤモンドランキング】</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が考えた あっていいちがい 例</li> </ul>            |
|      | 3  | <b>◆「あっていいちがい」と「あってはいけないちがい」ってなんだろう。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールの写真から、日本との生活の違いを比べる</li> <li>・あっていい違いと、あってはいけない違いに分ける。 【フォトランゲージ、対比表】</li> </ul> |   |
|      | 4  | <b>◆ネパールの人って幸せじゃないのかな。幸せってなんだろう。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとっての幸せと、友達にとっての幸せを比べる 【二次元軸】</li> </ul>   |   |
|      | 5  | <b>◆ラクスマンさんから学ぼう。外国の人と繋がってみよう。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパール人のラクスマンさんからネパールについて教えてもらう。 【オンライン交流】</li> </ul>  |   |
|      | 6  | <b>◆文化が違って、みんな笑顔になるにはどうしたらいいのかな。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールから来た転校生からのお願いについて考える。 【ロールプレイ・二次元軸】</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・転校生からのお願いの例</li> </ul>                 |
|      | 7  | <b>◆外国で授業を受けるってどんな気持ちかな。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジル人の先生によるポルトガル語の授業を体験する。</li> <li>・「外国のクラスに自分一人だけだったら」と考える。 【派生図】</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のポルトガル語通訳を担当する方に協力してもらう</li> </ul>  |
|      | 8・9  | <b>◆みんなが笑顔になれる学級はどんな学級かな。</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・事例をもとに、みんなが笑顔になるためにはどうしたらいいのか考える。</li> <li>・みんながより笑顔で過ごせる学級にする為にできることを考える。</li> </ul>           |   |
| 成果   | <p>授業を受けた子どもは、日本と外国では文化に違いがあることに気付いた。日本の当たり前は外国の当たり前ではないことにも気付いた。文化の違いによって、困ることがあると知り、その解決方法を考えることができた。一人ひとり考え方が違うことに気づき、相手を理解し受け入れ、積極的に他者と話し合いができるようになった。</p> <p>指導者としては、様々な参加型の話し合いの仕方を知り、他の授業でも使えるようになった。</p> |  |   |
| 課題   | <p>今回のプログラムを通して、子供は、他国の文化や相手を受け入れることの大切さについてよく理解することができた。しかし、全てを受け入れることが互いの笑顔を広げ続けることに繋がるのかどうかについて考えることが難しかった。子供の様子をや発達段階に合わせて授業をしていく必要がある。</p>  |  |   |
| 備考   | <p>外国籍児童も在籍する学級なので、その子供達と授業を繋げた。使用する言葉は実情に応じて考慮する必要がある。(例:外国の学校に日本人一人だけだったら⇒外国籍児童はどう思う？考えさせたい?)</p>  |  |   |

## Personal is Political ～共生社会に向けた私たちの選択～

30

|      |   |   |  |  |
|------|---|---|--|--|
| 所属   | 静岡県沼津市立長井崎小中一貫学校  | 実践者   | 真野 直亮  |  |
| 対象   | 中学校1年生（14名）   | 実践日   | 2025年9月～12月  |  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間・英語  | 時間数   | 21時間   |  |
| テーマ  | 共生、貧困、ソーシャル・アクション   |   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化、人物を知り、いいかも、遠い存在でないと思ったり、気づいたりする。</li> <li>・貧困の輪を断ち切るためにできることを考え、活動をしている人の思いについても理解する。</li> <li>・自分たちにできるソーシャル・アクションを起こし、その経験から行動宣言をまとめる。</li> </ul> |   |  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考   |  |
|      | 1   | ネパール食べ物ランキング【ジグソー法】【ランキング】  |  |  |
|      | 2   | ネパールと日本のいいね！【ジグソー法】【対比表】  |   |  |
|      | 3   | ネパールのライマジさんとモモを作ろう  |  |  |
|      | 4   | 幸せに生きるために生まれた私たち【派生図】【フォトランゲージ】   | 講師：<br>エベレストダイニング<br>店長ライマジさん  |  |
|      | 5   | 日本の紹介文を英語にしよう   |  |  |
|      | 6   | NEXT GENERATION RESIDENTIAL ACADEMY とのオンライン交流会  | 相手校：<br>ネパール(カトマンズ)の学校   |  |
|      | 7   | みらいカレッジ三島キャンパスとの交流会   | 相手校：<br>みらいカレッジ三島キャンパス   |  |
|      | 8   | 幸せ～貧困をなくす一歩を踏み出そう～【対比表】【因果関係図】  | 講師：<br>認定NPO 法人シャ<br>プラニール＝市民による海外協力の会<br>高階さん                                       |  |
|      | 9   | シャプラニールの支援って？(講演会)  |  |  |
|      | 10  | 幸せ～自分たちにできる一歩を踏み出そう～【ブレインストーミング】  |  |  |
|      | 11～13   | カフェに向けて、準備をしよう  |  |  |
|      | 14  | 東部特別支援学校との交流会   |  |  |
|      | 15  | みかん収穫体験   |  |  |
|      | 16～20   | 広め、伝え、知ってもらおう 私たちの Action エベレストカフェ  |  |  |
|      | 21  | 共生社会を担う私たち～Personal is Political～【対比表】  |  |  |
|      | 成果  | ネパールのことを知り、興味を持った子供たちは、ネパールの児童労働等の課題を学び、カフェ運営を通じた啓発と募金活動を成功させた。初対面の人との交流への緊張が減り、外国文化への関心や社会貢献への意欲・効力感が高まり、自分たちも課題解決に貢献できるという自信を得る成果があった。        |  |  |
|      | 課題  | 多くの方に来場してもらえるよう、駅前の商業施設でカフェを開催した一方、学校と施設間の距離があるため、移動に時間がかかってしまった。本実践では外部との連携が多くなるため、日程調整や連絡が多くなっていた。次年度以降も中学1年生の「総合的な学習の時間」として継続していけるようにしていきたい。 |  |  |
|      | 備考  |   |  |  |

## トレジャーハンターみあい～美合学区の宝を見つけよ～

31

|      |   |   |                  |  |
|------|---|---|------------------|--|
| 所属   | 愛知県岡崎立美合小学校   | 実践者   | 森田 由梨奈           |  |
| 対象   | 小学校2年生(23名)   | 実践日   | 2025年11月～2026年2月 |  |
| 実践教科 | 生活科   | 時間数   | 30時間             |  |
| テーマ  | 地域理解  |   |                  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美合学区には、様々な「もの」「ひと」がいることを知り、美合学区の「よさ」に気付く。</li> <li>・見つけた「よさ」を、今の自分にできる方法で発信する。</li> </ul> |   |                  |  |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考               |  |
|      | 1   | <b>『通学路や家の周りには、どんなところがある?』</b><br><input type="checkbox"/> 通学路のチームに分かれて、通学路や家の周りにある「もの」や「ひと」を書き出す。<br><input type="checkbox"/> 回し読みをして、気になった「もの」や「ひと」にシールを貼る。【ブレンストーミング】  |                  |  |
|      | 2   | <b>『トレジャーハンターみあい～美合学区の宝を見つけよ』…本単元の軸</b><br><input type="checkbox"/> 前時に、児童から出た意見を基に、教室に「もの」「ひと」に関するカードと、「宝箱」のカードを教室に隠し、トレジャーハンターゲームを行う。<br><input type="checkbox"/> ゲームを通して、美合学区には、様々な「もの」や「ひと」がいることを知るとともに、まだ知らない宝があることに気付き、本単元の軸(テーマ)を共有する。 |                  |  |
|      | 3・4   | <b>『町たんけん前と町たんけん後の美合学区の宝を比べてみよう』</b><br><input type="checkbox"/> 町たんけんに行く前の段階で、美合学区の宝だと思う「もの」「ひと」をチームで書き出す。<br>【KJ法】【対比表】   |                  |  |
|      | 5～8   | <b>『トレジャーハンターみあい出動～美合学区の宝を見つけよ～』</b><br><input type="checkbox"/> 3チームに分かれて町たんけんを行い、自分にとって宝だと思う「もの」「ひと」の写真を撮る。<br><input type="checkbox"/> 宝(撮った写真)をチームで整理し、行ってみたい「もの」「ひと」にシールを貼る。→2回目の町たんけんへつなげる。<br>【KJ法】【対比表】                               |                  |  |
|      | 9   | <b>『町たんけん前と町たんけん後の美合学区の宝をくらべてみよう』</b><br><input type="checkbox"/> 町たんけん前と町たんけん後の宝を比べて、気付いたことを書き出し、発表する。   |                  |  |
|      | 10  | <b>『トレジャーハンターみあいパート2～美合学区には、どんな人がいる?どんなことをしている?～』</b><br><input type="checkbox"/> 1回目の町たんけん、で、「ひと」に関する発見がなかったことに気付き、「ひと」に着目して、2回目の町たんけんに行く計画を立てる。   |                  |  |
|      | 11・12   | <input type="checkbox"/> 1回目の町たんけん、で気になったシールを基に、12店舗をピックアップして、そのうちの3店舗を選び、質問を考える。(商品/内装や外装/人に関する質問)   |                  |  |
|      | 13～16   | <b>『トレジャーハンターみあいパート2 出動～美合学区の宝(人)を見つけよ～』</b><br><input type="checkbox"/> 2回目の町たんけんを行い、1回目同様、自分にとって宝だと思う「ひと」「もの」の写真を撮る。また、お店の人に質問をする。その後、宝(撮った写真)をチームで整理をする。【KJ法】  |                  |  |
|      | 17・18   | <b>『もしも、トレジャーハンターみあいで見つけた宝がなかったら…美合学区はどうなる?』</b><br>【ブレンストーミング】   |                  |  |
|      | 19  | <input type="checkbox"/> ブレンストーミングからの気付きを基に、今ある美合学区のよさをどのようにしていきたいのかを考える。<br>【行動計画】   |                  |  |
|      | 20  | <b>『美合祭りを開こう』</b>   |                  |  |
|      | 21～   | <input type="checkbox"/> 行動計画を基に、トレジャーハンターみあいを通して知った美合のよさを伝えるために、祭りを開く。   |                  |  |
|      | 成果  | <p>ブレンストーミングや対比表を各チームで取り組み、回し読みや自由に歩き回って見る時間をとることで、発表よりも意欲的に他チームを知ろうとする姿が見られた。また、成果物として残るので、次時や単元全体としてつながりを感じさせるために活用することもできた。</p> <p>美合学区のよさを実感させるために行った『もしも…』(第19時)は、効果的であった。</p>   |                  |  |
|      | 課題  | <p>第19時の『もしも…』の取組で、2回行った町たんけんで見つけた宝を意識できていたかは薄いと感じる。</p>  |                  |  |
|      | 備考  |   |                  |  |

## 食品ロス問題～解決アクションプロジェクト～

32

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 所属   | 愛知県名古屋市立植田東小学校  | 実践者   | 八重尾 一貴  |
| 対象   | 小学校5年生（117名）  | 実践日   | 2025年6月～12月   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 19時間  |
| テーマ  | 食品ロス・共生・環境  |   |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス問題について理解を深め、報告文にまとめる。</li> <li>・食品ロス問題の解決に向けて、自分にできることを考え、行動する。</li> </ul>      |   |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考  |
|      | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品ロス問題について知ろう【派生図】</li> <li>・日本や世界の食品ロスの量や、食品ロスが及ぼす問題を紹介した。</li> <li>・食品ロスについて知っていることを派生図で班ごとにまとめた。</li> </ul>   | 使用教材<br>・スライド   |
|      | 2～3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給食の食品ロスについて知ろう【Xチャート】【回し読み】</li> <li>・クイズ形式で給食の食品ロスの量を知った。</li> <li>・栄養教諭と給食調理員さんを教室に招き、インタビューを行った。どのような思いで給食を作っているのか、余った給食はどうなってしまうのかを知った。</li> <li>・インタビューしたこと、できる解決策、給食の食品ロスが起こる原因、もっと知りたいことの4観点でXチャートに考えをまとめた。</li> </ul>                | ・模造紙<br>・付箋紙  |
|      | 4～8   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品ロス問題について調べたことを報告文にまとめよう</li> <li>・「自分の好きなこと」×「食品ロス」というテーマで探求、報告文にまとめる活動を行った。</li> <li>・コンビニ、レストラン、農業、レジャー施設など、様々な場所で問題が発生していることを知った。</li> </ul>  | ・ロイロノート   |
|      | 9～10  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品ロス問題の解決のためにできることを知ろう</li> <li>・「なんでやろう？食品ロス問題カードゲーム」を使用して、問題の解決のためにできることを知った。</li> </ul>   | ・なんでやろう？食品ロスカードゲーム<br>（大阪府環境農林水産部流通対策室<br>ブランド戦略推進課<br>総務・企画グループ） |
|      | 11～18   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品ロス問題の解決に向けて、自分にできることを考え、行動しよう</li> <li>・スーパー、コンビニ、家庭、給食など様々な場所でできる解決策を考えて、実行した。</li> <li>・スーパーやコンビニには、ポスターやポップ、シールを作成して、使用してもらった。また、全校でフードドライブを行い、集まった食材や調味料をフードバンクに寄付した。</li> <li>・「もったいないレシピ」をまとめて家庭に配布したり、全校で、給食完食企画を行ったりした。</li> </ul> | ・画用紙  |
|      | 19  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行動宣言</li> <li>・3個の行動宣言にまとめ、交流した。</li> </ul>  |   |
|      | 成果  | 子どもたちにとって身近な「食」をテーマに授業を展開したことで、子どもたちの興味や考え、やりたいことを軸に授業を進めることが出来た。ただ調べ学習を行うだけでなく、アクションを起こせたことで、自分たちと遠い問題ではなく、「自分たちにも出来ることがある！」という達成感を感じさせることが出来た。  |   |
| 課題   | アクションを進める場面で、手段が目的になってしまい、うまく進められないグループがあった。もっと「食品ロス」について深く理解をさせ、何が問題で、それを解決するために誰に何を伝えたいのかを考え、計画を立てる時間をしっかりと確保出来ると良かったと思う。 |   |   |
| 備考   |   |   |   |

# わたしとあなたと世界のみんな



33

|      |  |   |  |
|------|--|---|--|
| 所属   | 滋賀県大津立真野小学校  | 実践者   | 山越 栄太郎   |
| 対象   | 小学校6年生（69名）  | 実践日   | 2025年9月～11月  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間  | 時間数   | 19時間   |
| テーマ  | 多様性 多文化共生  |   |  |
| ねらい  | <p>○様々な国の文化や生活、日本とのちがいについて知り、どれも尊重すべき大切なものであるということに気づく。</p> <p>○他国の人々や文化、自分の周りの人を大切にするために、自分が今できること、大人になったらしたいこと(生き方)について具体的に考え、行動目標を立てる。</p>          |   |  |
| 実践内容 | 回  | プログラム   | 備考   |
|      | 1  | <p>いろいろな「ちがい」「おなじ」について考えよう。</p> <p>・学級の友だちとの様々な「ちがい」を可視化</p> <p>・「もしも『ちがい』が認め合えない世界だったら、、、」</p> <p>【ブレインストーミング】</p>   | <p>1時ワークシート・ブレインストーミング</p>   |
|      | 2～4  | <p>「世界のみんな」について調べよう！</p> <p>担当の国調べ(国旗の意味・言語・文化・食事・服装など)</p>   |  |
|      | 5～11   | <p>世界のみんなから学ぼう！</p> <p>JICA 海外協力隊隊員オンライン中継授業(ラオス・セネガル・ベナン)</p> <p>滋賀県国際協会国際交流員授業(アメリカ・ブラジル)</p> <p>協力隊 OB 授業(カンボジア)、元日本人学校教員授業(イタリア)</p>  |  |
|      | 12～13  | 国調べ、まとめ、発表準備  |  |
|      | 14・15  | 調べたことを発表し合い、「世界のみんな」についてもっと知ろう！   |  |
|      | 16   | <p>世界のみんなの食卓をのぞいてみよう！</p> <p>多様性に関するゲーム「わたしん家の食事から」</p>   |  |
|      | 17   | <p>たくさんの「ちがい」について考えよう！</p> <p>「ちがいがあることのメリット・デメリット」【対比表】</p>  | <p>17時対比表</p>  |
|      | 18   | <p>「ちがい」とどう向き合うか考えよう。</p> <p>第1時ブレインストーミング「もしも『ちがい』が認め合えない世界だったら、、、」、17時対比表「ちがいがあることのメリット・デメリット」を参考に</p> <p>○様々な「ちがい」に対して自分がどのように向き合っていこうと思うか</p> <p>○そのために、これから自分自身が</p> <p>①今できることは何か(具体的にどんな行動?)</p> <p>②どんなふうに生きていきたいか(大切にしたい思い)</p> <p>・児童が世界の様々な文化を知ることができ、それらがどれも大切なものであるという意識を持つことができた。</p> | <p>外部講師: 現 JICA 海外協力隊隊員3名、<br/>滋賀県国際課国際交流員2名</p> <p>使用教材: 「わたしん家の食事から」</p> |
|      | 成果   | <p>○児童が世界の様々な文化を知ることができ、自分たちの暮らしや常識大きく違っていても、とそれらがどれも大切なものであるという意識を持つことができた</p> <p>○世界の様々な文化を自分たちで調べていったことによって、無知による「なんとなく怖い」意識が減った。</p> <p>○様々な「ちがい」を肯定的に受け止めたり、楽しんでいこうという意識をもつことができた。</p>   |  |
| 課題   | <p>様々な「ちがい」とどう向き合うかを考えるために、自分自身身近な人へ世界と広げていったが、「日本」と「世界」の文化や生活のちがいに目が行きがちな児童が多かった。広い意味での異文化理解にはなったが、身近にある多様性を尊重することの延長線上に多文化共生があることが意識できた児童は少なかった。</p> |   |  |
| 備考   | <p>滋賀県国際協会が開発した、世界の食を通して異文化と出合う教材「わたしん家の食事から」、おすすめです。現在リニューアル作業中です。</p>  |   |  |

## SDGs×キャリア教育～開発教育を通して、優しい未来を～

34

|      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 所属   | 愛知県名古屋市立鳴子台中学校   | 実践者  | 山田 拓弥  |
| 対象   | 中学校2年生（152名）   | 実践日  | 2025年9月～2026年1月  |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間、英語   | 時間数  | 10時間   |
| テーマ  | 国際理解、SDGs、キャリア   |  |  |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の課題の背景を考え、より良い社会の実現には、一人一人の行動や協働が必要であることに気づく。</li> <li>・SDGsの目標を達成することを目指し、自分にできる行動を積み重ねようとする姿勢を育む。</li> </ul>                                       |  |  |
| 実践内容 | 回  | プログラム  | 備考   |
|      | 1  | <b>SDGsの目標を達成しよう！より良い社会をみんなで創ろう！</b><br>・クイズを通して、様々な企業や団体のSDGs目標実現に向けての取り組みを学ぶ。【フォトランゲージ】  | 参考資料：おおぶフェアトレードタウン推進委員会作成資料など  |
|      | 2  | <b>SDGsの目標を達成するために、現在の課題について考えよう！</b><br>・日本のSDGsに関する課題をグループで共有する。【ジグソー法】<br>・「もしも課題がそのままだったら…」についてグループで考える。【派生図】  |  |
|      | 3  | <b>伝統工芸とSDGsのつながりを考えよう！</b><br>・環境問題に関するクイズ(ホッキョクグマからの手紙)に取り組む。【シミュレーション】<br>・江戸時代の暮らしから、循環型社会について考える。【マッチング】<br>・「各家庭でできること」、「学校や地域でできること」をグループで考え、リストアップする。【対比表】 | 教師海外研修の写真<br>参考資料：『ちびしろくまのねがいごと』講談社<br>『落語でわかる江戸のくらし ③江戸のリサイクルと科学技術』学研教育出版 |
|      | 4-5  | <b>日本の伝統工芸の魅力を伝えよう！有松絞りを体験しよう！</b><br>・一人一つ割り振られた日本の伝統工芸を調べ、SDGsとの関連や環境への配慮についての掲示物を作成する。廊下に掲示し、他の生徒と学んだことを共有する。講師の方に来ていただき、有松絞りを体験する。                             |  |
|      | 6-7  | <b>街や学校に取り入れたいユニバーサルデザインを紹介するポスターを英語で書こう！</b><br>(NEW HORIZON English Course2 Unit5 What design is good for everyone? )  |  |
|      | 8-9  | <b>参加型職業人講話を通して、働くことのやりがいを学ぼう！</b>   | 講師：名古屋市役所市民課 など  |
|      | 10   | <b>SDGsの目標達成を目指し、行動宣言をしよう！</b><br>・より良い社会の実現に向けて、今できることを考え、ダイヤモンドランキングを作成する【ランキング】<br>・1年間の振り返りと今後心がけたいことを入力する。【行動宣言】  | 参考資料：『教師海外研修ガイドブック』JICA 中部   |
| 成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育とキャリア教育を融合させた参加型の授業を実践したことで、働くことのやりがいを考えたり、級友と意見を交換しながら学びを深めたりする機会を作ることができた。</li> <li>・より良い社会の実現のために今からできることと将来的に行いたいことの両方を考えることができた。</li> </ul> |  |  |
| 課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が限られていたため、急ぎ足で行った活動があった。考えを共有したり、深掘りしたり、他者の前で自分の意見を発表したりする機会を大切にしたい。</li> </ul>  |  |  |
| 備考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続いて総合の年間テーマを「国際理解」に設定し、各学級担任の先生方の協力のもと、2年生全クラスを対象に実践を行った。</li> </ul>   |  |  |

## 国語科だからできること 教科×国際理解教育

35

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 所属   | 名城大学附属高等学校  | 実践者   | 吉岡 円茄   |
| 対象   | 高校3年生（3学級108名）  | 実践日   | 2025年10月～11月  |
| 実践教科 | 論理国語  | 時間数   | 8時間   |
| テーマ  | 多文化共生・人権  |   |   |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の境目は国境ではなく個々の間にあるのではないかという問いに向き合う。</li> <li>・日常生活においても多文化共生はなされているのだということに気付く。</li> <li>・教科書の題材を国際理解教育の題材として位置付けて動機づけを試みる。</li> </ul> |   |   |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考  |
|      | 1   | 多文化共生とコスモポリタニズムのつながりを知ろう<br>多文化共生のイメージを絵にしてみる(ワーク1)。多文化共生を実践していくためにはコスモポリタニズムの考え方が必要であることを知る。 | 全体を通し、開発教育指導者研修で学んだ手法を取り入れ、周囲とのコミュニケーションを大切にしながら自分自身の思考を言語化していくことができるように構成を練った。 |
|      | 2   | コスモポリタニズムについて考えてみよう<br>もしも多文化共生が実現されなかったらどうなるのかを派生図で考え、自分ごととして捉えられるようになる(ワーク2)。               |   |
|      | 3   | 『コスモポリタニズムの可能性』(資料Ⅰ)を読もう①<br>まずは自分の力で筆者の主張を読み取る。その際、気になった箇所や心に響いた箇所に線を引き、隣同士で共有しながら内容を整理する。   |   |
|      | 4   | 『コスモポリタニズムの可能性』(資料Ⅰ)を読もう②<br>段落同士の関係性を確認しながら文章全体の展開と内容を理解する。筆者が理想的と考える多文化共生の在り方について意見交換を行う。   |   |
|      | 5   | 『身体の個性』(資料Ⅱ)を読もう①<br>まずは自分の力で筆者の主張を読み取る。その際、気になった箇所や心に響いた箇所に線を引き、隣同士で共有しながら内容を整理する。           |   |
|      | 6   | 『身体の個性』(資料Ⅱ)を読もう②<br>段落同士の関係性を確認しながら文章全体の展開と内容を理解する。資料Ⅰでの筆者の主張を裏づける「本源的自己中心性」の考え方を得る。         |   |
|      | 7   | コスモポリタニズムの大切さを伝えよう<br>資料Ⅰ・Ⅱにより深まった知識を生かし、グループごとにコスモポリタニズムの大切さを広めていくためのワークショップ案を考える(ワーク3)。     |   |
|      | 8   | ワークショップを実践してみよう<br>ワークショップ(5分目安)を実践し、全グループ終了後にギャラリー方式でフィードバックをおこなった上で「めっちゃええやん賞」を決める。         |   |
| 成果   | 教科書の題材を参考資料として位置付けることにより、教科の目的を達成しながら国際理解教育を推進し、生徒たちの視野を国際的な範囲にまで広げるような機会を設けることができたのではないかと考える。なお、定期試験の平均点は前回と大きく変わっておらず、最高点と最低点の差は縮まる結果となった。                                    |   |   |
| 課題   | 教科授業と国際理解教育のかけ算について魅力と可能性を感じた一方で、実践案を出すことの難しい教科が一定数あるようにも感じられた。かけ算型授業のイメージを膨らませていくためにも、国際理解教育に関心のある他教科教員との対話や交流の機会を大切にしていきたい。   |   |   |
| 備考   | 総合的な探究の時間や特別時間割での展開ではなく通常の教科授業と絡めて実践することにより、国際理解教育を日常に落とし込むことができるように意識した。   |   |   |

## つくろう！みんなが幸せにくらせる世界

36

|      |   |   |                                |
|------|---|---|--------------------------------|
| 所属   | 名古屋市立上社小学校  | 実践者   | 脇田 佐知子                         |
| 対象   | 小学校5年生（30名）   | 実践日   | 2025年 9月～12月                   |
| 実践教科 | 総合的な学習の時間   | 時間数   | 8時間                            |
| テーマ  | 人権（セルフエスティーム）   |   |                                |
| ねらい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフエスティームを高めることの意義に気付き、自分や友だちを様々な角度から知る。</li> <li>・自分や友だちのセルフエスティームを高めるためにできることを考え、自分や友だちを大切にしようとする。</li> </ul>   |   |                                |
| 実践内容 | 回   | プログラム   | 備考                             |
|      | 1   | <b>アイスブレイク【4つのコーナー】</b><br>（好きな季節は？・中津川で楽しみなのは？・わたしたちの行動で世の中は変えられる？）<br><b>事前アンケートの結果発表</b><br>（自分のことは好きか・自分を大切にしているか・友だちの事を大切にしているか）<br>セルフエスティームとは<br>セルフエスティームがない人ばかりの社会(クラス)だったら…【派生図】<br><b>【回し読み】</b> | ロイロノートでの事前アンケート<br><br>A3用紙 ペン |
|      | 2   | <b>アイスブレイク【4つのわたし1つはウソ】</b><br>セルフエスティームを阻むもの育てるもの【対比表】【ギャラリー方式】  | A4用紙<br>A3用紙                   |
|      | 3   | <b>アイスブレイク【テーマで自己紹介(好きな弁当のおかず)】</b><br>ジョハリの窓   | プリント                           |
|      | 4   | <b>アイスブレイク【テーマで自己紹介(私が今会ってみたい人)】</b><br>こんな友達がいい  | プリント                           |
|      | 5   | <b>アイスブレイク【テーマで自己紹介(地球最後の日に食べたいもの)】</b><br>自分の長所と短所【リフレーミング】  | 付せん                            |
|      | 6   | <b>アイスブレイク【テーマで自己紹介(最近うれしい・楽しいと思ったこと)】</b><br>になりたい私について考えよう【人生のタイムライン】【力の分析】   | プリント                           |
|      | 7   | <b>アイスブレイク【テーマで自己紹介(最近ハマっていること(もの))】</b><br>これまでの学習のふり返し<br>セルフエスティームを育てるもの【ブレーンストーミング】<br>わたし、あなたのセルフエスティームを高めるために【行動宣言】<br><b>【みんながみんなのサポーター】</b>   | 付せん A3用紙<br>プリント               |
|      | 8   | これまでの学習のふり返し<br><br>※ 全ての時間の最後にふり返しを書いた。  | プリント<br>ロイロノートでアンケート           |
| 成果   | 授業後のふり返しや日記の記述、アンケート結果などから、自分のことを肯定的に捉えたり、自分や友だちを大切にしたり、短所などのよくないところをリフレーミングしたりする意識が高まったことがうかがえた。様々な内容で自己紹介やグループワークをしてきたことで、子どもたち同士がお互いの知らなかった一面を知ることになり、以前より仲が深まった。<br><b>【アンケート結果】</b><br>自分のことが好き5→9 まあまあ好き9→13 どちらとも言えない10→4 あまり好きではない2→1 好きではない1→0<br>自分のことを大切にしている14→21 まあまあ大切にしている8→5 どちらとも言えない3→1 あまり大切にしていない2→0 大切にしていない0→0<br>クラスの他の人を大切にしている19→20 まあまあ大切にしている7→6 どちらとも言えない1→1 まり大切にしていない、大切にしていない0→0 |   |                                |
| 課題   | 多くの子どもたちの意識に変化はあったが、1つ1つの言動が大きく変化したというわけではない。今後も意識化を続けていきたい。  |   |                                |
| 備考   | 「つくろう！みんなが幸せにくらせる世界」の後半では、障害のある人やお年寄り、日本語が分からない人など様々な立場の人が幸せにくらせるための物や施設、まちなどをデザインする予定である。  |   |                                |

# VII 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

## 第4回 「開発教育・国際理解教育の可能性」記録

— 人を啓き・社会を開き・未来を拓く —

### ■ 開催概要

- ◆日時:2026年2月21日(土)10:00~17:30
- ◆場所: JICA 中部なごや地球ひろば 2階 セミナールームA、B、C
- ◆参加者:受講者34名、NIEDスタッフ6名、JICAスタッフ1名 合計41名
- ◆ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊澤令子

### ■ 第4回ねらい

- 実践の成果と課題を共有し、1年間の学びをふりかえり、開発教育の意義と可能性を確認しあう
- 開発教育を通して学んだことをフォーラムで一般に向けて発表し、“学びの好循環”を作る一歩を踏み出す

### ■ プログラムの内容

#### ■ セッションI 研修ふりかえり

##### 1. 開会

- ◇開会、開催にあたっての留意事項

##### 2. はじめに

- ◇本研修の目的と概要説明
- ◇第4回のねらいの確認

★【ファシリテーターコメント】…私たちは、教育こそが人と社会の健やかさの鍵であると考えています。しかし、かつての軍国教育がそうであったように、どんな教育でもいいわけではありません。私たちは、世界情勢が困難な今だからこそ、徹底的な非暴力と平和を構築する教育者の使命を再認識する必要があります。

「夢物語だ」と言われるかもしれませんが、私たちは平和を創る一人ひとりを育てたいと言い続けたい。教員研修に特化し、一人の先生が向き合う30数名の子どもたちにその想いが伝われば、20年後にはどんな希望が生まれるでしょうか。いつかオセロの黒が白に変わるように、この教育に触れる子どもたちが増えていく未来をみなさんと描いていきたいです。

今日は受講者としての最終回ですが、明日はバトンを渡す「ホスト」になります。この2日間を大変な長丁場と捉えるのではなく、文化祭の前夜のような高揚感を持って、ゆったりと楽しんでください。1年間の成果を言語化し、明日、ヒントと仲間を求めてやってくる120名の参加者に、みなさんの実践をしっかりと繋いでいく。それが今回の最終ミッションです。

### 3. アイスブレイキング

- ◇インシャルで自己紹介
- ◇お題カードを引いてジェスチャークイズ。グループで協力して10個のお題を早く解いたチームの勝ち。



### 4. 実践編第1回～第3回研修のふりかえり

- ◇資料を読み、第1回～第3回の内容と流れを再確認し、次のことをグループで共有
  - ①「研修を通してわたしがわかったことはこんなこと」 3つ
  - ②「研修を経て自分の中で変化したことはこんなこと」 2つ
  - ③「研修に参加したからこそ、もっと知りたくなったことはこんなこと」 1つ

## ■ セッション2 実践の共有

### 5. 実践の共有と報告

- ◇「実践報告フォーラム2026」の実践報告の流れを確認。
- ◇グループメンバーの実践（「実践報告シート集」）を読み、メンバーの実践について概要を確認したうえで、報告と質疑を行う。途中グループを替え、6人と報告を共有。



……休憩 10分……

- グループ替え（番号を振って移動）→「次の実践でやろう!とおもうテーマ」をお題に自己紹介。

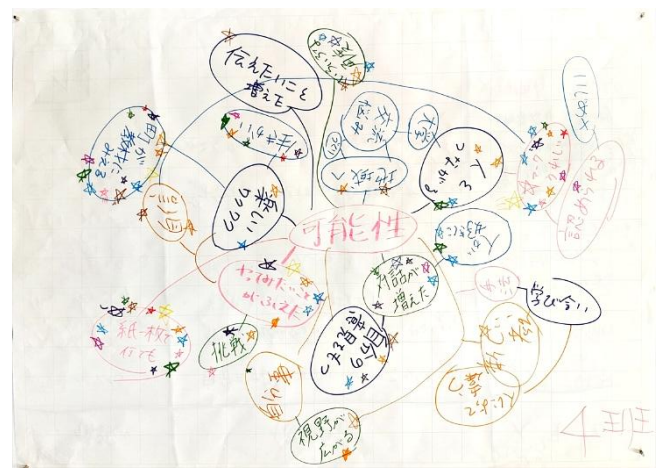
## ■ セッション3 実践報告フォーラムの準備① 研修ふりかえり

### 6. 開発教育／国際理解教育の可能性と教育者の使命

#### (1) 開発教育／国際理解教育の意義と可能性

- ◇自分（教育者）、学習者、周囲への良い影響や社会へのインパクトを派生させて考える→ 回し読み共有
- ◇開発教育／国際理解教育に取り組む意義や可能性を伝えるキャッチコピーを考える

#### 【「自分（教育者）、学習者、周囲への良い影響や社会へのインパクト」成果例】



【「この教育に取り組む意義や可能性を伝えるキャッチコピー」成果例】

- ・あなたの一歩が未来をつくる～仲間と共に伝え合おう～ ・自己実現可能な社会をあなたの手から
- ・太陽の色は赤だけじゃない～知らない世界を知って人生を豊かにしよう～
- ・ミライづくり始めました ・ワクワクのバトンタッチ ・つながる心、広がる世界2026
- ・知るからつながる ・紙一枚で世界が広がる 問いかけひとつで私が広がる
- ・視点がかわる 世界が広がる 授業のヒントはあなたのそばに
- ・参加のカタチが社会のカタチ 参加のカタチが未来のカタチ

★【ファシリテーターコメント】…SDGs の達成期限まで残り5年となった現在、世界の達成率はわずか15.5%に留まっています。特に日本においては、ジェンダー平等や環境資源の保護といった項目で、依然として強固な課題が残されています。私たちはこうした統計数字を単なるデータとして受け取るのではなく、その背後にある現実を直視しなければなりません。例えば、最新の情勢におけるパレスチナでの甚大な犠牲など、数字には表れきれない命の尊厳が今この瞬間も脅かされています。情報の真偽が入り乱れる現代において、複数のソースを照らし合わせる「3点確認法」のようなリテラシーを磨き、何がファクトで何がフェイクなのかを自分の足で確かめていく力は、子どもたちだけでなく、教育に携わる私たち自身にも不可欠なものです。

社会に山積する課題を前にしたとき、私たちはともすれば「自分一人が動いてもどうにもならない」という悲観論に陥りがちです。しかし、この教育が信じているのは、変化は必ず一人の人間から始まるという可能性です。1人の100歩を待つのではなく、100人がそれぞれの1歩を踏み出すこと。誰かが始めれば必ず道は拓けると信じ、周囲を巻き込みながら仲間を増やしていく「アドボカシー」の力を育てていくこと。私たちは、誰もが社会を共につくる「行動主体」になれると信じています。

- グループ替え（ジャンケンをして移動）→「お店屋さんをするなら？」をお題に自己紹介。

(2) 開発教育／国際理解教育の担い手としての行動宣言

- ◇SDGs に関する資料から世界の現状を確認する
- ◇持続可能なよりよい社会を創るために、必要な知識・情報／大切な価値観／育てたいスキルを対比表に書き出す  
→ ギャラリー方式で全体共有
- ◇「開発教育／国際理解教育の担い手7か条 -わたしは〇〇する!」行動宣言を考える→ グループで回し読み共有





# VIII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2026

## 開催概要

- ◆ 日時:2026年2月22日(日) 10:00~17:00
- ◆ 場所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B・C
- ◆ 参加者数:一般参加者 130名、受講者 34名、JICA4名、NIED 6名、合計 174名  
 一般参加者のうち、午前 124人、午後 91人、交流会 52人  
 (一般参加者内訳:教員 91名、学生 13名、JICA6名、NPO4名、その他 16名、  
 愛知 98名、岐阜 4名、三重 8名、静岡 13名、その他 7名)
- ◆ ファシリテーター:(特活)NIED・国際理解教育センター 伊澤令子、研修受講者

## 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2026 のねらい

- ①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

## プログラムの内容

### 1. あいさつ

- JICA 中部所長より主催者あいさつ、開発教育指導者研修(実践編)と教師海外研修の概要の説明、本日のプログラムの説明。



### 2. 教師海外研修報告

- 同行ファシリテーター挨拶の後、現地の写真や動画などを投影しながら、ネパールで得た学び・出会い・教材をどのように実践に繋げ、子どもたちに還元したのか報告。



### 3. 実践報告ポスターセッション

- 実践のねらいとプログラムをまとめた「実践報告ポスター」と実践の教材、成果、写真などを掲示して、それをもとに、フォーラム参加者へ 42分間(14分×3セッション)で、一人ひとりが説明及び質疑応答。



#### 4. 実践体験ワークショップ

- 研修で受講者がチームで作成した成果物のうち 4 つを、2 時間の一般向けプログラムとして修正し、受講者がファシリテーターやコーディネーターとなって提供
- 各ワークショップのプログラムの概要は以下のとおり。

##### 実践体験ワークショップのプログラムの概要

##### ① みんなで創る、みんなの居場所（提供受講者 5 人、参加者 28 人）

- テーマ：共生
- ねらい：日本で働きたいネパール人の気持ちを知り、日本で暮らす外国人とのギャップに気付く。  
平和な世界を創っていく一員として、お互いが心地よく過ごせる方法を考える。
- プログラム：1) アイスブレイキング「4つのコーナー」
  - 2) これは日本のもの？ネパールのもの？写真分類
  - 3) ロールプレイ「日本で働きたい彼らの思い」
  - 4) 日本で働くことの期待と出会うかもしれない  
困りごと
  - 5) 日本人と日本で働く海外の人とのすれ違い
  - 6) すれ違いの原因は何だろう
  - 7) すれ違いの原因を解決しよう
  - 8) 行動宣言「みんなで創ろう！みんなの居場所」



##### ② Change the Future ～ぼく・わたしの行動宣言 2026～（提供受講者 8 人、参加者 23 人）

- テーマ：SDGs
- ねらい：いくつかの国について肯定的に出会い、それぞれがもつ課題に気づく。  
日常生活をふりかえり、自分たちの反 SDGs 行動が地球規模の課題につながっていることに気づく。  
自分たちにできる課題解決の手立てを考える。
- プログラム：1) アイスブレイク「多分あなたはこんな人」
  - 2) SDGs カルタ
  - 3) フォトランゲージ 4 カ国に分類
  - 4) SDGs 達成状況と既出 4 カ国のマッチング
  - 5) 自分の反 SDGs 行動の確認
  - 6) 反 SDGs 行動が続いたらどうなる？
  - 7) SD ガード！やめたい行動はなに？
  - 8) 行動宣言「自分にできる課題解決の手立て」



##### ③ フェアトレード商品をバズらせよう（提供受講者 6 人、参加者 21 人）

- テーマ：人権・環境
- ねらい：フェアトレードについて知る。フェアトレードと自分とのかかわりについて考える。
- プログラム：1) アイスブレイキング「私の好きなおやつ」
  - 2) フェアトレード基礎知識クイズ
  - 3) フェアトレードの取り組みについて調べてみよう
  - 4) フェアトレードが広がった明るい未来の姿
  - 5) フェアトレードをバズらせるハッシュタグを考えよう
  - 6) 自分とフェアトレードの関わり方について考えよう



④ 足助いいだら〜守りん、うちらのもみじ (提供受講者 6 人、参加者 19 人)

- テーマ: 環境保全
- ねらい: 足助の現状を知る。人間の生活と自然の関係について考える。  
足助の環境を維持していくために、自分ができることを見つける。
- プログラム: 1) アイスブレイキング  
「疲れた時、癒されたい時に行きたい場所」  
2) 足助クイズ  
3) 足助の抱える問題と原因  
4) 原因を放置するとどうなる?  
5) 原因に対して「みんな」「わたし」ができること  
6) 自分には何ができる? 行動宣言



**5. ふりかえり・閉会**

- ふりかえりシートとして、①発見したこと、または嬉しかったこと、②これから「つなげていきたい・行動したい」と思ったこと、その他ご自由に (より良くするための提案など) を記入し、グループで共有。全体でも数人が感想を発表。
- 受講者代表が閉会のあいさつ



**6. 交流会**

- フォーラム終了後、希望者が残り、1 時間ほどの交流会を実施。過年度受講者の有志グループによる進行で、一般参加者との交流を促進するプログラムを提供。



以上

## ● ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。

## 「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 報告者の先生方、参加者のみなさんの熱量がすごかった。
- いろいろな参加型手法を体験できた。
- 自分の知っている物事の新しい／違った面を知ることができて面白かった。
- 高校国語科の実践報告。
- みんなで国際協力について考え、他者を認めあう姿勢。
- 高校生として参加し、教員の視点や知見を知れて二歩三歩成長できたこと。
- 今の日本の学校教育をリアルな声で知れた。
- はじめて会う人とも同じ課題を考え、話すことができた。
- 誰でも Welcome な場！
- 様々な授業実践の発表を聞くことができたこと。
- 発表者が活用していた AI の種類や使い方。
- 国際理解教育や外国ルーツの生徒への接し方など共有できる人が多かった。
- 具体的なアイスブレイクの方法。
- 幸せのかたちは一人ひとり違っていること。
- 自分にもできることがたくさんあること。
- 学校教育も変化してきていることが実感できた。
- 初参加だったが、気さくに話しかけてもらえたこと。
- 同じ学年の先生の頑張っている姿を見ることができた。
- お世話になっている先生の想いを知ることができた！
- JICA 中部の取り組みを理解することができた。
- 国際理解教育にはまず世界を肯定的に捉える必要があるとわかった。
- 先輩教員とのつながりが持てた。
- 新たに学びたいと思うことに出会えたこと。
- 当たり前と思っていたことを別の視点から見ることの大切さ。
- まねしてみたいと思える実践に出会えたこと。
- たくさんの方が日本の教育のために活動していること。
- 様々な立場の方の考えを知ることができ、学べた。
- こんなにも国際理解教育に興味がある人が多いんだ。
- 生成 AI をうまく活用されているのが印象的だった。
- 担当教科で実践する難しさを感じていたが、具体的な実践が知れてよかった。
- 若い先生方が頑張っていて日本の未来が明るくなった。
- 国際交流の大切さ、ネパールの良さを知れた。
- 仲間がたくさんいること。

## 「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 「参加したくなる」が「もっと参加したくなる」になった。
- 同じテーマでも見え方、感じ方がちがうということ。

- いつ来ても新しい発見があること。
- 参加型は生徒も先生も元気になる。
- 仲間と再会できたこと。
- 外国人労働者の視点を学べた。
- 発表者の個性が実践に表れていて聞いていて面白かった。
- 参加者と交流でき、新しい出会いができた。
- 出会い、人とのつながりが人生を変える！
- デジタルをうまく取り入れた実践やワークショップに驚き！
- 誘った人が「楽しい」と興奮していたこと。
- 各教科の中で実践している報告を聞き、自分もさらにやっていきたいと思った。
- 授業で大切にしたいことに気づけたこと。
- すぐにやってみたい実践に出会えたこと。
- 養護教諭に無限の可能性を感じた。
- セルフエスティームの実践内容をたくさん知れた。
- ワークショップで肯定してもらえるうれしさに気づいた。
- 言語での対話が困難な子どもたちとも、自尊感情を育む学びの場づくりのヒントをたくさんもらえた！
- 英語の授業での実践が興味深かった。
- 小中学校の実践は基本がしっかり、丁寧でわかりやすかった。やっぱり基本が大事だと思った。
- はじめましての人、顔なじみの人両方と出会えたこと。
- 貧困に関心があるという高校生が参加していたこと。
- より具体的に自分のバックグラウンドを活かしてできそうなことを見つけた！
- 多くの先生たちがチャレンジしてあきらめない姿に励まされました。

## 「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 教育、国際理解教育に関心のある多くの人と出会い、交流できたこと。
- 昨年と今年の自分の比較ができたこと。
- たくさんの方が参加し、実践を聞いてもらえたこと。
- 開発教育・国際理解教育を広める一員になれたこと！
- いつもは授業は一人ですが、今回仲間とワークショップ作りをすることで、勉強になったし楽しかった。
- 自分の実践に興味をもってくれる人がたくさんいたこと。
- 以前受講したオンライン研修のときよりも、人との交流ができ、多くの人とつながれたこと。
- 実践を発表する過程で、適切に評価し、ふりかえることができた。
- 仲間や友人が発表を聞きに来てくれたこと。
- 国際理解教育に取り組む新たな仲間ができたこと。
- 他の人の実践報告から、様々な視点から授業のできることを発見した。
- 午後のワークショップで、参加者の反応がよく、夢中で参加してくれた様子がうれしかった。

- 開発教育に興味のある人がたくさんいること。みなさん熱い思いをもってのこと。
- 人が嬉しいと思うことに取り組む良さを発見した。
- 実践をみて「面白かったです！」と言われたこと。
- 特別支援教育に関心をもってくれる人がいたこと。
- ワークショップの提供者だったが、参加者から多くの学びと視点をもらえた。
- 不安や無関心は「無知」から起こることで、「知る」ことが何より大切であること。
- 想いを伝えられる場って貴重。全員に感謝。
- 知りたいと思っている人が意外と多い！仲間が増える伸びしろ♡
- 他教科の視点も知ることができ、発見があった。

#### 「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 今日のつながりを生かして、仲間・ネットワークづくりをしたい！
- **try and error**検証してさらなる良い取り組みに。
- 外国人労働者が増えてきているので、困っている人を見かけたら声掛けをしたい。
- 世界の現状についてもっとたくさん知りたい。
- 競争社会の中で、少しでも異なる価値観をもった人を認めることを忘れない。
- 柔軟なアイデアや斬新な視点を参考に、もっと自由にたくさん積極的に動こうと思った。
- 今日の経験を友人や職場の人と共有する。
- 実践発表で聞いた内容を、学校に持ち帰ってぜひ実践したい！
- 自分の学校だけでなく、横のつながりや協力できることをしていきたい。
- 今日の学びをもっと深めて、未来をつくる子どもたちに伝えていきたい。
- 自分で考える力、相手の言葉を聞く力も忘れないような環境をつくっていきたい。
- 知らないことばかりだった。自分に蓄積し、子どもに還元したい。同僚にも話したいと思う。
- 今日のワークショップで行動宣言したことを意識して過ごしていきたい。
- 教科学習で、単元のはじめに面白そう楽しそうとプラスのイメージをもてるような導入を行いたい。
- ワークショップで学んだフェアトレード商品を購入。
- 自分事として捉えることを忘れず生活していきたい。
- できることを面倒がらず、少しずつ心がけていきたい。
- まずは学んだことを何か授業の中で使ってみたい。
- 積極的に海外へ出向き、経験を伝えたい。
- 教師になる大学生に教えているので、教師としての表現力の1つとして伝えたい。
- 違いを認めあって共生できる人を学校や家庭で育てたい。

- 自分も気軽にやってみたい！
- **SDGs** や国際理解について楽しく学べる活動をしたい。

#### 「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- もっといろいろな国について知る！
- **AI** の効果的な使い方を学んでいきたい。
- 明るく元気に楽しく生きる。
- 探求プログラムのアップデート。
- 過年度受講者とつながっていききたい！
- その気にさせるワークショップの仕掛けづくり。
- 今日知り、体験したことを授業や職場でつなげる。
- このフォーラムへの参加者を増やす。
- 今の立場を活かした国際理解教育の広げ方を模索したい。
- 実践を続けていくために、ブラッシュアップしていく。
- 計画的に参加型国際理解教育に取り組む。
- 自分から関わっていくこと、人とつながりながら課題を解決していくこと。
- 仲間と知り合うだけでなく、次は何かを一緒に作りたい。
- 目の前の子どもたちと一緒に考えること。
- 小さな行動を積み上げていくこと。
- 子どもたちの幸せを願う教育の実践者がつながる場をつくっていききたい。
- 同僚の先生を巻き込んで、わくわくすること。
- 少しの時間でも参加型を取り入れた授業をする。
- フォーラムへの高校教員の参加者を増やしていきたい。
- 今の自分の活動に自信をもって、どんなカタチでも続けていきたい。
- 繋がった人との定期的な交流。
- 自分の周りの人に参加型学習の楽しさを伝えて、広めていきたい！

#### 「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- セルフエスティームについて特に深め、実践していく。
- 参加型の手法を広げる。
- 学校での実践を継続、発展させていきたい。
- 子どもとのかかわりの中で、多文化共生の視点をもてる実践をしたい。
- 今年だけの実践で終わらず、学校や学年で共有するなど還元していきたい。
- 総合の明確なカリキュラム化。
- 自分の生活でも職場でも少しずつ実践をしていきたい。
- 自分の行動、発信で周囲へ伝播させる。そのために挑戦と学びを続けたい。
- 人権をもっと身近に思ったり、考えたりする工夫。
- 参考になったことを、来年度やる！
- 教科と国際理解をつなげ、子どもたちの日常に落とし込んでいきたい。

# IX 研修全体のふりかえり・評価

※修了した受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。36人全員が回答。

## ■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修(実践編)(以下、「指導者研修」という)に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」(83%)、「自らの視野や能力を研鑽する」(78%)、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」(72%)、が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」(86%)、「満足できた」(8%)と回答しており、全体として満足度の高い研修であったといえる【設問2】。

設問1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。(複数回答)

| No. | 選択肢                     | 回答者数 | 割合   |
|-----|-------------------------|------|------|
| 1   | 開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る | 30   | 83%  |
| 2   | 自らの視野や能力を研鑽する           | 28   | 78%  |
| 3   | 参加型学習・ファシリテーターの能力を高める   | 26   | 72%  |
| 4   | 世界の現状や日本とのつながりを知る       | 21   | 58%  |
| 5   | 実践者同士で交流し、ネットワークを作る     | 19   | 53%  |
| 6   | その他(人権教育に関わる取組の展開)      | 1    | 3%   |
|     | 全体                      | 36   | 100% |

設問2；指導者研修は、あなたの期待(あるいは目標達成の支援)を満足させるものでしたか。

| No. | 選択肢       | 回答者数 | 割合   |
|-----|-----------|------|------|
| 1   | とても満足できた  | 31   | 86%  |
| 2   | 満足できた     | 3    | 8%   |
| 3   | ある程度満足できた | 1    | 3%   |
| 4   | 満足できなかった  | 1    | 3%   |
|     | 全体        | 36   | 100% |

## ■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

### ● 受講者の関心の高まり

「受講前から関心があったが、より関心が高まった」(78%)、「受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった」(22%)と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

| No. | 選択肢                        | 回答者数 | 割合   |
|-----|----------------------------|------|------|
| 1   | 受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった  | 28   | 78%  |
| 2   | 受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった | 8    | 22%  |
| 3   | 受講前から関心があり、受講後も変わらない       | 0    | 0%   |
| 4   | 受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わらない  | 0    | 0%   |
|     | 全体                         | 36   | 100% |

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての意識化」をしたり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よく意識するようになった」と「意識するようになった」を合わせて97%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて94%となっており、本研修は全体として受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問4,5】。

設問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりを意識するようになりましたか。

| No. | 選択肢              | 回答者数 | 割合   |
|-----|------------------|------|------|
| 1   | よく意識するようになった     | 29   | 80%  |
| 2   | 意識するようになった       | 6    | 17%  |
| 3   | ある程度意識するようになった   | 0    | 0%   |
| 4   | あまり意識するようにならなかった | 1    | 3%   |
|     | 全体               | 36   | 100% |

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

| No. | 選択肢             | 回答者数 | 割合   |
|-----|-----------------|------|------|
| 1   | よく考えるようになった     | 27   | 75%  |
| 2   | 考えるようになった       | 7    | 19%  |
| 3   | ある程度は考えるようになった  | 1    | 3%   |
| 4   | あまり考えるようにならなかった | 1    | 3%   |
|     | 全体              | 36   | 100% |

## ■ 開発教育・国際理解教育の実践について

### ● 実践時間

受講者の当該教育の実践時間は、「6～10時間」が49%と最も多く、次いで、「11時間以上」が31%、「3～5時間」が14%となっている。平均では10.6時間と昨年度の5.9時間よりも多くの時間取り組んだ年度といえる【設問6】。

本研修受講前との機会や時間の増減では、「増加した」が94%であり、受講者の多くが受講前よりも多い実践を行っている【設問7】。増加した主な理由としては、本研修の学びや契機が要因になっていることがわかる【設問8】。

設問6；開発教育・国際理解教育の実践時間

| No. | 選択肢         | 回答者数 | 割合   |
|-----|-------------|------|------|
| 1   | 1～2時間       | 2    | 6%   |
| 2   | 3～5時間       | 5    | 14%  |
| 3   | 6～10時間      | 18   | 49%  |
| 4   | 11時間以上      | 11   | 31%  |
|     | 合計実践時間数     | 381  | 時間   |
|     | 1人当たり平均実践時間 | 10.6 | 時間/人 |

設問7；本研修受講前と比べた実践時間の変化

| No. | 選択肢   | 回答者数 | 割合   |
|-----|-------|------|------|
| 1   | 増えた   | 34   | 94%  |
| 2   | 変わらない | 2    | 6%   |
| 3   | 減った   | 0    | 0%   |
|     | 全体    | 36   | 100% |

←各受講者の実践報告シートに基づく。

設問8；実践時間の増えた理由は何ですか。（多い理由順に主な意見概要を記載）

1. 手法・具体的方法の習得(13件)…「手法を教えていただき、実践したくなった」「対話活動など具体的な方法が分かったから」「具体的な方法を体験しながら得ることができた」
2. 意欲・モチベーションの向上(11件)…「研修を受けて実践したいという気持ちになった」「魅力的な体験をし、子どもにも体験してほしいと思った」「興味をもったのでやってみたくなった」
3. 参加型・アクティブラーニングの効果実感(6件)…「参加型の手法で学びが深まると分かり、もっと実践したくなった」「短い時間でも参加型手法を取り入れようという意識が高まった」「アクティブラーニングの手法を試してみたいと思った」
4. 研修による理解・知識の深化(5件)…「知識が増え、方法を知ったから」「自分の理解が深まったから」「開発教育の重要性をさらに感じたから」
5. 仲間・ネットワークの影響(4件)…「仲間に刺激された」「熱意をもった仲間に出会ったこと」「相談ができる環境がありがたかった」

6. 実践機会・外的要因の増加(4件)…「ワークショップ開催依頼が増えたため」「フォーラムでの発表に向けて実践に取り組んだ」「学年で実践をやらせてもらえたから」
7. 子どもへの願い・教育的価値の実感(4件)…「子どもたちの可能性を広げるきっかけになると感じた」「生徒に関心を持ってもらいたいと願うようになった」「社会問題を自分事として捉える姿が見られた」
8. 内容の汎用性・つながりの理解(3件)…「様々なことが国際理解教育につながると知った」「様々な場面や単元で関連させられると分かった」「つながりを意識した実践に変化した」

### ● 実践内容

開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」66%、「深まった」28%と大半の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問9】。

授業実践の深まりには「参加型手法の理解 → 子どもの変容の実感 → 授業観の転換」という流れで、“やり方”から“子ども理解”を経て“授業観そのものの変化”へと深化していることが読み取れる。【設問10】。

設問9；開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まりましたか。

| No. | 選択肢                | 回答者数 | 割合   |
|-----|--------------------|------|------|
| 1   | とても深まった            | 24   | 66%  |
| 2   | 深まった               | 10   | 28%  |
| 3   | ある程度深まった           | 2    | 6%   |
| 4   | あまり深まらなかった+深まらなかった | 0    | 0%   |
|     | 全体                 | 36   | 100% |

設問10；どのようなことが深まりましたか。(多い順に主な意見概要を記載)

1. 参加型学習・対話・手法の深化(12件)…「対話の大切さを実感し、グループワークを授業で多く使うようになった」「子どもの思考の流れを意識し、技法を使って実践できるようになった」「派生図やKJ法など、考えを可視化し共有することの大切さを実感した」
2. 子どもの変容・主体性・自分ごと化の理解(9件)…「子どもが社会問題を自分ごととして考えられる方法が分かってきた」「「かわいそう」ではなく構造や自分とのつながりで捉えるようになった」「外国の問題も自分たちの行動で変えられると前向きに捉えるようになった」
3. 授業づくり・指導観の深化(7件)…「授業計画の流れや構成を意識するようになった」「ねらいを明確にし、それに合った手法でプログラムを組めるようになった」「子どもに考えさせて深める展開へと変化した」
4. 国際課題・世界理解の深化(6件)…「国際協力の重要性や世界の課題について理解が深まった」「気候変動やパレスチナ問題など具体的なテーマの理解」「世界の出来事を自分の生活と関連させて考えられるようになった」
5. 多文化共生・人権・価値観の深化(5件)…「多文化共生の重要性について詳しく知ることができた」「身近な人権について実践しようと思えるようになった」
6. 学びのプロセス・学習観の変化(4件)…「すぐに答えを出すのではなく、自分ごとにする過程を大切にするようになった」「個人で考える時間や学び合いの土台づくりを意識するようになった」
7. 体験・現地経験の活用(4件)…「ネパールでの体験談を伝えられたことが深まりにつながった」「「自分が見てきたこと」をもとに授業ができるようになった」

### ● 参加型のスキル

行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割の1つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」22%、「作れるようになった」50%、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問11】。

2つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」42%、「使えるようになった」

50%、であり、プログラムの作成とともに多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

| No. | 選択肢                                | 回答者数 | 割合   |
|-----|------------------------------------|------|------|
| 1   | とても作れるようになった                       | 8    | 22%  |
| 2   | 作れるようになった                          | 18   | 50%  |
| 3   | ある程度作れるようになった                      | 10   | 28%  |
| 4   | あまり作れるようにはならなかった<br>+ 作れるようにならなかった | 0    | 0%   |
|     | 全体                                 | 36   | 100% |

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

| No. | 選択肢                                | 回答者数 | 割合   |
|-----|------------------------------------|------|------|
| 1   | とても使えるようになった                       | 15   | 42%  |
| 2   | 使えるようになった                          | 18   | 50%  |
| 3   | ある程度使えるようになった                      | 3    | 8%   |
| 4   | あまり使えるようにはならなかった<br>+ 使えるようにならなかった | 0    | 0%   |
|     | 全体                                 | 36   | 100% |

プログラム作成や参加型手法の活用については、「ある程度」作れる、使えるようになったという回答が一定数あることから、より作れるようになる、より使えるようになるために、研修で提供したらよい内容を聞いた結果が以下のとおりである【設問 13】。

設問 13；より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思いますか。

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| ◇自分たちで体験することが確実                               | ◇ミニマムな実践形式体験              |
| ◇実践者の実践を沢山体験する                                | ◇対話活動の具体的な手法を学びながら実際に体験する |
| ◇自分たちが体験することで使いたい→たくさん手法を体験する                 |                           |
| ◇体験し、気づきが広がっていったり、ともに学ぶ仲間から新しい視点をもらったりする経験    |                           |
| ◇作ったプログラムについてアドバイスし合う時間を設ける                   |                           |
| ◇受講者同士で行った模擬実践がとても良かった→「やってみる」機会を多く設ける        |                           |
| ◇自分たちでプログラムを作る機会を増やす(中盤からはメンバーを固定すると意見が言いやすい) |                           |
| ◇参加者の興味を引く導入の作り方を知りたい                         | ◇実際の児童生徒を想定した研修           |
| ◇対象の年齢や理解度に合わせて、内容をどう構成していくとよいかを知りたい          |                           |
| ◇グループのワークで意見が停滞したときの支援の仕方を知りたい                |                           |

## ■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

### ● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」56%、「変化があった」36%と多くの受講者が学習者のより良い変化を実感することができている【設問 14】。

設問 14；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

| No. | 選択肢                | 回答者数 | 割合   |
|-----|--------------------|------|------|
| 1   | とても変化があった          | 20   | 56%  |
| 2   | 変化があった             | 13   | 36%  |
| 3   | ある程度は変化があった        | 3    | 8%   |
| 4   | あまり変化はなかった+変化はなかった | 0    | 0%   |
|     | 全体                 | 36   | 100% |

より良い変化の内容としては、「自分とは異なる他者への共感や思いやりが育った」(64%)、「開発途上国や国際協力への関心が高まった」(64%)、「自分と他者・地域・世界とのつながりを意識するようになった」(56%)、「学ぶことを楽しみ、主体的・継続的に学ぶ意欲が高まった」(50%)が、いずれも半数を超える結果となった。

これらの結果から、開発教育・国際理解教育がめざす「他者理解」や「関心・意欲の喚起」、「つながりの認識」といった基盤的な力が、着実に育まれていることがうかがえる。また、参加型学習の導入により、学習内容の理解にとどまらず、「学ぶことそのもの」への前向きな姿勢が育っている点も特徴的である。

さらに、人権や環境への意識、生き方や共生について考える姿勢、コミュニケーションの向上といった変化も見られ、知識だけでなく、気づきや態度、スキルを含めた幅広い学びが促されていると考えられる。

一方で、「自分にできる国際協力への取組に関心を持つようになった」は33%にとどまり、他の項目と比べるとやや低い結果となっている。このことから、関心や理解の高まりを、具体的な行動につなげていくことには、まだ課題があるといえる【設問 15】。

設問 15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

| No. | 選択肢                                   | 回答者数 | 割合   |
|-----|---------------------------------------|------|------|
| 1   | 自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った      | 23   | 64%  |
| 2   | 開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった       | 23   | 64%  |
| 3   | 自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった           | 20   | 56%  |
| 4   | 学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った | 18   | 50%  |
| 5   | 自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にすることを意識が高まった   | 15   | 42%  |
| 6   | 自らの生き方や共生について考えるようになった                | 14   | 39%  |
| 7   | 話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった     | 13   | 36%  |
| 8   | 自分に出来る国際協力への取組に関心を持つようになった            | 12   | 33%  |
| 9   | その他(初めて人に話すことやコミュニケーションを取る)           | 1    | 3%   |
|     | 全体                                    | 36   | 100% |

### ● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は97%であり、その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が72%と一番多く、次いで「研究発表(授業公開など)で伝えた」と「校内・団体内で研究会・研修会で伝えた」が39%、「同僚をフォーラムに誘ったなど」36%などとなっている【設問 16】。

設問 16；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。(複数回答)

| No. | 選択肢                     | 回答者数 | 割合   |
|-----|-------------------------|------|------|
| 1   | 日常のやりとりの中で伝えた           | 26   | 72%  |
| 2   | 研究発表(授業公開など)で伝えた        | 14   | 39%  |
| 3   | 校内・団体内で研究会・研修会で伝えた      | 14   | 39%  |
| 4   | 同僚をフォーラムに誘ったなど          | 13   | 36%  |
| 5   | 共同で教材を作成する際に伝えた         | 8    | 22%  |
| 6   | その他(授業の様子をチャットに残して共有した) | 1    | 3%   |
| 7   | どこにも伝えていない              | 1    | 3%   |
|     | 全体                      | 36   | 100% |

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「以前から十分に理解してくれている」25%であるが、「以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ」28%、「以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ」31%と、今回の研修を契機に理解が進んだケースもあり、所属する学校での理解は合計で84%となっている【設問 17】。

設問 17；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

| No. | 選択肢                              | 回答者数 | 割合   |
|-----|----------------------------------|------|------|
| 1   | 以前から十分に理解してくれている                 | 9    | 25%  |
| 2   | 以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ     | 10   | 28%  |
| 3   | 以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ | 11   | 31%  |
| 4   | 以前からある程度は理解しているが、現状維持であった        | 3    | 8%   |
| 5   | 以前からあまり理解してくれていないし、今回もそれは変わらなかった | 2    | 6%   |
| 6   | 無回答                              | 1    | 2%   |
|     | 全体                               | 36   | 100% |

### ● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一環として実施されている「JICA が学習者に直接提供する国際協力出前講座や地球ひろば訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、開発教育を担う中核的な指導者を養成し、研修で得た知識や能力を各自の教育現場において継続的に還元していくことを目的としている。

研修受講者の実践実績に基づき、直接提供事業と比較した本研修の還元効果を試算したところ、年間で約 14.2 倍となった。これは、研修受講者が各現場において複数の学習者に対して継続的に実践を行うことにより、学びが波及的に広がっていることを示している。

さらに、受講者は自身の実践や研修で得た知見を他の教員等へ共有・伝達しており、こうした二次的・三次的な広がりも含めると、本研修の還元効果は今後さらに高まっていくことが期待される。また、受講後の継続的な実践により、単年度にとどまらない中長期的な効果も見込まれる。

以上より、本研修は直接提供事業と比較して、限られた投入資源に対し、より大きく持続的な教育効果を生み出す仕組みとして有効に機能しているといえる。

◇研修受講者による延べ還元量=16,841 人・時間/年(受講者 36 人分の対象学習者数×実践時間)  
 ◇研修投入量=研修受講者数 36 人×研修時間数 33 時間(第1回~第4回)=1,188 人・時間/年  
 ◇還元効果(倍)=16,841 人・時間/年÷1,188 人・時間/年=**14.2 倍**

### ● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、97%の受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」83%、「学校や団体内」36%、「学校・団体外」36%となっている【設問 18】。

設問 18；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

| No. | 選択肢         | 回答者数 | 割合   |
|-----|-------------|------|------|
| 1   | 受講者同士でできた   | 30   | 83%  |
| 2   | 学校や団体内でできた  | 13   | 36%  |
| 3   | 学校・団体の外にできた | 13   | 36%  |
| 4   | できなかった      | 1    | 3%   |
|     | 全体          | 36   | 100% |

## ■ 全体を通した評価、より良くするための提案

### ● 研修を通して、わたしが「学んだこと」「気づいたこと」「行動しようと思ったこと」など(研修の成果)

多い順に主な意見概要を示した。特徴は、「手法の習得」×「仲間とのつながり」×「価値観の変容」が同時に起きている点にある。特に、実践スキル(①)、関係性・ネットワーク(②)、教育観・価値観(③④)が重層的に変化しており、「できるようになった」だけでなく、「在り方そのものが変わっている」という、深いレベルでの学びの成果が表れているといえる。

#### ① 参加型手法・授業実践の学び(16件)

「日々の授業の中で参加型手法を取り入れるようになった」「手法を使うことで子どもが主体的に動き、学びが楽しくなると分かった」「話し合いやファシリテーションなど具体的な手法を学んだ」

#### ② 仲間・つながり・協働の価値(13件)

「仲間と技術や意識を高め合うことの大切さに気づいた」「仲間との学び合いが視野や意欲を大きく広げた」「同僚性やチームで取り組むことのありがたさを感じた」

#### ③ 学習観・教育観の変化(11件)

「学ぶことの大切さや楽しさを改めて実感した」「教師自身が楽しんで実践することの大切さに気づいた」「参加型の学びは理解だけでなく学ぶ意欲も高めると感じた」

#### ④ 他者理解・共生・価値観の深化(10件)

「他者の立場に立つ視点や「かもしれない」という想像の大切さ」「相手を理解するところから共生が始まると感じた」「誰一人取り残さない視点の重要性を再確認した」

#### ⑤ 行動意欲・実践への決意(10件)

「学んだことを現場で実践し続けていきたい」「小さなことからでも行動していこうと思った」「フェアトレード商品を買うなど具体的な行動につなげたい」

#### ⑥ 国際理解・世界課題への認識(9件)

「世界の課題の深刻さや背景について理解が深まった」「パレスチナ問題など具体的なテーマについて学べた」「世界の出来事を自分ごととして捉えることの大切さに気づいた」

#### ⑦ 子ども理解・学習者視点の深化(6件)

「子どもが主体的に学ぶための手立てを考えられるようになった」「安心して発言できる雰囲気づくりの大切さを実感した」「特別支援の子どもにも参加型手法が有効だと分かった」

#### ⑧ 自己成長・内省(5件)

「自分はまだまだできることがあると気づかされた」「苦手なことにも挑戦して関わろうと思った」

#### ⑨ 体験・実感を通した学び(5件)

「ロールプレイや体験活動で自分ごととして考えられた」「実際に体験することで学びの深まりを実感した」

#### ⑩ 学びの広がり・探究心(4件)

「もっと学びたい、発信したいという意欲が高まった」「世界史や海外の教育への関心が広がった」

## ● 開発教育指導者研修(実践編) 第1回～第3回について

多い順に主な意見概要を示した。「参加型手法」+「関係づくり」+「リアルな国際課題」の3つが特に高く評価されている点にある。一方で課題は、「時間設計」「関わり方の均等性」「実践支援(資料・フォロー)」に集約されている。

### (良かったところ=引き続き提供を希望する内容)

- ① 参加型手法・アクティビティの体験(10件)  
「たくさんの参加型手法を体験できてよかった」「さまざまなアクティビティを実際に体験しながら学べた」「アイスブレイクの方法がすぐ活用できてよかった」
- ② グループ替え・交流・関係づくり(9件)  
「グループ変えや席替えて多くの人と関わってよかった」「頻繁なメンバーチェンジで交流が深まった」「いろいろな参加者との交流が刺激になった」
- ③ 国際課題(特にパレスチナ)の学び(9件)  
「パレスチナ問題を扱ってもらえたことがよかった」「歴史的背景も含めて深く学べたのが面白かった」「知らなかった課題を知ることができ、大きな学びになった」
- ④ 研修内容の質・構成・学びやすさ(6件)  
「内容が豊富でテンポもよく、効率よく学べた」「長時間でも集中して学べる構成がよかった」「丁寧な進行や声かけで安心して参加できた」
- ⑤ 幅広いテーマ・多様な内容(5件)  
「環境・人権・平和など幅広く学べた」「社会情勢に合わせた題材がよかった」
- ⑥ 実践につながる学び(4件)  
「ワークショップを作って実践できたのがよかった」「すぐ学校で使える手法が学べた」
- ⑦ ファシリテーション・場づくり(3件)  
「ファシリテーターの言葉がけが温かく安心できた」「関係づくりを大切にしたら場づくりがよかった」
- ⑧ 資料・情報提供(2件)  
「資料をたくさんもらえてよかった」「実践に活かせる情報が多かった」

### (より良くするための提案や希望)

- ① 研修日程・時間設定(2件)  
「2日連続は負担が大きいので分散してほしい」「日程の組み方を少し柔軟にしてほしい」
- ② 参加の偏り・関わり方の改善(2件)  
「あまり関わらない人が出てしまうことがあった」「交流の偏りを減らす工夫があるとよい」
- ③ テーマの広がり・深化(2件)  
「他の国際課題についても学びたい」「自治や地域課題など学校で使いやすい内容も扱ってほしい」
- ④ 手法の扱い方の工夫(2件)  
「もっと参加型手法でテーマを扱う時間があるとよい」「体験と整理(メモ等)のバランスも工夫できるとよい」
- ⑤ 資料共有・フォローアップ(2件)  
「ワークシートやスライドデータを共有してほしい」「実践に活かせる資料をさらに共有してほしい」

## ● 開発教育指導者研修(実践編) 第4回研修について

多い順に主な意見概要を示した。特徴は、「発表練習の安心感」+「他者からの学び」+「一体感の高まり」が非常に高く評価されている点にある。一方で課題は、「発表を十分に聞き合えない構造」にほぼ集約されている。

### (良かった=引き続き提供を希望する内容)

- ① 発表練習・リハーサル機会(8件)
 

「グループで発表練習ができ、本番に向けたイメージがふくらんだ」「発表前に練習する時間があり、見通しを持つことができた」「リハーサルの発表できたことで安心して本番に臨めた」
- ② 他者の実践・発表からの学び(6件)
 

「たくさんの方の実践発表を聞くことができ学びが深まった」「他の受講者の発表を聞いて参考になった」「発表練習の中でも他者の内容を聞いた点があった」
- ③ 交流・協働・一体感(4件)
 

「前日に参加者同士の交流ができてよかった」「みんなで準備することで気持ちが高まった」
- ④ モチベーション・雰囲気づくり(2件)
 

「フォーラムに向けてモチベーションが高まった」「文化祭前夜のようなワクワク感」の声かけが印象的だった」

### (より良くするための提案や希望)

- ① 発表の聞き合い・時間割の工夫(5件)
 

「奇数偶数の分け方で聞きたい人の発表が聞けなかった」「同じグループ(奇数同士など)で複数回聞ける形がよい」「発表をより多く(例:3回)聞ける機会があるとよい」
- ② グルーピングの工夫(2件)
 

「校種が近いグループでもよかったのではないか」「グループ分けの工夫でもっと学びやすくなる」
- ③ 開催時期・スケジュール(1件)
 

「第4回をもう少し早い時期(12月など)にすると準備しやすい」

## ● 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムについて

多い順に主な意見概要を示した。特徴は、「交流・つながり」+「実践経験」がしっかり価値として認識されている一方で、課題は「他者の実践を十分に見られないこと」「実践報告における聴衆の偏りの解消」に集約される。

### (良かった=引き続き提供を希望する内容)

- ① 交流・つながり・関係構築(5件)
 

「参加者同士が知り合えるのがよい」「フォーラムを通して絆が深まった」「交流できたことが有意義で学びに」
- ② 実践発表・ワークショップの機会(4件)
 

「ワークショップを担当できたことが大きな学びになった」「フォーラムでの発表練習がありがたかった」
- ③ 他者の実践・資料からの学び(3件)
 

「他の受講者の実践を聞いて学びが深まった」「授業で使える資料をもらえてよかった」
- ④ 柔軟な運営・対応(1件)
 

「発表場所の配置など柔軟に対応してもらえてありがたかった」

**(より良くするための提案や希望)**

- ① 他者の実践を聞く機会の拡充(9件)
 

「もっと様々な実践を聞きたかった」「他の人の発表をもっと聞きたい」「ダイジェストやローテーションで多くの実践を知れるとよい」
- ② 発表形式・時間の改善(3件)
 

「14分は長く感じるので短縮してもよい」「簡潔な発表形式もあってよい」
- ③ 記録・共有・フィードバックの仕組み(3件)
 

「動画で後から見られるようにしてほしい」「発表を録画してフィードバックできる仕組みがあるとよい」
- ④ 聴衆の偏り(2件)
 

「聞き手の人数にばらつきがあった」「誰も来ない発表があり気の毒に感じた」
- ⑤ グループ・構成の工夫(2件)
 

「校種で分けず混合でも面白いのでは」「名札に所属を書くと交流が広がる」
- ⑥ 交流企画の明確化(1件)
 

「ブースごとのテーマが分かりにくかったので明確にしてほしい」

**● 2回以上受講する効果として思うこと**

多い順に主な意見概要を示した。特徴は、「深化(①)」×「つながり(②)」×「継続(③)」の3点が強く現れている点にある。特に、1回目:手法の理解・実践、2回目以降:振り返り・応用・支援という「段階的成長モデル」が明確に表れている。

- ① 学びの深化・再確認・ブラッシュアップ(14件)
 

「学び直すことでさらに深めることができる／再確認できる」「学んだことの整理やブラッシュアップができる」「1回目の学びを踏まえて、より深い実践につなげられる」
- ② 仲間・ネットワークの拡大(9件)
 

「新しい仲間が増える／新たな人脈ができる」「新しい受講者との関わりや交流が広がる」「過年度受講者と新規受講者をつなぐことができる」
- ③ モチベーションの維持・向上(6件)
 

「開発教育に取り組むモチベーションが継続できる」「一人では続かないが、研修で実践への姿勢が高まる」「学び続けることの大切さを実感できる」
- ④ 実践力・応用力の向上(6件)
 

「より深まった内容を実践できるようになる」「手法を自分のものとして使えるようになる」「様々なテーマで実践できるようになる」
- ⑤ 見通し・計画性の向上(5件)
 

「ゴールのイメージを持って参加できる」「年間の見通しや計画を立てられるようになる」
- ⑥ 新たな気づき・多様な視点の獲得(5件)
 

「新しい発見や気づきがある」「新しい受講者からの視点が学びになる」
- ⑦ 知識・スキルの獲得・更新(4件)
 

「新しい知識やスキルが得られる」「より新しい情報を学ぶことができる」

2025年度 開発教育指導者研修（実践編） 報告書

発行 2026年3月

発行者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

Tel : 052-533-0220（代表） Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>

---

## 第4回



## 実践報告フォーラム

